

郡名	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年	三十九年	四十年
宇治郡	二一六八四	二一六八四	一五二九九	一五二九九	一、一〇八	一、一〇八	七八四	七八四	九〇	九〇	五七	五七	二〇八	二〇八	一三三	一三三	二二〇八二	二二〇八二	一六、七七	一六、七七
久世郡	六九七〇	六九七〇	五二八〇	五二八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、〇七七	一、〇七七	一〇	一〇	八四六	八四六	一〇	一〇	一〇	一〇	八四六	八四六	六、五七	六、五七
綴喜郡	七八四三	七八四三	五、一〇二	五、一〇二	一、五九一	一、五九一	九五五	九五五	七九	七九	二八〇	二八〇	二五三	二五三	二四〇	二四〇	一〇、四八六	一〇、四八六	六、五七	六、五七
相樂郡	八七六〇	八七六〇	七、〇二六	七、〇二六	一、四〇〇	一、四〇〇	一、七七〇	一、七七〇	四六〇	四六〇	一九八	一九八	一八	一八	一八	一八	一、六八〇	一、六八〇	九、〇二	九、〇二
南桑田郡	五七三三	五七三三	三、四四〇	三、四四〇	一、〇四八	一、〇四八	五二四	五二四	一〇	一〇	五	五	一〇	一〇	一〇	一〇	六、七九一	六、七九一	三、九六九	三、九六九
北桑田郡	七八三	七八三	二、六九	二、六九	八五三	八五三	二九〇	二九〇	四一	四一	一六	一六	一六	一六	一六	一六	七、〇七六	七、〇七六	四、三九九	四、三九九
船井郡	四、五二七	四、五二七	二、二二六	二、二二六	一、二二五	一、二二五	五〇	五〇	六四	六四	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	五、八二四	五、八二四	二、七五九	二、七五九
天田郡	四、九〇五	四、九〇五	一、九〇四	一、九〇四	二、一六九	二、一六九	七五七	七五七	一、一四一	一、一四一	二六	二六	一	一	一	一	八、三二三	八、三二三	三、七六八	三、七六八
何鹿郡	四、〇九六	四、〇九六	一、八四三	一、八四三	一、五八九	一、五八九	六八三	六八三	三九〇	三九〇	四七六	四七六	一	一	一	一	六、〇七五	六、〇七五	二、六四三	二、六四三
計	八、四七五	八、四七五	三、〇一一	三、〇一一	四、三六〇	四、三六〇	一、七四	一、七四	一、二九二	一、二九二	七〇四	七〇四	一	一	一	一	二、一八八	二、一八八	三、八八〇	三、八八〇

前記ノ表ハ京都府統計書ニ依ルモノニシテ更ニ各竹種ニ就キ面積、數量、價格等四十二年八月竹林ノ本場タル乙訓郡ニ就キ精密ニ調査セシニ左表ノ如キ結果ヲ生セリ

因ニ記ス尙他郡ニ對シテモ目下調査中ニテ本書編纂ニ間ニ合ハサリシハ遺憾トスル所ナリ

乙訓郡竹林調査表

四十二年八月調

町村名	苦竹		江南竹		黒竹		淡竹		計
	反別	産額	反別	産額	反別	産額	反別	産額	
向日町	一〇四、九六三	一、五七三	一、〇四九	一、五七三	二、一八〇	六、七三	三、七九〇	七、五八四	一〇、九六六
計	一〇四、九六三	一、五七三	一、〇四九	一、五七三	二、一八〇	六、七三	三、七九〇	七、五八四	一〇、九六六

久世村	九六四〇七	一一四三	一八〇〇	二五〇〇〇	五〇〇〇	一四一〇	二二四	九六四〇七
久我村	五、四六〇	一、三六八	一、〇〇九	五、一六二	一、〇九〇	一、〇〇〇	二二四	五、四六〇
羽東師村	七、八五二	一、六四六	一、〇九〇	一、〇九〇	一、〇九〇	一、〇九〇	二二四	七、八五二
淀村	三、七三〇	五三三	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	二二四	三、七三〇
大山崎村	五、四五〇〇	一、五四六五	一、八〇〇	二、五〇〇	五〇〇〇	一、四一〇	二二四	五、四五〇〇
新神足村	八、一七五	一、七、七四八	一、〇九	五、一六二	一、〇九〇	一、〇九〇	二二四	八、一七五
海印寺村	二、七二八	七三三	二、三二〇	一、五〇七	一、二二九	一、二二九	二二四	二、七二八
大原野村	六、八、八二〇	二〇、三四九	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二二四	六、八、八二〇
乙訓村	三、七、五〇六	五、五九四	一、七、五〇七	一、五、三二五	三、九、五	三、〇〇〇	五、四	三、七、五〇六
大枝村	三、一、五、六四	三、九、九	四、九、一六	六、一	七、三、五二	五、四	四、六、七、八、三、三、六	三、一、五、六四
合計	四、八、八、三、四	八、四、三、七、三	二、一、九、二、七	一、八、八、〇	二、二、九、八、一、三	二、六、五、八	一、四、〇、九、〇、一	四、八、八、三、三、六

(因ニ産額ニハ竹材、竹籜、止筍、竹枝ヲ算入ス)

他ノ諸郡ハ今尙ホ調査中ナルモ乙訓郡ニ對照シ其ノ大畧ヲ知ル事ヲ得

第二 栽培法

(一) 竹ノ種類 府下ニ生育スルモノ、ミニテモ之ヲ細別スレハ何十種ヲ以テ數ヘサルヘカラサルト雖モ大別スレハ次ノ四種ナリトス

一、苦竹(真竹) 竹類中其ノ利用最モ廣ク材トシテハ第一建築用ハ勿論、尺度、扇骨、桶繼其他之ヲ細割シテ電燈ノ炭素線ニ用ヒラレ竹類中其質最良ニシテ尤モ上長生育ニ富ム然レトモ太サニ至リテハ江南竹ニ及ハス竹籜ハ多ク包物ニ使用シ其ノ美ナルモノハ下駄及草履表トナシ實用セラル

之レカ變種ヲ左ニ

白皮竹 材其他ハ普通ノ苦竹ト異ナルコトナク之レ只其皮ニ斑点ナク之レ其名稱ノアル所ニシテ下駄表及ヒ草履表トシテ實用セラル

布袋竹 根際ノ節間或ハ地上四尺位ノ節間約一尺乃至二尺波狀ナシ奇形ヲ呈ス下布袋、中布袋ト稱シ共ニ杖、傘ノ柄及釣竿トシテ實用サル

實竹 根際近キ部分中實ニシテ印材又ハ杖ニ用ヒラル

一、淡竹(葉竹) 苦竹ニ次テ多ク栽培スルモノニシテ其ノ質堅ク小細工用ニ細割シ易キヲ以テ提灯ノ骨、籐等ニ適ス筍ハ孟宗筍以上ノ味美アリ

變種黒竹 名ノ如ク竹幹黒色ニシテ美術的竹器トシテ室内裝飾用小細工用トシテ用ヒラレ其他釣竿トシテ輸出大ナリ

斑竹(丹波斑竹、雲斑竹) 竹幹美麗ナル斑紋ヲ生シ産地ニヨリ斑紋ヲ稍々異ニス其ノ主ナル用途ハ釣竿、杖、扇骨、文房具、茶道具、實用裝飾用器具等ナリトス

三、江南竹(孟宗竹) 竹幹他ノ竹種ニ比シ長大厚肉主トシテ筍採取ノ目的ニテ栽培セラル然レトモ竹材トシテモ特種ノ効アリ即花瓶其他厚肉ヲ必要トスル器具及籠類ニ用ヒラル變種ニ龜甲竹、佛面竹等アリ

四、女竹 之レヲ栽培スル者稀ニシテ殆ソト自然ノ者ナリ其質軟弱主ニ團扇ノ骨柄、筆管、煙管、籠等ニ用ユ時トシテハ壁下地等ニ使用スルモ保存期短カシ此ノ種ニシテ竹、箱根竹等アリ

尙ホ庭園用トシテ四方竹、寒竹、唐竹、葉半竹等數多及笹ノ類ニ至リテハ實ニ其ノ種類多キモ本章ノ目的トモサル所ナルカ故ニ茲ニ現今主要ナル竹種ニ就キ之レカ栽培法ヲ逐次述ヘントス

(一) 土質 第三紀第四紀層ノ壤土ニシテ稍々砂礫ヲ混スル地最モ可ナリトス重粘土又ハ砂土及岩石

地ヲ除カハ何レノ土壤ニモ栽培スルヲ得可シ然レトモ竹種ニヨリ或ル者ハ非常ニ肥沃ナルヲ好ミ或ハ多少瘠惡ノ地ヲ厭ハス一般ノ地ニ作付ヲナス事ヲ得例ヘハ苦竹ハ尤モ肥沃地ナル第一等地ニ淡竹ハ二等地ニ孟宗竹ハ三等地ニ於テ完全ニ生育シ恰カモ林木ニ於ケル杉、檜、松ノ土地ニ對スルカ如シ

(三) 竹林ニハ如何ナル土地ヲ適當トスルヤ 土壤ノ如何ニ關セズ先ツ竹材ヲ運搬スルニ困難ニシテ多額ノ費用ヲ要スル地又ハ肥料ノ供給不便ニシテ且ツ不充分ナル地ハタトヒ栽培シ得ルト雖モ經濟上許サ、ルノ地ナリトス其他山頂又ハ屢暴風ノ害ヲ受ル地寒氣甚敷降雪多量ナル地及地下水高キ土地濕潤地及傾斜三十度以上ニシテ作業困難ナル地等ハ栽培ニ適セズト雖モ大抵ノ地ニハ之レヲ栽培スル事ヲ得可シ而シテ平坦地ヨリ多少ノ傾斜アル地ヲ貴ヒ西北ニ面セルヨリモ東南ニ面セル地ヲ以テ一般ニ適地ト認ム又傾斜地ハ平坦地ニ比シ經濟上仕事ヲナスニ便ニシテ且ツ竹林栽培上尤モ注意スヘキ排水自然的ニ行ハル、ヲ以テナリ

(四) 新タニ竹林ヲ立ツル場合 今林野ヨリ竹林ニ更新セントセハ前述ノ如キ適地ヲ撰定シ開墾植付、施肥、土入、除草等ノ作業ヲナサ、ルヘカラス次ニ順次説明セハ左ノ如シ

(イ) 開墾 土地ノ撰定ヲ了シタル時ハ第一開墾ヲナサ、ルヘカラス即チ之ヲ爲スニ先チ約一ケ年以前立木及雜草ヲ切り拂ヒ置キ翌年ニ至リ開墾スルヲ宜シトス而シテ其開墾ノ方法ハ草木ノ根株ヲ悉皆除去シ約八寸以上ノ深サニ於テ丁寧ニ掘リ起シ要ス而シテ之レニ要スル費用ハ土地ノ狀況及開墾ノ深淺ニヨリ異ナレトモ一坪ニ付キ貳錢五厘以上拾錢ヲ要ス然レモ要ハ植付地拵ト鞭根發育ニ便ナラシムルカ爲メナルカ故ニ其ノ目的ヲ以テ可成經濟的ニ行フヲ要ス依テ時トシテハ全部開墾セスシテ植付ヲナスヘキ個所ヲ点々即チ植付ニ要スル穴ノミヲ直徑四尺位ノ大サニ開墾シ翌年根付タル上其ノ鞭根ノ生育シタル程度ニ從ヒ開墾シ第三年目ニ至リ全部開墾スル事アリ

(ロ) 母竹ノ撰定 母竹ノ撰定ハ造林ニ於ケル苗木ノ撰定ト同シク最モ注意セサルヘカラス第一新竹ニシテ然モ長大ニ失セサル中樑(周圍三寸乃至五寸)ノモノニテ完全ニ發育ヲナス者ヲ撰ヒ而シテ掘リ取りノ際枝ハ四五節ヲ附シテ其ノ尖ヲ切斷シ鞭根ヲ傷ケサル様竹幹ヲ中心トシ丁字形ニ各一尺以上ヲ付シテ根ヲ掘リ取り而カモ之レニ附着スル鞭芽ノ完全ニ有ルヤ否ヤヲ檢スルヲ要ス鞭芽ハ之レカ生育シテ新竹トナリ地下莖(鞭根)トナルモノナルカ故ニ若シ完全ニ附着セサルトキハ例令ヒ植付ケ後根付クト雖モ母竹一代ノ餘命ヲ送ルニ不過シテ毫モ繁殖ヲ成サス只肥料ヲ吸收スルノミナルカ故鞭芽ノ附着狀態ヲ注意シ觀察セサルヘカラス

(ハ) 植栽時季及本數 植栽時季ハ春三月初九、十ノ兩月二季ニ行フヲ常トスレモ時トシテハ梅雨ノ候ニ植ユル事アリ然レモ春季及秋季ヲ宜シトス而シテ母竹ノ本數ハ多キ程早ク蔓延シテ成林トナルヘシト雖モ普通母竹一本ノ價格拾五錢位ナルヲ以テ餘リ多キ時ハ經濟上不利益タルヲ免レス而シテタトヒ少數ナリト雖モ完全ナル母竹ヲ用ユル時ハ其ノ割合ニ成林トナル遲キニアラス故ニ完全母竹ヲ用ユルモハ一反歩百本内外ヲ以テ充分ナリトス

(ニ) 植栽方法 之レヲ植付クルニハ方形或ハ長方形トナシ而シテ可成鞭根ト土ト密着セシムル方法ヲ講セサルヘカラス其ノ深サハ母竹ヲ掘リ取りタル際ノ深サヲ程度トシ可成大ナルヲ要ス即チ根株ヲ入レ尙ホ少シシ餘裕アラシメ密着セシムル方法トシテ掘リ起シタル穴ニ水ヲ入レ泥土水トナシ母竹鞭根ノ方向傾斜線ニ直角ニ而シテ土地傾斜ノ如何ニ關セス唯タ鞭根ヲ地表ト平行セシメ泥土水中ニ差入レ土ヲ少シク入レツ、棒ヲ以テ突き込ミ塵芥ノ入ラサル様注意シ掘リ上ケタル土ヲ以テ堅ク押ヘ尙ホ乾燥ヲ防クカ爲メ藁及下草ヲ其ノ上ニ被ヒ又風ノ爲メ母竹ノ動搖セサル様支柱ヲ與ヘ置クヲ要ス

第三 植栽後ノ手入及保護

植栽後乾燥ノ憂アルト認ムルトキハ時々灌水又ハ稀薄ナル肥料ヲ施シ尙ホ怠ラス除草ヲ行フヘシ其他支柱ノ結ヒ換ヘ等管理ニ周到セラサルヘカラス第二年目ニ至リテハ地下莖ノ發育狀態ニ鑑ミ敷草及土入ヲ行ヒ鞭根ノ伸長ヲ促サ、ルヘカラス尙ホ漸次施肥ヲ多クシ殊ニ此ノ年ハ除草ニ注意ヲ要ス第三年目(秋植ノモノト見テ)ニ至リ初メテ新竹二三本ノ發生ヲ見ルニ至ル尙ホ引續キ敷草土入ヲ行フ時ハ良好ナルモ普通此年ハ經濟上之ヲ止メ施肥ヲ多クシ除草ハ前年ノ通トス第四年目ニ至リテハ新竹ノ發生更ニ多ク八九本或ハ十三四本ヲ生ス而シテ手入ハ第二年目ト同シ敷草土入ヲ行ヒ施肥ハ又前年ヨリ尙多クシ除草ニハ漸次容易トナル第五年目ニ至ラハ新竹ノ發生多クシテ全林ニ疎立スルニ至ル其手入法等ハ後ニ記ス所ノ完全苦竹林ト同シキ保護手入ヲナシテ可ナリトス然シテ斯ノ如ク施業ヲナス時ハ普通第十年ヲ經テ完全ナル苦竹林トナル(保護手入尙完全ナル時ハ七年ニシテ完全ナル竹林トナスヲ得可シ)現今普通行ハル、方法ハ先ツ孟宗林ヲ作り早クヨリ籐ノ收入ヲ得十數年ノ後ニ至リテ其間ニ苦竹ヲ植付ケ或ハ近隣ノ苦竹林ヨリ喚ヒ寄スルモノトス之レ孟宗林ハ籐ヲ得ルノ目的ナルヲ以テ肥料ヲ充分ニ施シ且ツ其ノ手入等苦竹林ニ比シテ一層完全ナルヲ以テ土地非常ニ肥ヘ且ツ其土壤柔カキ故ニ苦竹ノ發育佳良ナルヲ以テ籐ノ收入ヲ得ツ、苦竹ノ成林トナスヲ得可キヲ以テナリ

墻籬 墻籬ハ其ノ所有境界ヲ明カニスルト一ツハ盜伐其他ニ必要ナリト雖モ府下乙訓、葛野兩郡ノ如キ一帶ノ竹林ニ至リテハ其ノ所有境界ヲ示スニ止マル位ノ垣ヲ作ルノミ然レモ農耕地其他ト接スル竹林ニ至リテハ墻籬ニヨリ林内ニ日光ノ直射ヲ防クト防風ノ作用ヲナスカ故ニ尤モ必要ナリトス墻籬ノ種類ハ普通竹枝ヲ以テスルカ其ノ近傍ノ生竹ヲ攪メ生垣トナスモノ或ハ常綠闊葉樹又斜葉樹特ニ檜ヲ以テスルモノアリ此生竹ヲ攪メテナスモノハ病害ニ罹リ易ク從ツテ病害蔓延ノ媒介ヲナスヲ以テ好マシカラス特ニ蔓自然枯ノ如キニ在リテハ最モ然リトス又常綠闊葉樹ヲ以テスルモノニアリテモ目下齋

田博士ノ研究中ニテ斷然茲ニ云フ能ハサルモ「シニ」ト稱スル病害ヲ媒介スルノ疑ヒアリ故ニ竹枝若クハ針葉樹ヲ以テスルヲ安全良策ナリト云フヲ得ヘキカ他日研究ヲ俟ツテ公表スル所アルヘシ

第四 完全苦竹林ノ手入法

各地到ル所多少其栽培法ヲ異ニスレトモ府下中最モ集約ニ行フ乙訓、葛野兩郡ニ就キ述ヘン

(イ) 施肥人糞尿ヲ主トシ厩肥、油粕、鳥糞其他大抵ノ肥料ハ施ス事ヲ得然シテ之ヲ施スニハ農閑ノ時期ヲ利用スト雖モ其時期ハ肥料ノ種類ニ依リ異ナルナリ速効肥料ニ在リテハ普通籐ノ成竹トナリタルノ時除草後(七月下旬)速効肥料ニ在リテハ冬季十一月下旬ヨリ翌年三月迄ノ間ニ於テ施ス其他土地ノ理學的性質ヲ良好ニシテ地下莖ノ發育ヲ完全ナラシムル爲メ二年若クハ三年毎ニ柴草及藁等ヲ林内ニ布キ冬季其ノ上ニ土置ヲ成ス

(ロ) 土入(土置トモ云フ)此目的ハ林内ニ散布シタル藁若クハ柴草ノ腐朽ヲ助クルト同時ニ其土地ヲ柔軟ニセシムルモノトス殊ニ鞭根ハ地表ニ近ク蔓延スルモノナルヲ以テ之レカ發育上有効ナニ此土入ヲナス時ハ新シキ鞭根ハ常ニ上部ニ蔓延スルヲ以テ古キ鞭根ト錯雜スルヲ防クノ効アリ而シテ此事業ニ要スル土ハ林内ノ高所ヲ掘リ取ルカ或ハ林内ノ一方ヨリ順次一、二尺ノ深サニ掘リ取り其跡地ニハ母竹ヲ植付クルヲ以テ或ル年間ノ後ニハ全ク全林ヲ更新スルヲ得ヘシ

(ハ) 除草 普通六月上旬、夏土用、秋季各一回之ヲ行フ容易ナルモノナリ

(ニ) 籐發生 六月中旬發生シ七月下旬ニ至リ脱籐シ新竹トナル發生ノ時季ニ就キ注意スヘキハ止リ籐堀リ取り及姥竹ト稱スル惡變種ヲ堀リ取り可成立竹トナサ、ルヲ要ス止リ籐トハ養分不足又ハ害虫ノ爲メ成竹トナル能ハサルモノナルヲ以テ之レヲ堀リ取り籐トシテ利用シ一方ニハ他ノ籐ノ發育ニ便ナラシムルモノナリ

(ホ) 止り箱ノ鑑別法 熟練ナル者ハ一見其ク之ヲ知リ得ヘキモ經驗ナキ者ニ在リテハ之レカ鑑別ハ又困難ナリトス之ヲ知ラントスル場合ハ發生ノ最初ニ於テ箱全部其傍ラニ其全長ト等シキ目標(麥稈)ヲ立テ置キ二、三日ヲ經テ其成育ノ度ヲ目標ニヨリテ知ル伸長セサルモノ又ハ其ノ伸長遅々タルモノハ之レヲ止り箱トス又害虫ハ箱ノ頭部ニ寄生スルモノ多キヲ以テ其頭部ノ五、六葉ノ皮ノ固ク卷キタルモノハ此害無ク然ラサルモノハ多クハ此害ニ罹レルモノトス然レトモ己ニ四、五尺ニ生長スル時ハ止り葉ハ何レモ開キ居ルヲ以テ其鑑別シ難キモ四、五尺ニ生長シタルモノハ箱トシテ食用ニ供スル能ハス故ニ二、三尺位ニ至ル迄ニ之レヲ鑑別シテ利用スルモノトス

(ヘ) 姥竹ノ箱中ニ於ケル鑑別法 熟練ノ結果之レヲ良ク知ルト雖モ之レヲ知ラント欲セハ箱ノ二、三尺ニ伸ヒタルトキ皮色ニヨリテ鑑別スルモノトス即チ苦竹トシテ成立スル獨特ノ箱ハ其ノ籜色黒クシテ光澤アリ又姥竹トナルヘキモノハ其色褐色ヲナシ俗ニ赤味ヲ帯ヒルト云フ又最初ニ發生スル箱ハ此ノ姥竹多キカ爲メ堀リ取ルノ必要アリ因ニ云フ姥竹ヨリ發生スル箱ハ多クハ姥竹ニシテ其材質纖弱殆ント利用スルニ足ラス從ツテ價格モ普通ノ竹ノ三分ノ一位ナリトス且ツ姥竹ハ材質前述ノ如クナルヲ以テ蔓自然枯ニ罹リ易キカ故其病害豫防上ヨリ見ルモ之レヲ堀取ルノ必要アリトス

(ト) 竹籜 六月下旬箱發生シテヨリ十日ヲ經スシテ根際ヨリ晚籜ヲ初ム即チ最初ノ三、四枚ヲ「龜」ト云フ又之レヨリ三、四枚ヲ元籜ト云ヒ之ヨリ二十五、六枚ヲ卷皮ト稱シ竹籜中最モ良好ナルモノトス之レヨリ先ヲ末籜ト云フ末端三、四枚ヲ筴(又ハ龜甲)ト稱シ籜細工ノ原料トシテ貴ハル價格又廉ナラス又枝ヨリ落ツルモノヲ枝籜ト稱ヘ筴ト同シク下駄及草履ノ表其他籜細工ノ爲メ拾フモノナリ而シテ拾ヒタル籜ハ順次乾燥セシメサルヘカラス即チ地上ニ竹或ハ之レニ代用スヘキモノヲ横タヘ之ヲ枕トシ整理シ日光ノ力ニヨリ乾燥ス採收ノ際ハ可成雨ニ當テサル様注意スル

ヲ要ス然ラサル時ハ腐リ易ク且ツ光澤ヲ失フ乾燥シタルモノハ小束トナシ而シテ之レヲ又大束トシ荷造リスルモノトス

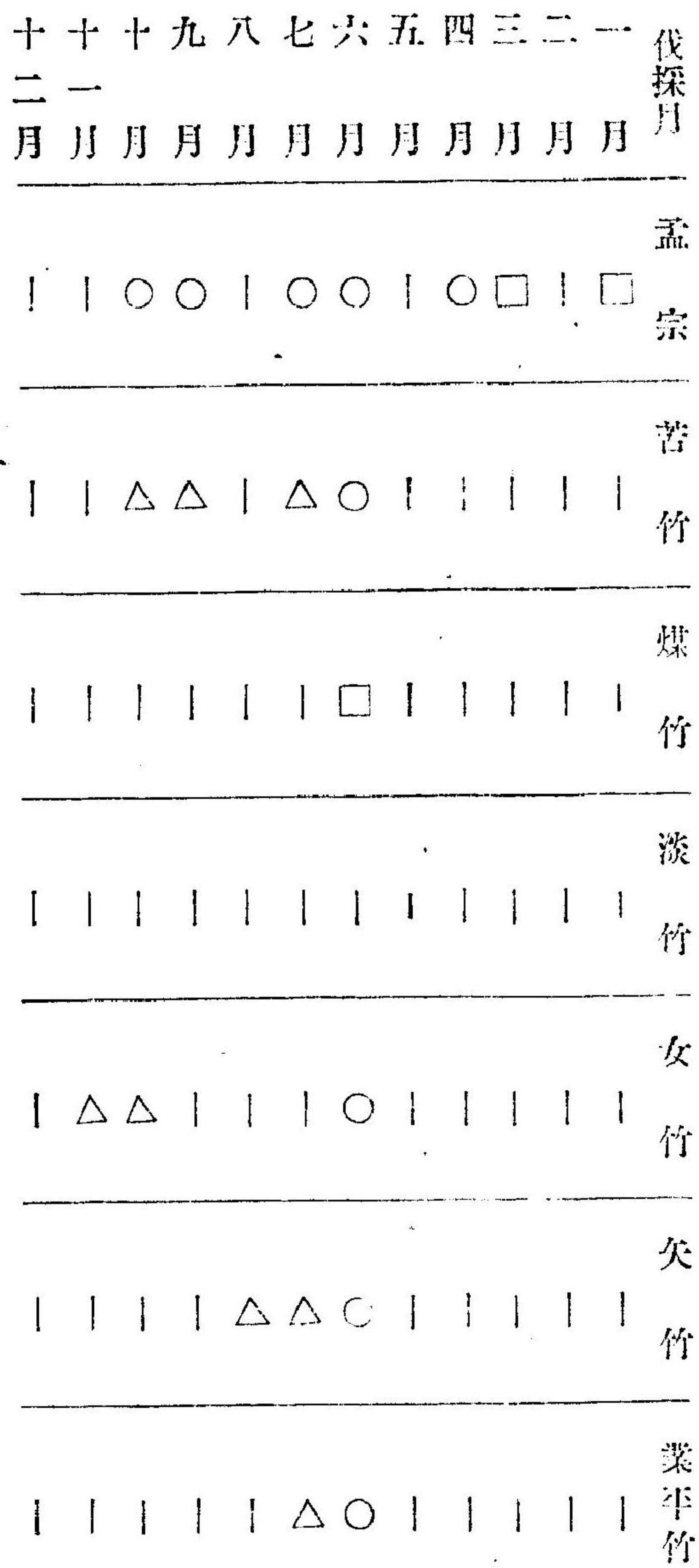
第五 伐竹

夏季及秋季ノ二季ニ熟練セル人夫ヲ雇入レ隔年或ハ毎年代伐竹ヲ行フモノニシテ普通胸高周圍八寸以上ノモノハ鋸ヲ用ヒ七寸以下ハ鉋ヲ以テ周リ切り或ハ一方ヨリ切斷ス而シテ竹切鎌ヲ用ヒ竹幹ヲ傷付ケサル様枝ヲ切り拂ヒ一定ノ場所ニ集メ結束スルモノトス此枝拂ハ最モ熟練ヲ要スルモノニシテ其方法トシテハ杉槍ノ枝打ノ如ク先ツ幹ニ沿フテ逆ニ一刀ヲ入レ而シテ上ヨリ打拂ヲ要ス然ラサレハ枝ヲ拂フト共ニ皮ヲ剥キ竹幹ヲ傷ケ其品質ヲ不良ナラシム而シテ地方實驗家ノ言ニ徴スルニ夏季之レヲ伐採スル時ハ其次年ニ發生スル新竹ハ其本數多キモ幹材細ク且ツ短クシテ其品質母竹ヨリ漸次劣等トナルノ傾向アリ又秋季伐採シタル時ハ以上ノ如キ弊害無ク尙ホ伐竹シタル幹材ニ對シ虫等ノ侵害スル事極メテ稀ニシテ伐竹ノ末期ナリト云フ此ノ伐期ト虫害ノ關係ニ付テハ三村林學士ノ實驗報告セラレタルモノアリ本府ニ於テモ目下之カ研究中ニ屬ス左ニ參考ノ爲メ三村林學士ノ研究セラレタルモノヲ掲ク

竹類伐採時期ト害虫寄蝕ノ關係
東印度地方ニテハ月夜ノ期日ニ伐採シタル竹ニハ害虫ノ被害ヲ受クルモ之レニ反シ闇夜ノ期日ニ伐採セルモノニハ其ノ害ナシトノ説アリ又我邦ニテハ竹ハ伐採時ノ香氣カ原因トナリテ害虫ヲ生スルモノトノ説アレハ試ニ是等ノ實否ヲ驗センカ爲メ明治三十三年以降諸種ノ竹材虫害試驗(竹材含有物ト虫害防虫劑注入ト虫害)ヲ行ヒタリ其ノ方法ハ毎月苦竹、孟宗竹、煤竹、淡竹、女竹、矢竹、葉平竹、ノ類ヲ月夜ト闇夜トノ期日ニ伐採シ其ノ一部ハ虫類ノ入り得サル箱内ニテ乾燥シ一部ハ其儘乾燥シテ後室内ニ置キシニ三十八年ニ至ルモ虫害ヲ認メス仍リテ同年「アノビニム」類ノ害虫ト共ニ全部ヲ養虫

箱ニ入置シニ左表ノ如ク三十八年八月ニ至リ〇印ノ月ニ伐採セシ竹ニハ害虫ヲ認メタリ又翌三十九年五月ニハ□印ノ月ニ伐採セシモノト同九月ニ反ヒ△印ノ月ニ伐採セシモノトニ虫害アルヲ認メタリ此ノ實驗ニヨレハ竹材ノ伐採期如何ハ多少害虫ニ關係アリタルヲ知ルモ前述ノ如キ月ノ明開如何ニハ別段ノ事ナク又伐採當時ノ香氣カ虫害ノ原因タルヘキ兆候ヲモ認メス

アノビニーム害虫ト竹材ノ被害



第六 短冊形更新法

非常ニ荒廢セル竹林及天然ニ蔓延セル苦竹及淡竹等ノ竹林ニ在リテハ充分ニ肥料ヲ施シ土入ヲ行フ等保護手入ヲナス時ハ稍々一人前ノ竹林トナルヲ得可シト雖モ長キ年限ト巨額ノ費用ヲ要スルヲ以テ短冊形更新法ニ依ルヲ宜シトス此ノ方法ハ傾斜地ニ在リテハ其傾斜面ニ直角ノ方向ニ平坦地ニ在リテハ南北方向ニ六尺乃至九尺毎ニ區劃シ其ノ區劃チ一ツ置キニ存在セル竹ヲ皆伐シテ深ク開墾シ其鞭根ヲ悉皆除去シ之レニ厩肥其他柴草ヲ厚サ一尺以上ニ施シ置ク時ハ其兩側ノ區劃ヨリ鞭根蔓延シ來リテ新竹ヲ發生ス此時人糞尿ノ如キ速効肥料ヲ施シ其發育ヲ充分ナラシメ而シテ三ヶ年若クハ四ヶ年ヲ經テ前ニ開墾セル區劃チ伐採開墾シ施肥スル時ハ又兩側ヨリ新竹ノ鞭根蔓延シ來リ遂ニ更新スルヲ得ヘシ

第七 病虫害

(イ) 虫害 虫害トシテハ夜盜虫、針金虫(叩頭虫)其他伐竹シタル竹材ヲ侵スル穿孔虫等ニシテ夜盜虫ハ主ニ黑竹、淡竹ニ其ノ害ヲ見ル所ニシテ苦竹ニハ殆ント稀ナリ即チ幼虫時代ニ於テ筍發生期中未ダ地中ニアル際箱ノ横或ハ尖端(俗ニ尖リト云フ)ヨリ侵入シ上方或ハ下方ノ節ヲ侵食シ俗ニ止リト稱スル筍トナル針金虫ノ侵害モ前者ニ同様ニシテ驅除法トシテハ止リ箱堀取りノ際ニ注意シ捕殺ヲナスカ或ハ蛾ノ時代ニ誘蛾燈又ハ糖蜜誘殺法ヲ用ヒルカ又ハ夜盜虫ノ敵虫タル寄生蜂及蟻等ノ保育ヲナシ驅除スルモノナリ針金虫ハ之レカ嗜考スル燕苔或ハ馬鈴薯ヲ諸所ニ散布シ其ノ上ヲ切レ板等ニテ覆ヒ置キ集マルヲ見テ之レヲ捕殺スヘシ穿孔虫ハ硫黃ノ熏煙ニヨリテ防ク事ヲ得殊ニ黑竹ニ之レヲ行フ

(ロ) 病害

一、蔓自然枯病 該病ハ府下一般ニ蔓延シ近年殊ニ其ノ病害甚敷之レカ爲メ筍ノ發生惡シク且ツ竹材ノ價值ヲ減シ或ハ絶滅ニ歸セシメントスルモノアリ即チ斯病ハ一種ノ黑穗菌ノ寄生作用(白井

農科大學教授ノ説ニ依レハ一種ノ黑穗菌ノ寄生ニ依ルモノト否ラサルモノトアリト然レトモ目下研究中ニ在ルヲ以テ暫ク其公表ヲ待ツ)ニヨリテ起ルモノニシテ初メハ林ノ周圍ニアル老竹、姥竹等之レニ罹リ漸次林内ニ浸入シ竹ノ枝葉細少ナル蔓狀ニ變リ普通ノ葉ハ脱落シ一見良ク之ヲ區別スルコトヲ得之レカ豫防驅除法ニ就テハ明治四十年七月京都府訓令第四十號及第四十二號ニ詳細載上セルニヨリ之レヲ省ク

一、煤自然枯病 蔓自然枯ニ煤病菌ノ寄生シタルモノニシテ其驅除ニ對シテハ藥品ヲ以テスル事等到底實際ニ行フ能ハサルニ依リ蔓自然枯ト同様伐採スルヲ要ス

一、シニ 竹幹ノ節部ニ寄生シ殊ニ苦竹林ニ多シ即チ四五尺頃地上四五尺位ノ節ニU字形ノ黃褐色ノ胞子現ハレ其箇所ハ竹幹暗黒色ニ變シ腐朽シ竹幹ノ價格ヲ減ス之レカ驅除法豫防法ニ就テハ齋田博士ノ研究中ニ屬シ茲ニ述フル能ハサルハ遺憾トスル所ナルカ地方ニ於ケル熱心家ハ其ノ部分ニ石油ヲ塗リ其効アリト稱シ居レリ

一、水枯病 病源ニ就テハ現今調査中ニテ之ヲ詳ニ知ル不能ト雖モ其病狀ハ竹葉漸次枯凋墜落シ枝幹共漸次暗褐色トナリ遂ニ黒褐色ニ變シ節間特ニ地上ヨリ約二十節許ノ間ハ水ヲ有ス而シテ之レ



蔓自然枯被害竹

ヲ縱斷スルトキハ内側何等變色スル事ナク又其水ハ尤モ滑淨ナル水ニシテ地上ヨリ二十五六節ノ處ニ其ノ内側變色セル一節アリテ菌絲及其他ヲ見ル而シテ之レヲ伐採スル時ハ二、三時間乃至四、五時間ニシテ根株切口ヨリ盛ニ泡ヲ吹キ出ス該病ハ其ノ季節殆ントナク四時侵サル、カ如シ然レトモ春季三月頃ヨリ四、五月頃迄尤モ多ク侵サル、ヲ見ル

一、葉枯病 地方ニ依リ竹虎刺刺ト稱シ完全ナル竹ヲ一、二晝夜ノ内ニ全部其ノ葉ヲ枯凋スル竹幹節内ニ水在ル事ナク又切口ヨリ吹き出ス等ノ事ナシ

自然枯

開花結實後枯死スルモノニシテ之レ又研究中ニ屬シ白井博士ノ如キハ黑穗病菌ノ寄生ノ爲メ開花ヲ促スニアラサルヤノ疑アリト云フ(開花結實スルモノハ多少此菌害ニ侵サル、モノヲ見ルモ詳細ニ調査スルトキハ又全ク此菌害ヲ蒙ルモノナクシテ開花結實スルモノアリ暫ク大家ノ研究ニ待ツ)然レトモ今日迄ノ研究シタル結果(或ハ間違ナランモ)ニ依レハ竹ノ生理的作用ヲ發揮スルモノニハ非ラサルカ即チ竹ハ禾木科植物ノ一ニシテ開花結實後枯死スルハ此ノ科ノ通則ナリトス而シテ此ノ被害竹ノ善後策トシテハ忘ラス第一全竹ヲ伐倒シ手入施肥ヲナシ新竹ノ發生ヲ促スニアリ開花ノ翌年ハ笹様ノ小竹ノミニテ成立スルモ尙ホ又自然枯トナル而シテ三年ヲ經ルニ從ヒ開花ノ現象ヲ減少シ漸次完全ナル竹幹ニ恢復スルモノトス此ノ豫防法ニ就テモ目下研究中ニ屬スルモノ一策トシテハ混交林ヲ作ル場合アリ即チ苦竹ト淡竹ヲ混スルヲ可トス之レ古來ヨリ傳説及記録ニ徴シ苦竹ト淡竹トハ自然枯ニ罹ルノ時季異ナルヲ以テ全林此害ニ罹リ收穫皆無ナル事ナケレハナリ

一、風雪ノ害 竹林被害中病虫害ヲ除キ尤モ恐ルヘキモノハ風雪ノ害ナリトス風害ニ對シテハ防風林ヲ設クルヨリ他ニ方法ナク雪害ハ春季ノ積雪尤モ大ニシテ甚ダシキニ至リテハ全林ノ半以上挫

折スル事アリ而シテ此ノ害ニ對シテハ降雪中若クハ降雪後其枝葉ノ堆積スルモノヲ振ヒ落シ又ハ長棹ヲ以テ之レヲ拂ヒ落ス彼ノ石川縣地方ニ行ナハル、雪卷ノ如キハ行フモノナシ之レ降雪僅少ナルヲ以テナリ

第八 完全苦竹林ノ立竹數及其伸長

完全苦竹林ノ立竹數ヲ各地ニ就キ調査シタルモノヲ掲ク

葛野郡嵯峨村字野々宮 所有者 風間 八左衛門
苦竹林(標準地)一町步 (胸高周圍七寸ノ者ニシテ長サ四十八尺)

計	二年生	胸高周圍 四寸	本數	九〇〇
	三年生	胸高周圍 七寸	本數	九〇〇
計	四年生	胸高周圍 七寸	本數	九〇〇
	五年生	胸高周圍 六寸	本數	九〇〇
計	六年生	胸高周圍 六寸	本數	九〇〇
	七年生	胸高周圍 六寸	本數	九〇〇
計	八年生	胸高周圍 六寸	本數	九〇〇
	計			四六〇〇

葛野郡嵯峨村字野々宮 所有者 大八木角右衛門
苦竹林(標準地)一町步 (胸高周圍八寸五分ニシテ長サ六十三尺)

計	二年生	胸高周圍 八寸	本數	一〇〇〇
	三年生	胸高周圍 五寸	本數	一〇〇〇
計	四年生	胸高周圍 八寸	本數	一〇〇〇
	五年生	胸高周圍 六寸	本數	一〇〇〇
計	六年生	胸高周圍 六寸	本數	一〇〇〇
	七年生	胸高周圍 六寸	本數	一〇〇〇
計	八年生	胸高周圍 六寸	本數	一〇〇〇
	計			六二〇〇

葛野郡松尾村大字松室小字地家 所有者 小田 市兵衛
苦竹林(標準地)一町步 (胸高周圍八寸ニシテ長サ五十三尺)

計	二年生	胸高周圍 七寸	本數	四二五
	三年生	胸高周圍 七寸	本數	四二五
計	四年生	胸高周圍 八寸	本數	四二五
	五年生	胸高周圍 八寸	本數	四二五
計	六年生	胸高周圍 七寸	本數	四二五
	七年生	胸高周圍 七寸	本數	四二五
計	八年生	胸高周圍 七寸	本數	四二五
	計			四四八二

葛野郡松尾村大字上山田 所有者 大八木 米次郎
苦竹林(標準地)一町步 (胸高周圍八寸竹ニテ長サ五十二尺)

計	尺一寸	九寸	七寸	周圍本數	二年生	三年生	四年生	五年生	六年生	七年生	八年生	計
					1036	1016	1016	1016	1016	1016	1016	

苦竹林(標準地)一町步

計	尺一寸	八寸	七寸	六寸	二年生	三年生	四年生	五年生	六年生	七年生	八年生	計
					1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	

苦竹林(標準地)一町步

乙訓郡大原野村字大原野 所有者 畑 萬次郎
(胸高周圍九寸ノモノ) 二ノ長ヲ五十八尺)

計	尺一寸	八寸	七寸	六寸	二年生	三年生	四年生	五年生	六年生	七年生	八年生	計
					1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	

苦竹林(標準地)一町步

計	尺一寸	九寸	八寸	七寸	六寸	二年生	三年生	四年生	五年生	六年生	七年生	八年生	計
						1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	

乙訓郡大枝村

乙訓郡大枝村 所有者 神田菊之助

以上現今行ハル、所ノモノニシテ往古ヨリ尺以上ニ限リ變化アリタルカ如シ即チ今ヨリ十年前ニ在リテハ一尺一寸ノ竹ヲ以テ一束トシ尙夫レ以前ニ在リテハ一尺ノ竹ヲ以テ一束トシタルカ如シ而シテ四寸以下ハ尻込ト稱シ見計ヒテ束ヲ定ム尙以上ノ外七本、八本、十二本ヲ以テ一束トナスコトアリ以上大別シテ六寸以上ヲ太物ト稱シ六寸以下ヲ六寸以下ト稱ス

同	尺一寸	一本二分五厘ヲ以テ一束トス	同
同	尺	一本半ヲ以テ一束トス	同
同	九寸	二本ヲ以テ一束トス	同
同	八寸	三本 同	同
同	七寸	四本 同	同
同	六寸	六本 同	同
同	五寸	十本 同	同
同	四寸	十六本 同	同

第十三 販路及運搬

地方ノ仲買人ノ手ヲ經テ京都、大阪、神戸地方ノ竹商人ニ賣買スルヲ常トス而シテ之レカ一旦京都、大阪、神戸ニ至リ需用者ノ手ニシテ竹材其儘又ハ竹製品及之レカ原料トシテ一般内地需用者ハ勿論諸外國殊ニ米、英、獨、佛ニ輸出スルモノナリ運搬ハ副産物ニアリテハ容易ナルモ竹材ニ至リテハ其ノ長キヲ費フモノナルカ故ニ比較的困難ナリトス即チ黒竹其他ノ短少ナル竹類ノ如キハ滾車便ヲ藉リテ運材スルヲ得レモ苦竹ニ至リテハ水運(竹筏)又ハ荷車ニ據ルモノトス阪神地方ニハ桂川淀川河岸迄ハ荷車ヲ用ヒ之レヨリ水運ニヨリ筏トシテ容易ニ輸送シ得可キヲ以テ割合運賃廉價ナリトス之レニヨ

リ市場價格ハ山元價格ノ貳倍ヲ超ユル事殆トナシ合當地ニ用ユル筏ノ一般ヲ示セハ次ノ如シ
桂川筋ト泥川筋トハ其ノ編組ヲ異ニス桂川筋ニ於ケルモノハ長サ約十五六間(竹ノ長サニ依リ多少ノ差異アリ)巾壹間ニシテ其ノ束數六十束乃至八十束ナリ其ノ編組ノ方法次ノ如シ

- 鼻竹 四本壹束ノモノナレハ八束六本ノモノナレハ七束ナリトス
- 壹番棚 拾束乃至拾貳束
- 貳番棚 拾貳、參、束
- 參番棚 拾四、五、束
- 四番棚 拾四、五、束
- 五番棚 七、八束

鼻竹ヨリ壹番棚ノ距離ハ約五間ニシテ以下ハ普通貳間トス而シテ鼻竹ト壹番棚トノ間ニ貳束ヲ乘セ運搬ノ際筏士ノ通路トス之レヲ「アユミ」ト云フ

而シテ之レ等各棚ノ繼キハ周圍五寸位ノ竹ヲ二ツ割トシ上下ヨリ横へ藤蔓ヲ以テ連絡スルモノトス泥川筋ノモノ左ノ如シ
長巾共桂川筋ノモノト同一ナレモ其ノ編組ノ方法異ナリ從ツテ其束數多ク百束内外トス編組ノ方法ハ桂川筋ノモノニ於ケル鼻竹ト稱スルモノナク約三尺隔ニ順次積累スルモノトス連結方法ハ前ト同シ流筏ハ凡テ壹枚ハ一人乗トス而シテ以上ノ如ク編組シテ淀ニ至リ更ニ大筏ニ組換スルモノトス現今ニ於ケル流筏ノ賃金ハ左記ノ如ク山城竹商組合ノ定ムル所ニヨリ實行セラル、カ如シ

竹筏運賃表 (筏編組費ハ流筏人ノ負擔トス)

桂川筋	壹錢	壹厘
一松尾村地内	貳錢	壹厘
一谷川筋	壹錢	七厘
同	壹錢	七厘

第六章 竹林經營

二十四年	四四一,100	二一九,700	二二五,000	一四一,500
二十五年	四四一,100	一五六,100	二八五,000	一七九,900
二十六年	四四一,100	一五六,100	二八五,000	二二四,210
二十七年	四四一,100	一五六,100	二八五,000	二六〇,四八五
二十八年	四四一,100	二一九,900	二二五,000	二九六,八〇四
二十九年	四四一,100	一五六,100	二八五,000	三三三,〇九五
三十年	四四一,100	一五六,100	二八五,000	三九二,九六一

造林栽培法支出調査

(一町步)

第一年	造林手入				
金百貳拾圓	開墾費	一坪二付	金四	錢	
金百貳拾圓	種竹八百本	一本二付	金拾	錢	
金貳拾圓	植付人夫四十人	一人二付	金五	錢	
金貳拾圓	母竹八百本ニ對スル 支柱代	一束二付	金參	錢	
金八圓拾錢	糞二百七十束	一荷二付	金六	錢	
金貳拾四圓	人尿尿 四十荷	一荷二付	金五	錢	
金拾壹圓貳拾錢	施肥 糞除草 人夫 (男三十人、女六十人)	男一人二付	金貳拾七	錢	
金六拾圓	借地料	女一人二付	金貳拾七	錢	
計 四百參圓參拾錢					
第二年	人糞尿 六十荷	一荷	金全	上	
金參拾六圓	土入 三〇〇〇荷	一荷六厘	母竹ノ探廻リノミ全地ノ約三分ノ一		
金拾八圓	敷草 二〇〇〇貫	中乾燥 一貫目ニ付壹錢參厘	母竹ノ探廻リノミ		
金貳拾六圓					

金參拾貳圓七拾錢	(男二十五人、女七十五人)	除草施肥敷草均布其他管理人夫	一荷三付	金同	上
金六拾圓	借地料				
計 百七拾貳圓七拾五錢					
第三年	人尿尿 七十荷	除草施肥其他管理人夫	一荷三付	金同	上
金四拾貳圓	(男十五人、女六十人)				
金貳拾參圓七拾錢	借地料				
金六拾圓	借地料				
計 百貳拾五圓七拾錢					
第四年	土入 八〇〇〇荷		一荷三付	金同	上
金四拾八圓	敷草 六〇〇〇貫		一貫目	金同	上
金七拾八圓	(男五人、女五十人)	除草敷草均布糞拾及乾燥其他管理人夫			
金拾六圓	借地料				
金六拾圓	借地料				
計 貳百貳圓					
第五年	人糞尿 百荷		一荷三付	金同	上
金六拾圓	(女四十五人、男十人)	除草糞拾及乾燥并止符堀其他管理人夫			
金拾六圓六拾九錢	借地料				
金六拾圓	借地料				
計 百參拾六圓六拾九錢					
第六年	人糞尿 百荷		一荷三付	金同	上
金六拾圓	(女四十七人、男十人)	除草糞拾及乾燥并止符堀其他管理人夫			
金拾八圓四拾參錢	借地料				
金六拾圓	借地料				
計 百參拾八圓四拾參錢					

第六章 竹林經營

第六章 竹林經營

一四四

第七年

金六拾圓 人糞尿百荷 一荷二付 金同 上

金壹圓五拾錢 伐竹(母竹)代

金貳拾圓五拾錢 (男十八、女五十七人) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金六拾圓 借地料

計 百四拾壹圓八拾九錢

第八年

金四拾八圓 土入 八〇〇〇荷 一荷二付 金同 上

金七拾八圓 敷草 六〇〇〇貫 一貫目二付 金同 上

金拾八圓七拾錢 (男五人、女六十八人) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金六拾圓 借地料

金壹圓五拾錢 伐竹十駄代 一駄二付伐竹 金拾五錢

計 貳百〇六圓貳拾錢

第九年

金六拾圓 人糞尿百荷 一荷二付 金同 上

金貳拾貳圓五拾五錢 (女六十八、男十八) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金參圓七拾五錢 伐竹二十五駄 一駄二付 金同 上

金六拾圓 借地料

計 百參拾六圓參拾錢

第十年

金六拾圓 人糞尿百荷 一荷二付 金同 上

金貳拾壹圓貳拾錢 (女六十八、男十八) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金六圓七拾五錢 伐竹四十五駄 一駄二付 金同 上

金六拾圓 借地料

計 百四拾七圓九拾五錢

第十一年

金六拾圓 人糞尿百荷 一荷二付 金同 上

金貳拾壹圓貳拾錢 (女六十八、男十八) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金拾圓五拾錢 伐竹七十駄 一駄二付 金同 上

金六拾圓 借地料

計 百五拾壹圓七拾錢

第十二年

金四拾八圓 土入 八〇〇〇荷 一荷二付 金同 上

金七拾八圓 敷草 六〇〇〇貫 一貫目二付 金同 上

金拾八圓七拾錢 (女六十八、男五人) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金拾參圓五拾錢 伐竹九十駄 一駄二付 金同 上

金六拾圓 借地料

計 貳百拾八圓貳拾錢

第十三年

金六拾圓 人糞尿百荷 一荷二付 金同 上

金貳拾壹圓貳拾錢 (女六十八、男十八) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金拾五圓 伐竹百駄代 一駄二付 金同 上

金六拾圓 借地料

計 百五拾六圓貳拾錢

第十四年

金六拾圓 人糞尿百荷 一荷二付 金同 上

金貳拾壹圓貳拾錢 (女六十八、男十八) 除草雜拾及乾燥并止荷堀其他管理入夫

金拾五圓 伐竹百駄 一駄二付 金同 上

第六章 竹林經營

一四五

第六年 竹林經營
金六拾圓 借地料

計 百五拾六圓貳拾錢
收入調書

(一町步)

第四年 金參圓五拾錢 採十四貫

一貫目二付 金貳拾五錢

第五年 計 參圓五拾錢

金拾壹圓拾錢 荒篠三十七貫
金四圓五錢 枝篠四貫五百目
金貳圓 止り 竹

一貫目二付 金參拾錢
一貫目二付 金九拾錢

第六年

金貳拾圓拾錢 荒篠六十七貫
金七圓貳拾錢 枝篠八貫
金九圓 止り 竹二百二十貫

一貫目二付 金參拾錢
一貫目二付 金同
一貫目二付 金七錢五厘

計 參拾六圓參拾錢

第七年

金拾圓 母竹伐採代
金參拾壹圓五拾錢 荒篠百〇五貫
金拾壹圓貳拾五錢 枝篠十二貫五百目
金貳拾壹圓 止り 竹二百八十貫

一貫目二付 金同
一貫目 金同
一貫目 金同

第八年

計 七拾參圓七拾五錢
金參拾圓 竹材十駄

一駄二付 金參圓

金四拾圓五拾錢 荒篠百三十五貫
金拾四圓六拾錢 枝篠十六貫二百目
金貳拾七圓 止り 竹三百六十貫
金壹圓 竹

一貫目二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同

第九年

計 百拾參圓拾錢
金八拾五圓 竹材二十五駄
金四拾五圓 荒篠百五十貫
金拾六圓貳拾錢 枝篠十八貫
金參拾圓 止り 竹
金貳圓五拾錢 竹

一駄二付 金參圓四拾錢
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同

第十年

計 百七拾八圓七拾錢
金百五拾七圓五拾錢 竹材四十五駄
金四拾五圓 荒篠百五十貫
金拾六圓貳拾錢 枝篠十八貫
金參拾圓 止り 竹四百貫
金四圓五拾錢 竹

一駄二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同

第十一年

計 貳百五拾參圓貳拾錢
金貳百參拾八圓 竹材七十駄
金四拾五圓 荒篠百五十貫
金拾六圓貳拾錢 枝篠十八貫
金參拾圓 止り 竹四百貫

一駄二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同
一貫目二付 金同

第六年 竹林經營

第六章 竹林經營

計 參百參拾六圓貳拾錢

第十二年

金參百〇六圓	竹材九十駄	一駄二付	金同	上
金四拾五圓	荒篠百五十貫	一貫目二付	金同	上
金拾六圓貳拾錢	枝篠十八貫	一貫目二付	金同	上
金參拾圓	止り符 四百貫	一貫目二付	金同	上
金九圓	竹 枝			

計 四百拾六圓貳拾錢

第十三年

金參百四拾圓	竹材百駄	一駄二付	金同	上
金四拾五圓	荒篠百五十貫	一貫目二付	金同	上
金拾六圓貳拾錢	枝篠十八貫	一貫目二付	金同	上
金參拾圓	止り符 四百貫	一貫目二付	金同	上
金九圓	竹 枝			

計 四百四拾壹圓貳拾錢

之レヨリ第十三年目ニ同キモノトス
左ニ主要竹種ノ中等林ニ就キ收支計算表ヲ示ス
苦竹林收入之部 (一町步)

種目	數量	單價	價格	備考
竹材	百駄	一駄ニ付參圓四拾錢	參百四拾圓	
荒篠	百五十貫	一貫目 參拾錢	四拾五圓	

種目	數量	單價	價格	備考
竹枝	十八貫	一貫目 九拾錢	拾六圓貳拾錢	
止り	四百貫	一反步ニ付壹圓ノ割	拾圓	
計			四百四拾壹圓貳拾錢	

支出之部

種目	數量	單價	價格	備考
肥料	百荷	一荷 六拾錢	四拾五圓	四年間ニ三ヶ年施ストシテ計算ス
敷草	六、〇〇〇貫	一貫目ニ付壹錢參厘	拾九圓五拾錢	四年間ニ一度施ストシテ計算ス
土除	八、〇〇〇荷	一荷ニ付六厘	拾貳圓	四年間ニ一度ナスコト、シテ計算ス
施肥	男 十人 女 十人	一人 五拾錢 一人 貳拾七錢	貳拾壹圓貳拾錢	
其他	二人		壹圓	
伐竹	百駄	一駄ニ付拾五錢	拾五圓	
租稅			拾圓	
諸負擔			百貳拾參圓七拾錢	
支出計				

差引利益金參百拾七圓五拾錢

淡竹林 (一町步)

收入之部

種目	數量	單價	價格	備考
竹材	七十駄	一駄ニ付參圓四拾錢	貳百參拾八圓	
荒篠	百貫	一貫目貳拾八錢	貳拾八圓	

第六章 竹林經營

種目	數	單價	價格	備考
竹	五百貫		一反歩ニ付壹圓五拾錢拾五圓 一貫目拾四錢 參百五拾壹圓	
肥料	七十荷	一荷 六拾錢	參拾壹圓五拾錢	四ヶ年間ニ三ヶ年施ストシテ計算ス
敷草	六、〇〇〇貫	一貫目壹錢參厘	參拾壹圓五拾錢	四ヶ年毎ニ一度施ストシテ計算ス
土肥	八、〇〇〇荷	一荷 六厘	拾五圓八拾錢	
施肥除	男 十人 女 十人	男 一人 五拾錢 女 一人 貳拾七錢	拾五圓八拾錢	
草止堀	七十駄	一駄ニ付拾五錢	壹圓	
伐竹	二人		拾圓	
其他管理人夫			壹圓	
租稅及諸負擔			拾圓	
計			百圓參拾錢	

差引利益金貳百五拾圓七拾錢
江南竹林 (立斂) (一町歩)

種目	數	單價	價格	備考
竹	二百二十駄	一駄ニ付貳圓五拾錢	參百圓	
荒竹		一反歩ニ付壹圓五拾錢	拾五圓	
竹籜		一反歩ニ付壹圓貳拾錢	拾貳圓	
計			參拾圓	

種目	數	單價	價格	備考
肥料	七十荷	一荷 六拾錢	參拾壹圓五拾錢	四ヶ年間ニ三ヶ年施ストシテ計算ス
敷草	六、〇〇〇貫	一貫目壹錢參厘	參拾壹圓五拾錢	四ヶ年毎ニ一度施ストシテ計算ス
土肥	八、〇〇〇荷	一荷 六厘	拾五圓八拾錢	
施肥除	男 十人 女 十人	男 一人 五拾錢 女 一人 貳拾七錢	拾五圓八拾錢	
草止堀	七十駄	一駄ニ付拾五錢	壹圓	
伐竹	二人		拾圓	
其他管理人夫			壹圓	
租稅諸負擔			拾圓	
計			百七圓八拾錢	

差引利益金貳百四拾九圓貳拾錢

結束法ニ就テハ淡竹ハ苦竹ニ同様江南竹ハ左ノ規定ニ依ル

尺三寸以上ハ一本ヲ以テ一束トシ四束ヲ以テ一駄トス而シテ尺五寸以上ハ一本ヲ以テ價ヲ決定ス

尺二寸 五本ヲ以テ一駄トス

尺一寸 六本 同

尺 二本ヲ以テ一束トシ 四束ヲ以テ一駄トス

九寸 三本 同

八寸 四本 同
七寸以下ハ見計ヒテ以テ束チナス

第十五 黒竹

黒竹ハ古來多少栽培スルモノアリシト雖モ尤モ多ク培養スルニ至リタルハ明治二十年頃ヨリナルカ如シ而シテ最近外國向竹材トシテ一年栽培ノ隆盛ヲ見ルノ傾向アリ即チ竹材竹器ノ輸出品トシテハ貿易品中第一位ヲ占ム今左ニ之レカ栽培法中苦竹ト異ナル点ヲ掲フ
土地及培養法ハ殆ント淡竹ト同シク母竹ノ撰定ハ苦竹ニ於テ述ヘタルカ如シ而シテ植付本數ハ一反歩百五十本内外ヲ適當トス肥料ハ人糞尿ヲ主トシ油粕廐肥ヲ施シ下草土入ハ四五ケ年目ニ行フテ常トス其ノ數量ハ苦竹ノ約七割ニテ可ナリ而シテ此ノ竹ハ普通二年生ニテ伐採シ遅クモ三年ヲ超ニルコト稀ナリ即今年發生シタル新竹ハ其ノ翌年若クハ其ノ翌々年伐竹ス斯ノ如ク繁殖力非常ニ旺盛ナルモノナリ斯ク伐採期早キカ爲メ經濟上利便ナルカ故此ノ竹ハ母竹植付翌年ヨリ新竹發生シ三、四年目ニ母竹ヲ伐採シ第五年目ニ至リテハ完全ナル竹林トナリ發生シタル新竹(即チ二年生)及三年生ノモノヲ伐採スルモノトス

黒竹林一反歩ニ付初年ヨリ伐採順序ヲ示セハ次ノ如シ

伐採初年 植付後第三年目ニ母竹ヲ伐採ス

同 第四年目ニハ伐採セス

伐採第二年 同 第五年目ニ至リ二、三、四年ニ發生シタルモノヲ伐竹ス其ノ本數約七百本ニシテ五分以下多キヲ以テ一本ニ付平均五厘以下トス

伐採第三年 植付後第六年目ニハ五年目ノ者ヲ伐竹ス其ノ本數約千五百本尙ホ細キカ爲メ一本平均

壹錢位ナリトス

伐採第四年 植付後第七年目ニハ第六年目ノ者ヲ伐竹ス其ノ本數約二千五百本一本平均四錢

伐採第五年 植付後第八年目ニシテ第七年目ノ者ヲ伐竹ス其ノ本數約二千三百本一本平均七錢位ナリトス

之ヨリ以降ハ伐採第五年ト殆ント同様ナリトス
之レヲ伐採シ寸法ヲ定ムル苦竹其他ノ如ク周圍ヲ測ラス地上五六寸ノ直徑ヲ測リ之レニテ定ムルモノトス而シテ左ノ通り區別スルモノトス
寸上 八、九分 六、七分 四、五分 四分以下
是レナリ

以上五段ニ分チ一々其ノ價格ヲ異ニス之レカ四十二年ノ相場ニヨルトキハ

寸上一本ニ付拾錢 八、九分一本ニ付八錢 六、七分一本ニ付五錢 四、五分一本ニ付貳錢

四分以下ハ相當東トナシ價格ヲ相定ム

概シテ黒竹ハ價格ノ變動大ナルモノナレモ現今ノ如キ貿易狀態ニ於テハ其ノ收支他竹ノ到底及ハサル所ニシテ前途益々之レカ栽培多大ナリトス

第十六 孟宗(畑)栽培

府下殆ント全部ニ亘リ栽培セルモノニシテ其栽培最モ集約ナル葛野、乙訓兩郡ニ就キ逐次其一般ヲ述ヘントス抑モ孟宗ハ熱帶地方ノ禾本科植物ニシテ支那ヨリ渡來シタルモノ、如シ傳記ニヨレハ前ノ黃蘗山管長某カ宗教見學トシテ唐土ニ渡リ歸途ノ際孟宗ノ風格ヲ愛シ齋ヲ來リ之ヲ剪裁用トシテ同山ニ培養シタリ時ニ乙訓郡海印寺村ノ寂照院々主某カ幹枝ノヲ、ナランヌヲ見テ切ニ請ヒ寺領大見坊ニ移

シ植ニ愛護シタルカ濫觴ナリト云フ降テ天保年間之カ栽培ヲナシ維新以後ニ至リテハ農家ノ副業トシテ有利ナルコトヲ知り大ニ栽培セラレタリ之ニ反シ販路ハ依然京阪ニ限ラレタルニヨリ忽チ需給ノ權衡ヲ失ヒ價格暴落ヲ招キ慘憺タル悲境ニ陥リ爲メニ荒廢ニ歸セントモ實際大山崎村字圓妙寺故三浦源左衛門氏深ク此ヲ慨シ身ヲ挺シ神戶ニ至リ吉田吉兵衛ト共ニ晉伍社ト稱スル青物問屋ヲ創設シ專ラ委託販賣ヲ營ミ其結果ハ需用益々増加シ反テ供給不足ヲ告グルノ盛況ヲ呈シ茲ニ始メテ營業者順境ニ向フヲ得タリ而シテ輓近鐵道ニヨリ交通ノ便開クニ從ヒ漸次進歩發達シテ今日ノ如ク集約的ノ栽培ヲ觀ルニ至レリ然リ而シテ此地一帶ノ山林ハ第四紀層ニ屬シ第三紀層ヲ被覆スルモノ、如ク一般赤色又ハ白色ヲ帶フル粘質壤土ニシテ孟宗畑ニ適當ナル土質ナリ

適地、白色又ハ赤色ヲ帶フル粘質壤土ヲ可トス而シテ粘質壤土(赤色)ニ栽培スル筈ハ色澤鮮麗ニシテ其ノ質軟ク美味ナリ殊ニ白色粘質壤土ノモノハ品質最モ優レリ砂土ヨリ生スルモノハ其品質劣惡ナリ故ニ砂土栽培ニ適セス重粘土質ヨリ生スル筈ハ其品質尤モ優良ナルモ其量目少キヲ以テ經濟上ヨリ鑑ミル時ハ該土質ハ栽培困難ナリトス

位地、方位排水佳良ナル平地及山脚並ニ山腹ヲ撰ヒ傾斜約二十度以內ニシテ南東ニ面スル地ハ最適トス此ノ如キ地ハ日光ノ透射良シキカ爲メ肥料ノ分解良好ニシテ筈ノ採收量多ク且早ク發生スルヲ以テ

筈ノ價格貴ク經濟上西北ニ面セル地ヨリモ優レリトス
母竹ノ撰定、毎年一反歩ニ付約十本内外外早筈ノ内ヨリ肥大ニ失セサル完全ナルモノヲ撰ヒ成立セシメ五月中旬ニ至リ二三節ノ枝ヲ生シタルトキハ九節ヨリ十二三節ノ枝ヲ殘ス樣見計ヒ之ヨリ末端ヲ鋸利ナル鎌ヲ竹竿等ニ結ヒ付ケ切り取ルモノトス而シテ又夕藪内八九年ヲ經過セル古キ母竹ヲ連年伐竹スルモノトス即チ八九年ヲ經過シタル者ハ自然盛力衰へ筈ヲ産スルコト僅少ナルニモ拘ハテ肥料ヲ吸收スル事他ノ新母竹ト同シク斯ク不生産的ノ者ハ勢ヒ伐竹ノ必要ヲ認ムルモノトス斯ノ如ク漸次母

竹ノ更新ヲ行フトキハ栽培上最適數一反歩平均九十本ヲ常ニ存立セシムルモノトス

新タニ植栽セントスルトキ他ヨリ母竹ヲ得ントスルトキハ次ノ如キ條件ヲ具備セルモノヲ撰フヲ可トス即チ發生後二ヶ年以上ヲ經過セサルモノ殊ニ新竹ニシテ肥大ニ失セサル完全ニ發育チナスモノヲ撰ヒ堀取りノ際鞭根ヲ傷付ケサル樣注意シ而シテ鞭根ハ二尺以上成ルヘク長ク附着セシメ堀り起シタルモノハ直ニ枝數五六ヲ殘シ之ヨリ末端ハ銳利ナル鋸ニテ切去ルモノトス尤モ鞭根ノ鞭芽ノ有無ヲ点檢スルヲ要ス斯クシテ得タル母竹ハ成ヘク速ニ植付ケサルヘカラス又之ヲ運搬スルトキハ乾燥ヲ防クカ爲メ根株ヲ藪等ニテ包ミ尙ホ丁寧ニ之ヲナストキハ竹幹モ藪或ハ薄キ藪ニテ巻キ荷造チナスモノトス

植栽時季、植付方法等ハ苦竹ニ同様ナリトス(春季發節前即チ三月ニ植付ルハ好季節ナルモ母竹堀取ノ際他ノ鞭根ヲ損傷肥、何時施肥スルモ可ナリト雖モ大抵春夏兩季ニ行フヲ常トス即チ春期發生期中ニ穴尿ト稱シ人糞尿ヲ箱ヲ堀取タル穴ニ施ス然レトモ春季穴尿ハ一般ニ施用セサルモ一部熱心家ノ行フニ過キス而シテ一般栽培家ノ行フ所ノモノハ箱堀取後除草ヲナシタル跡地へ小サキ穴ヲ堀リ一反歩ニ付キ人糞尿五百貫ヨリ多キハ三千貫ヲ施ス)

敷物、敷物ニハ藁麥稈又ハ山林中ノ雜木ノ若芽及下草等ヲ用ユ然レトモ下草ヲ第一トシ其下草ハ七月中旬ヨリ九月中旬迄ニ刈拂フモノナレトモ成ヘク早ク採取シタルノチ貴ク然シテ下草ハ平均約半乾燥ノモノ八百貫内外ナリトス之ニ代ルニ藁ヲ用フルトキハ乾燥セルモノ約四百貫(二百五十束)内外ヲ要ス現今相場ニテ之ニ用ユル費用ハ生草ヲ用フルトキハ一反歩拾圓同シク藁ヲ用フルトキハ六七圓ヲ要ス之ニ代ルニ堆肥、厩肥ヲ用フルハ最モ可ナリ麥稈ハ敷物中最下等ノ物ニシテ殊ニ濕潤地ニハ不可ナリトス而シテ此敷物ハ土置前即チ十月初旬ヨリ全地ニ丁寧ニ均布スルモノトス
土置、前述十月頃敷草事業ナリシタルトキハ其上へ土置チナスモノトス即チ竹林經營ノ當初ハ近隣ヨ

リ土置スヘキ土砂ヲ容易ニ運搬シ得ルト雖モ漸次勢運搬費ニ多額ノ費用ヲ嵩ムルカ故ニ經濟上ノ關係ヨリ畑中高所ニシテ運搬ノ便利且ツ成ルヘク古キ箇所ヲ撰ヒ其箇所ヨリ打毀チ其土砂ヲ畚等ニ入レ全地ニ運ヒ下草ノ露出セサル様丁寧ニ之ヲ敷キ均シスルモノトス然シテ掘取タル跡地ハ更ニ其箇所ヲ掘リ返シ下草又ハ藁等ヲ敷キ土置ヲナシ他ヨリ鞭根ノ侵入發育ヲ促サシムルモノトス一反歩ニ對スル掘入土量八百荷位ヲ適量トシ一荷平均十八貫内外ナルカ故ニ一萬四五千貫ヲ毎年搬入スルモノトス土置ノ効果ハ實ニ大ナルモノニシテ苦竹栽培法ニ述タルカ如ク尙一ツハ竹發生源所ヲ知ル点ヨリシテ尤モ必要ナリトス之レ箇ノ尖頭地上ニ出タルヲ掘取ルモノナレハ其必要ナシト雖モ皆地中ニ在ルノ頃ニ採取スルヲ以テナリ然ラサレハ品質劣等トナルヲ以テナリ

除草、箱堀取後六月ヨリ下草均布時期十月頃迄時々之ヲ行フモノニシテ殊ニ注意スヘキハ傷ミタル鞭根ヨリ發生スル俗ニ「ムシヤクシヤ」ト稱スル小徑ノ切り取りヲ怠ルヘカラス畑中ニ雜草多キ時ハ夏土用ニ丁寧ニ除草スルヲ要ス之ニ要スル人夫一反歩ニ對シ六七人ナリトス

箱堀取、土置以前ニ早箱ヲ掘ル之レヲ見堀ト稱ヘ熟練家ニアラサレハ見付難シ發見ノ方法ハ普通土置事業ヲナサントスルニ先キ數草ヲ順次捲キ除ケ地上ニ龜裂ヲ生シタル箇所ヲ熟視シ發見ヲナシ又ハ地表僅カ一二寸ヲ掘返シテ發見スル方法等アルモ勞力ヲ要スルヲ大ニシテ且ツ多少鞭根ヲ傷ケ比較的利盆少キカ爲メ之ヲナス者稀ナリ而シテ土置ヲナシタル地上ヲ三月初旬ニ熟視シ早箱ヲ掘取リ四月下旬ニ至リ中箱ヲ掘取リ取ル之ヲ發生ノ最盛期トス五月ニ入りテ晚箱ヲ掘取リ其中旬ニ至リ全ク發生期ヲ終ル早箱掘取ハ未タ穂尖ヲ地上ニ顯サ、ルモノヲ早朝或ハ夕方畑地ニ至リ置土セル地上ヲ熟視シ地表ニ細キ龜裂ヲ生シタル箇所ヲ認メ竹筧又ハ鐵製ノ箱見ト稱スル筧ヲ龜裂中ニ差込ミ箱ノ有無ヲ探知シ箇所在ノ箇所ニ印(竹枝或ハ竹杭)ヲ挿シ其生長ヲ待チ採收ス中箱及晚箱ハ地上僅カ穂尖ヲ顯シタルヲ限度トシ之ヲ掘取ルヲ常トス而シテ之ヲ掘取ルニハ「ほり」ト稱スル鐵製ノ鉄ヲ用ヒ箇ノ周圍ノ土ヲ透

シ穂尖ノ向ヒタル正反對ノ方向ヨリ箇ノ根際ニ向テ土中ニ掘鉄ヲ突入レ鞭根ニ附着スル根際ヨリ切斷シ堀上ルモノトス熟練シタル人夫ハ一日平均五十貫乃至百貫ヲ掘取リ熟練セサルモノハ強壯ノ者ト雖モ如何ニ丁寧ニ長時間ヲ費スモ完全ニ掘取ルコト難シトス而シテ掘取タル箇ノ附着セル土ヲ拂ヒ落シ一定ノ場所ニ取集メ其根部ヲ鎌等ニテ調製シ同時ニ品質ヲ上中下ノ三段ニ分チ「ヤンド」及ヒ「ダン」ト稱スル竹籠ニ入レ荷造ヲナシ賣却ノ手續ヲ畑中ニテナシ堀取タル穴陷ハ之ヲ整地シ置クヲ要ス栽培法ニ二様アリ一ツハ乙訓郡南部地方ニ行ハレ一ツハ同郡北部及葛野郡松尾村地ニ栽培スル方法ナリ今此ノ二方法ヲ比較對照スルニ前者ハ後者ニ比シ施肥量少ク母竹ハ總テ細キモノヲ撰ヒ且ツ心止ハ低クナシ即チ枝數五六枝ヨリ多クモ七八節ヲ過キス下草ノ柔軟ナルモノニシテ細カキモノヲ用ヒ土置ヲ早クナシ晚クトモ十二月月上旬ニ終了ノ見込ニテ土置其後ノ均土ノ如キハ搬入サレタル土砂中へ爽雜スル鞭根ノ片々及小石等迄モ除去シタル後竹筧ニテ整齊シ以テ早箱ノ發生ヲ促シ且ツ搜索ニ便ニス同郡北部及松尾村ノ栽培法ハ前者ニ比シ施肥量多ク又母竹モ稍々太キモノヲシテ枝數八九節以上十四五ヲ附着セシメ下草ハ稍々粗ナルモノヲ多量ニシテ土置後ノ均土ノ如キモ稍々粗ナリ斯ノ如ク兩者方法ヲ異ニスルニ從ヒ其ノ結果最後ノ目的タル箇ハ前者ハ後者ニ比シ發生源數多キモ細少ナルカ故ニ採收量少ク然レトモ發生期早キカ爲メ高價ノ時季ニ市場ニ搬出スルコトヲ得ルカ爲メ平均通算單位價格高シ後者ハ發生源數少キモ肥大ナル爲メ其數量多シ從品質稍佳良ナルモ發生期遅ル、カ爲メ其單位價格低シ收支計算ノ欄ニ兩者ノ比較ヲ示サシ

更新法。栽植後一定ノ收入ヲ得ル迄ニハ通常六七年ヲ要ス然ルトキハ畑地内ニ適度ノ母竹九十本位ヲ成立シ充分蔓延ヲナシ完全ナルモノトナル自後毎年平均一反歩十一二本ヲ撰ヒ八九ヶ年ヲ經過スル親竹ヨリ漸次伐竹スルモノトス毎年秋期下草又ハ藁葉ヲナシタル上ニ土置ヲナスヘキトハ前已ニ述タル所ナルカ此置土ハ畑ヲ作リタル最初ハ畑地附近ヨリ探土スルヲ常トスレハ勢ヒ漸次遠キ所ヨリ探土スルノ止ヲ得サルハ勿論年々多額ノ費用ヲ嵩ムルカ爲メ經濟上畑地ノ更新ヲナサ、ルヘカラス之ヲナス

ニハ畑面中古キ部分ニシテ高所ヲ撰ヒ且ツ全地ニ運搬スルニ適當ナル所ヨリ打起シ置土ノ土砂トナス而シテ堀起サレテ低落シタル跡地ヲ墾土欄ニ述ヘタル如ク新畑地ヲ作り同一畑地ニ於テ任付ノ順環ヲ行ヒ斯ク更新スルモノトス當地ニ於テハ之ヲ切換ト稱ス

病虫害、病害ト認ムヘキモノ殆ントナキモ彼ノ開花結實後枯死スル自然枯アリ此ノ自然枯ハ苦竹淡竹ノ如ク全面殆ント襲來スルコトナクシテ稀レニ二三本宛見ル所ナリ又虫害トシテハ夜盜虫、針金虫等ノ侵害アルモ微々タリ此外近來ニ至リ五月中旬即チ筒ノ最盛ニ至リ一種ノ寄生蝶ノ來襲ヲ本春初メテ見受ケ恰モ水田ニ於ケル浮塵子ノ如ク發生シ其ノ經過ヲ見ルニ此ノ時季ニ竹枝ノ尖端軟キ所ニ産卵スルモノニシテ六月下旬又ハ七月上旬ヨリ漸次孵化シ幼虫成育スルニ從ヒ其寄生箇所膨脹セシメ以テ竹枝ノ生理作用ヲ不長ナラシム其後ノ經過ニ就テハ今尙ホ研究中ニ屬ス

販路及荷造法、京都、大阪、神戸ヲ主トシ名古屋、廣島、明石等トス然レトモ取引上ノ習慣ニヨリ產地ニテ京都地方ノ青物問屋ニ直接賣買ヲナシ座シテ顧客ヲ得ルコトアリ又荷造法トシテ大阪、京都地方ニハ「シンド」ト稱スル籠ヲ用ヒ神戸、名古屋其他ハ「ダンベ」ト稱スル竹製ノ籠ヲ以テ荷造シ運搬スルモノナリ「シンド」トハ孟宗竹ニテ作レル高サ一尺四寸上徑一尺五寸五分下底一尺二寸角ノ籠ニシテ箱相互ニ入レ尙ホ其上一二段ヲ盛リ其上ヲ竹枝及藁等ニテ被ヒ尙ホ筒ノ漏ラサル様竹片ヲ以テ輪ヲ作り其輪ヲ繩ニテ編ミ俗ニ網ト稱スル者ヲ被ヒ之ヲ堅ク繩ニテ「シンド」ノ縁ニ結ヒ付ケ荷造リスルモノトス通常一籠十貫乃至十一貫ヲ入ル、コトヲ得ヘシ更ニ神戸其他ニ出荷スル「ダンベ」ト稱スル籠モ同シク孟宗竹ニテ作レルモノニシテ高サ一尺二寸上徑一尺八寸下底一尺角ニシテ之レニ入ル、筒ノ量約九貫乃至十貫目トス此ク荷造リシ市場ニ輸出シ賣捌後ノ空籠ハ出荷先ヨリ返戻スルモノトス

輸送法、瀛車瀛船及和船等ニ據リ積出スルモノトス之レカ爲メ乙訓郡等ニテハ荷組合等ヲ組織シ成ルヘク運賃ヲ減少スルノ方法ヲ講シツ、アリ今此ノ組合ニテ四十二年ニ協定シタル賃率次ノ如ク

乙訓郡大山崎村泥川濱ヨリ大阪天満市場着(泥川船積ノ分)「シンド」一個ニ付金拾壹錢ヲ要シ最モ空籠上リ舟賃ヲ含ム又同所ヨリ同シク舟積ニテ大阪木津難波市場着拾參錢五厘ヲ要シ又同郡向日町停車場ヨリ瀛車積ニテ大阪天満市場着拾五錢五厘又同所ヨリ木津難波市場着拾六錢五厘ヲ要シ又同郡山崎驛及向日町ヨリ瀛車積ニテ神戸市場迄ハ出荷量ノ多少ニヨリ異ナレトモ山崎驛ハ一個平均拾七八錢向日町驛ハ拾八九錢ヲ要ス

收支計算、各地ニヨリ多少異ナレトモ乙訓郡南部栽培地及同郡北部及葛野郡松尾村ニ於ケル中等ニ付キ收支ヲ示サン

乙訓郡北部及葛野郡松尾村中等畑收支計算表(一反歩)

種 目		數	單 價	備 考
籐	目	四百三十貫	一貫目ニ付拾五錢六拾四圓五拾錢	
竹	材	一 駄	半一駄平均六拾五錢壹	
竹	枝	五	束一束 五 錢貳 拾 五 錢	
竹	籐 其他	二 貫	目一貫目 五 錢拾	
計			六拾五圓八拾五錢	

支出之部

種 目	數	單 價	備 考
人糞	七百五十貫	一貫目壹錢六厘五毛	拾貳圓參拾七錢
敷物費	九百五十	一貫目貳錢下草半乾	拾圓八拾
土置費	八百	一貫目貳錢參厘	圓
		荷一荷(拾八貫)六厘餘	五

差引利益金貳拾圓參拾貳錢

種目	數	量	單價	價格	備考
土置整理人夫	二	人	貳拾七錢	七拾七錢	
竹堀起人夫	十	人	一圓五拾錢	七圓五拾錢	(箱見テ含ム)
除草人夫	二	人	參圓〇八錢	參圓〇八錢	
施肥人夫	二	人	貳圓	貳圓	
農具損料	二	人	貳圓	貳圓	
管理人夫	二	人	貳圓	貳圓	
租稅其他諸負擔				貳圓	
其他				貳圓	
計				四拾五圓五拾貳錢	

乙訓郡南部中等畑收支計算表

收入之部

種目	數	量	單價	價格	備考
竹	三	百七十貫	一貫目拾七錢	六拾貳圓九拾錢	
竹	一	駄	半一駄平均六拾五錢	壹圓	
竹	五	束	一束五錢	貳拾五錢	
竹	二	貫	目一貫目五錢	拾錢	
竹	二	貫	目一貫目五錢	拾錢	
計				六拾四圓貳拾五錢	

支出之部

種目	數	量	單價	價格	備考
人糞	七	百	一貫目二付壹錢六厘五	拾壹圓五拾五錢	
動物糞	八	百	一貫目貳錢下草半乾	九圓六拾錢	糞一牟下草二年ノ割合ニテ計算ス
土置整理人夫	八	人	荷一荷(十八貫)六厘餘	五圓	
竹堀起人夫	十	人	一圓五拾錢	壹圓〇四錢	
除草人夫	二	人	參圓〇八錢	參圓〇八錢	
施肥人夫	二	人	貳圓	貳圓	
農具損料	二	人	貳圓	貳圓	
管理人夫	二	人	貳圓	貳圓	
租稅其他諸負擔				貳圓	
其他				貳圓	
計				四拾參圓貳拾七錢	

差引利益金貳拾圓九拾八錢

因ニ記ス淡竹ノ箱ハ其味佳良ニシテ且其發生時季孟宗箱ノ終ル頃ナルヲ以テ其價格從テ高キヲ以テ近來淡竹林ニアリテモ箱ヲ得ルノ目的ヲ以テ孟宗ノ如ク栽培スルモノアルニ至レリ
 利用及貯藏法、箱ハ其儘吾人カ蔬菜トシテ需用ニ供スルト一旦之ヲ加工シテ罐詰トナシ食用ニ供スルトアリ其他冬季農家ノ食品トシテ之ヲ二ツ割リ或ハ四ツ割リトナシ熱湯ニテ瀹テ而シテ日光ニ曝シ

乾燥シタル後貯藏ス又ハ積漬トナスコト等アルモ稀レニ行フ所ナリ近來罐詰法製造業開始セラレテヨ
 リ以來其以前賣足遠キ劣等品モ忽チ相當價格ニ騰リ益々斯業發展ト共ニ品質稍々悪キ減少ナル俗ニ
 「バイコト」ト稱スルモノ殊ニ斯業界ノ元料ニ適シ尙ホ現今ノ有様需用者愈々多ク法外ノ輸出益々多ク
 加ヘ漸次大ナル罐ヲ用フルコト、ナリ從テ大ナル箱ニシテ上等品ヲモ之レカ元料トナスニ至レリ今斯
 業界ノ霸王タル乙訓郡山城罐詰會社ノ一般次ノ如シ

會社創設ノ動機、日露、日露ノ干戈ヲ交ヘテヨリ以陸食料品トシテ罐詰ノ必要ナ大ニ感シ自後海外ニ其需用多ク殊ニ符ニ於テハ諸
 輸入ノ嗜好ニ適シ尙ホ今日ニテハ穀米ノ一部浦鹽等ニ其輸出ヲ見ルニ至レヨ然ルニ郡内至ル所符ノ生産額多ク之レカ利用ノ一策ト
 シテ時ノ郡長森本和三四郎長始メ郡内有志者相集リ之レ等カ動機トナリ今日ノ如ク創立ヲ見ルニ至レリ
 創立年月日 明治三十九年十一月十三日

資本金 六萬圓

符ノ生産地名 山城各郡殊ニ乙訓、葛野兩郡

罐詰トナスノ荷種類 孟宗、時トシテハ苦竹符ヲ用ユ

罐詰トナス能ハサル竹種 黒竹、斑竹、其他女竹

符購買方法 村部ニテ一定ニ纏タルモノ又仲買人ヨリ購入

罐詰トナス符ノ最モ適當ナル品 長サ六寸周リ五寸小罐ニ用ヒル者ハ一貫目ニ付十七八本ヨリ二十本大罐ニ用ユルモノハ五本ヨ
 リ十本ヲ適當トス

符一貫目ノ價格 最高貳拾錢最低八錢平均拾貳錢

符一貫目ヲ用ヒテ其仕上高 小罐二本半ナリ大罐ヲ作ル場合ニハ一本小罐一本ノ重量二百七十日大罐一本ノ重量九百五十日一

貫目

罐詰製造時間、毎年四月十日ヨリ五月十五日迄即チ符獲生期、符ヨリ罐詰トナス迄ノ方法順序、先ッ符ノ皮ヲ剥キ之ヲ湯騰シタル
 熱湯中ニ二三十分間之ヲ煮然シテ尙ホ苦味ヲ除クカ爲メ二十七八時間乃至三十時間清水中ニ浸シ後大小ヲ區別シ一定ノ量目トナシ
 テ空罐中ニ肉詰チナシ密封ス然シテ之ヲ九十八度乃至百度ノ熱湯中ニテ殺菌チナスコト約一時間此際空氣抜き行フ其ノ時ノ穴ハ減
 熱セサル内ニ之ヲ密封シ而シテ冷却セシム完全ニ密封シタルモノヲ製品トス今此ノ會社ハ次ノ如ク分業トナシテ實施セリ

- 第一皮剥部
- 第二調理部
- 第三實罐部
- 第四殺菌部
- 第五整理部
- 第六製罐部

等ヨリ成ル

製造チナスニ薪炭及人夫費用 小罐一本ニ對シ壹錢參厘大罐一本ニ對シ貳錢五厘

一窯ニテ一回平均幾罐ヲ仕上ルヤ 小罐三百個ニシテ大罐ナレハ八十個

一日窯ノ仕上リ平均高 小罐千五百個大罐ナレハ五百個

空罐ノ價格 小罐一個ニ付參錢五厘一四錢大罐一個ニ付八錢一拾錢

一罐ノ仕上リ原價 小罐一個拾壹錢大罐一個參拾錢

罐詰ノ其否鑑定法 百度内外ノ熱氣ニ暴露シ腐敗セサルモノ又チ即チ音ニヨリ鑑定スル等ノ方法アリ

荷造方法 箱詰トナス(小罐三十本入、大罐十二本入)

販路 大阪市場ヲ經テ内地ハ勿論滿蒙北海道瀋陽及歐米各國

製品數量 京阪地方ノ製造數ヲ觀ルニ明治三十年頃ハ五萬個位ナレトモ近年ニ至リ其ノ數チ頗ニ增加シ六十萬個内外ナリトス而
 シテ當社ハ十五萬個ヲ製出スルナリ

既往三ヶ年製造高 六萬個十一萬個本年ニ至リ十六萬個ト云フ割合ニテ增加ス

既往三ヶ年一罐平均價 小罐一個拾貳錢五厘(小賣人ノ賣價一個ニ付拾七錢乃至貳拾錢)

罐國ニ於ケル賣價 小一個貳拾參錢大一個五拾四錢ナリトス

職工數并ニ賃金 製造時期女百人男二十八男一人ニ付飯付ニテ四拾八錢女一人飯ナシニテ貳拾五錢ナリトス

第七章 北山臺杉作業

抑モ北山トハ京都市ノ西北約三四里ニ位スル葛野郡小野郷、中川、梅ヶ畑村ノ總稱ニシテ京都市ヨリ北条田郡周山村ニ通スル街道ノ附近ニ散在セル部落ナリ

臺杉ノ栽培區域ハ此ノ北山一帯及ヒ愛宕郡鷹ヶ峯村、北条田郡細野、黒田、周山、山國ノ各村ニ跨カリ面積約四百二十餘町歩ニ及フ、之レヲ細別スレハ葛野郡中川村百五十町歩同郡小野郷村百十町歩同郡梅ヶ畑村四十町歩愛宕郡鷹ヶ峯村三十町歩北条田郡山國村七十町歩黒田及細野村其他十町歩ナリトス而シテ其栽培ノ盛ニシテ然カモ良材ヲ出スチ北山一帯殊ニ中川村ヲ最トス、臺杉ヲ日シテ北山臺杉ト稱スル蓋シ遺傳ニ因ミタルニ非ラサルナキカ

一帯ノ地域ハ小面積齧谷ニ沿ヒテ第四期層ヲ顯出スルモ一般ニ付テ謂ハ、古世層ニシテ土地肥沃、若シ夫レ府下ニ於テ土地ノ等級ヲ定ムル者トセハ先ツ第一位ヲ冠スルニ難カラス而シテ臺杉ヲ栽植セル箇所ハ之中ニアリテ最モ優秀ノ地ヲ占據セルモノナレハ一齧谷一帯域臺杉ノ蔽相セル者殆ントナク間絶斷絶只僅カニ中川村ノ一部ニ於テ之ヲ視ルヲ得ルノミ

第一 沿革

栽培ノ起源ニ就テハ古記ノ徵スヘキモノ少ナキヲ以テ其濫觴ヲ詳ラカニスル能ハサルハ大ニ遺憾トスル所ナリ、今其概要ヲ述ヘンニ桓武天皇延暦十三年平安奠都ノ際北条田郡山國郷(現今ノ山國村及黒田村)ヲ以テ御柚御料地ト定メラレ、内裡御造營ノ用材ヲ伐採シ大堰川ニヨリ筏トシ京都市ニ搬出セラレタリ、之レ該地方林業發展ノ起源ニシテ奠都以來京都市ノ繁榮ト共ニ大ニ木材ノ需要ヲ増加シ從ツテ造林ノ必要ニ迫リ後小松帝應永年間ニ於テ杉ノ臺木作(株杉ト稱ス)ヲ始メ室町時代ノ茶ノ湯ノ

流行ニ伴ナヒ茶室ノ建築ニ大ニ臺杉丸太ヲ需要セラレ從ツテ斯業發展ヲ來シ、尙降ツテ應仁兵亂後其需要又多キヲ加ヘ漸次此林業ノ區域ヲ擴張シ南部諸村(現今ノ弓削村、周山村、宇津村、細野村等)及ヒ隣郷小野河内諸郷(現今ノ小野郷村)中川村、梅ヶ畑等ニ及ホシタルモノニシテ中川村ニテハ今ヲ去ル二百十餘年延寶五年土地ノ福岡伊右衛門ナル者已レノ所持スル宇西川小字登山ノ反別一町五反二畝歩ニ白杉ノ苗若干ヲ挿植シ北山丸太ヲ養成シタル中興ノ栽植トセリ、同村及小野郷村ニ於テ今尙ホ三百餘年ノ臺株現存セルヲ見レハ兎ニ角之カ栽培ハ該年次位ヨリ漸次發展セシ者ト推斷スルヲ得ヘシ

第二 種類及材質

北山杉ニ四種アリ

- 一、本白 葉柔軟附着粗ニシテ色淡ク抽穂、枝張り共ニ惡シク材質堅緻色白ク光澤アリ枝根ノ恢復良好ナリ磨材後龜裂ヲ出スル事少ナク柱用トシテ最モ適ス、材質ヨリ謂ヘハ本種ヲ以テ第一位トス
- 一、蜂山白 葉ハ緑黒色ニシテ短剛枝ノ附着密葉枝多ク生ス生長力ハ本白ニ比シ稍良好ナリ枝根ノ恢復緩慢、故ニ柱用トシテハ不適當ナリ
- 一、鬼灯白 葉細長色淡ク幼時ニ於ケル上長生育ハ本白ニ倍セルモ穂先少シク歪ムカ故ニ丸太用トシテ不可ナリ、材質ハ堅緻、色澤共前二種ニ劣ル專ラ垂木用トシテ栽培セラル
- 一、柴原 葉ノ附着粗ニシテ剛硬普通ノ杉ト大差ナキモ抽穂稍良好ナリ材質ハ四種ノ中最モ劣ル丸太用ナリ

第三 栽培法

育苗 育苗ニ二法アリ播種、挿木是レナリ

播種法 播種法ヲ執ル者ハ前四種ノ内「シバハテ」ノ種子ヲ專用ス、他種ハ時ニヨリ結實スル事アルモ其量極僅少ニシテ播種スルニ足ラス、之法ニヨリテ蒔殖セシ杉ハ材質色澤共ニ惡シク且變節スルモノアルヲ以テ當事者ニ賞用セラレス、然レモ普通ノモノヨリ伐採期ヲ十餘年間長クスル時ハ挿木ニ讓ラサル良品ヲ得ル事アリ播種ニ於ケル母樹ノ撰定ハ最モ顧慮ヲ要スヘキモノニシテ其如何ハ林業經濟上至大ノ影響ヲ及ホスハ今更喋々ヲ要セサレモ特ニ台杉ニアリテハ變節ノ懼レ多クレハ一層其要ヲ感ス即チ六七十年生ニシテ材幹ノ形狀及生育狀態等完全ナル母樹ヨリ十一月上中旬種子ヲ採收シ翌春苗圃ニ播下ス播種法手入等一切ハ普通杉苗仕立ノ夫レト同シキヲ以テ省略ス

挿木法 五月中旬(八十八夜前後)樹齡ノ如何ニ係元氣旺盛ナル母樹ヲ撰定シ其三年枝ヲ長サ一尺乃至一尺二寸ニ切斷シ(一本ノ母樹ヨリ良好ナル挿穂ハ十本以上取ル事難シ)先端ヨリ四五ノ支枝ヲ殘存シ下部ノ枝全部ヲ除去シ銳利ナル鎌ヲ以テ斜ニ枝ノ基部ニ於ケル裏面ノ側ヲ一二寸ノ長サニ於テ少シク木質ヲ削ル如ク殺ク、殺キ方深ク心材部ニ及フ時ハ變根ノ發生ヲ阻害スルヲ以テ注意スヘシ、而シテ赤粘土ノ塊ヲ以テ堅ク包握シ畑地ヲ耕耘シ七寸幅ノ畦ニ枝ノ先端互ニ接觸セサル距離(凡六寸位)ニ斜(枝ノ附着ト略ホ等シキ傾キ方)ニ併列シ土ヲ覆フ事六七寸其上ヲ鍬ヲ以テ堅ク打チ直チニ施水ス挿穂後早天打續キナハ一週乃至十日日ニ再度施水ヲ要ス、又挿木ハ陽光ノ直射ヲ忌ムモノナレハ場合ニ應ジ日覆ヲ設クヘシ

翌春三四月ノ頃一二回稀薄ナル人屎尿ヲ施與ス三年日ニ山地ニ植栽ス此時既ニ苗木約三尺ノ長サニ達ス之ヲ白杉ト謂フ此内生育殊ニ根部ノ發育不良ナル者ハ移植シテ次年山出シトナス、然レトモ最初ノ二年間ハ斷シテ移植ハ不可ナリ挿穂中ニ於テハ最モ干燥ヲ忌ムヲ以テ餘リ除草ハ行ハス雜草苗木ヲ沒スルニ至リテ甫ノテ適宜之ヲ行フノミ、又苗圃ハ連年使用セハ枯死苗多ケレハ新地ヲ撰フヲ肝要トス最良苗木山出シニ適スルニ至レハ春三月中下旬細根ヲ毀損セサル様掘取リ干燥ヲ防ク爲メ藁又ハ紙ノ

類ニテ根部ヲ包ミ山地ニ運搬ス

適地 適地ハ普通ノ杉ト同シク稍ヤ土層ノ深キ砂質壤土ニシテ傾斜其度ニ適スル東北面ヲ可トスト雖臺杉ハ枝打其他ノ手入ニヨリ生長力チアル程度迄抑壓スルモノナレハ最モ肥沃ナル地ヲ撰フヲ肝要トス

山地植栽 春三月下旬乃至四月上旬山地ニ植栽ス植栽本數二千五百本乃至四千本三千五百本ヲ最モ適當トス、植栽法ハ三角方形何レチモ採用スレトモ普通凡太ニアリテハ三角垂木ニアリテハ方形トシ新植後枯死苗アル時ハ補植ス

植栽後ニ於ケル手入其他凡テ丸太仕立ト垂木仕立トニ依リ異ナルヲ以テ便宜上之レチ分チ順次説述ス可シ

其一丸太仕立法 新植後二年間ハ六月梅雨後及ヒ九月上旬ノ兩度ニ於テ毎年下刈チ行ヒ其後尙六七年間ハ年一回七月下旬ヨリ九月上旬ノ間ニ於テ年一回下刈チナス芟除セシ雜草嫩芽ハ苗木ノ根際ニ敷キ肥料トナス、八九年ヲ經テ樹幹一間餘伸長シタル時ヲ見計ラヒ第一回ノ枝打チ行フ其法先ツ地上ヨリ約二尺計リノ間ニ於テ尤モ健全ニシテ四方ニ平均ニ生育スル枝ト先端ヨリ一尺七八寸ノ枝極ヲ殘シ其中間ノ枝ヲ鉋ヲ以テ梯子ヲ用ヰテ幹ニ沿ヒ平滑ニ切り拂フ、下部ニ殘存セル枝ハ臺杉栽培上尤モ必要ナルモノニシテ第一伐採以後幾回トナク幹ヲ生立セシムル臺礎トナルモノナリ、方言之ヲ「トリキ」ト稱ス如斯普通ノ枝打ヨリ過度ノ枝打チナスハ一ツハ其本末ノ直徑ノ差チ少ナカラシムルト一ツハ「トリキ」チ日光不足ノ爲メ枯損セシメサラシムルト一ツハ養分不足ノ爲メ肥大生長チ鈍クシテ緻密ノ材ヲ作ラシムルニアリ、而シテ枝打ト同時ニ徒長セル「トリキ」ハ周圍平等ニ適宜ニ剪定ス、之レ材幹チ四周偏頗ナク發生セシメシカ爲メナリ、枝打ハ爾後毎三ダ年ヲ隔テ、四五回以後ハ四年毎ニ之チ行フ下刈ハ枝打二回迄ハ毎年三回目ヨリハ其都度或ハ前年ニ於テナス毎回「トリキ」ノ剪定チ行フ事第一

四枝打ノ時ニ同シ

枝打ノ時期ハ嚴寒、霖雨ノ兩期ヲ除キテハ何時行フモ差支ナシ、伐採ノ前年若クハ當年ノ春期ニ於テ樹液ノ未ダ流動セサル時ヲ見計ラヒ枝縮ヲ行フ、枝縮トハ幹際ヨリ約一寸ヲ隔テ、先端ヨリ二三尺枝ヲ殘シ(樹ニヨリ異ナルモ大抵一尺ヨリ二尺五寸ノ範圍トス)切拂ヒ樹液ヲ少ナクシテ色澤ヲ良好ナラシメ豫メ伐採期ヲ決定セシムルニト云フ、枝縮ノ度甚クシケレハ早ク伐採スルコトヲ得

研伐 研伐スヘキ時期ハ春四月秋八月ノ兩期トシ就中八月ヲ以テ尤モ適當トス此時期ニ伐採セルモノハ色澤殊ニ鮮麗ナリ
伐採齡ハ新植ヨリ約三十年目トス、伐採後ノ臺株ハ其翌年ニ至リテ萌芽頓シニ其ノ度ヲ高メ生長益々旺盛トナル、而シテ其儘ニ四年ヲ經過シ適當ナルモノニ三本ヲ殘存シ他ハ伐リ捨ツ、此時期ニ於テ第一回ノ枝打ヲ行フ、以後ノ手入ハ第一伐採迄ノ施業ニ同シ、第二、三、四伐採等臺株ノ經濟的關係ヲ及ボサ、此限リ同法ヲ繰返スモノトス、但シ第二回伐採ヨリハ皆伐ヲナサス、材幹ノ周圍一尺二三寸長サ四九間ニ達セルモノヨリ漸次擇伐ス、大抵六十年以上百年迄ハ隔年又ハ三年目毎ニ全數ノ七八分宛伐採スルヲ得百年以後ハ勢力衰へ三年目ニ五六分ニ減ス、良好ノ狀態ニアル臺株ハ隨分長ク其業ヲ保續シ得可ク現ニ三百餘年ノ古株アリ、然レトモ古キ臺杉ハ生長力ヲ減殺サル、方故ニ却テ新植ヲ利アリトス、材幹ノ生立數ハ土質ノ關係其他ニヨリテ一様ナラズト雖二回目ノ臺株ヨリハ二三本三回目ノモノニテ四五本漸次其數ヲ増加シ百年生ノ生氣旺盛ナルモノヨリハ普通八九本、内ニ八十數本ヲ見ルコトアリ
一、伐採 伐採スルニハ鋸及ヒ鋸ヲ用井「トリキ」ヲ損セサル程度ニ於テ下部ヨリス、若シ伐リ方高クシハ雨露ノ爲メ伐口腐敗シ臺株ノ生命ヲ短縮スル恐レアリ
二、造材 伐採セハ直チニ杉又ハ檜ノ心材ニテ製シタル篋ヲ以テ縦ニ條ヲ付ケ材幹ヲ損セサル様枝極

ノ附着点迄一枚ニ剥皮ス而シテ其皮ハ二尺一寸ノ長サニ切截シテ燥ス、其日ニ伐採セシモノハ當日ニ剥皮ヲ了スルモノトス、剥皮終レハ尤モ早ク伐採セシ者ヨリ順次近傍立木ノ周圍ニ立テ懸ケ置クコト約一週間材ノ白ク乾燥セルヲ見計ラヒ樹冠ヲ棄テ適當ノ長サニ切斷シ各自屋内ニ運ヒ入ル、適當ノ長サトハ一丈ヲ標準トシ長短ニ應シ二間、二間半、三間順次半間ヲ伸縮シテ(半間ハ三尺二寸五分ナリ)切斷ス四間以上ハ注文ナケレハ執ル事ナシ

春割 木ノ膨レタル部ヲ木髓ニ達スル迄鋸ノ幅ニ春割ヲナシ半間毎ニ厚サ二分長、幅、適宜ノ樞矢ヲ打ツ、而シテ空氣ノ流通ヨキ屋内ニ長キモノハ臺ニ横タヘ短カキモノハ立テ懸ケ材間ニハ約二寸ノ間際ヲ保タシメ乾燥セシム、材幹密着スルカ又ハ乾燥充分ナラサレハ色澤綠黑色トナリ品質ヲ損ス乾燥ニ要スル日數ハ天候其他空氣ノ流通如何ニヨリ差異アレモ大抵二十日乃至一ヶ月トス
磨木 磨木ハ山地伐採全部終了セシ後ニ於テ行フ、磨木ノ爲メ伐採時期遲延セハ大ニ材質ヲ損スルヲ以テ注意スヘキナリ、乾燥後ハ日程ノ都合ニヨリ適宜屋内ヨリ取り出シ清水ニ一時間以上浸積シ龜裂(堅實ナル材ハ乾燥中多少龜裂ヲ生スルヲ普通トス)ノ全部復舊スルヲ待ツテ白砂(此白砂ハ中川村菩提ノ瀧ノ砂ニ非サレハ充分光澤出テスト云フ)ニテ色澤ノ出ツル迄一様ニ磨ク男一人一日ノ工程一丈モノニテ約四十本ヲ普通トス、琢磨終レハ清水ニテ水洗ナシ屋外ニ立テ懸ケ水分ノ去ル迄乾燥セシム、全ク乾燥セハ屋内ニ運ヒ長短ニ應シ横タフルカ又ハ立テ懸ケ置キ温熱ノ去ルニ及ンテ密着セシム、此場合ニ於テハ間際ヲ存セシムル時ハ再ヒ龜裂ヲ生スルヲ以テ密着セシムルヲ宜シトス
以上ニテ全ク製材ヲ終了ス、販賣スルニハ接續セル塵紙ニテ包ミ尙上等品ハ杉皮、下等品ハ蕨ニテ上裝ヲ施コシ運搬ス

其二、垂木丸太 新植後六七年目ニ第一回枝打(鎌ヲ用ニ)ヲナシ以後伐採期迄隔年毎ニ之ヲ行ヒ下蒞ハ新植後二年間ハ年一回夫ヨリハ毎年一回宛施行ス四五回枝打ノ後材幹ノ長サ一丈周圍六寸餘ニ達ス

ルニ至レハ葦株二千五百成立セルモノトシテ一割四分即チ三百五十本伐木ス、伐採ノ前年ニ於テ枝締
チナス事丸太ニ同シ、伐期ハ十五年ヨリ十七八年迄ヲ適當トス、第一伐採後ハ萌芽三四本ヲ殘シ二年
目ヨリ枝打ヲ始ム、以後ノ手入ハ第一回ノ時ノ施業ヲ繰返スモノトス、而シテ二回目ハ材幹前記ノ寸
ニ達セシモノヨリ漸次擇伐シ凡ソ十五年ヨリ百年位迄ハ隔年毎ニ全臺數ノ一割七八歩伐採スルコトヲ
得八九十年生ノ良好ナル葦株ヨリハ既ニ數次回ニ伐採スル材幹存立セルヲ以テ一臺ニ十乃至十五六本
ノ生立ヲ見ルコトアリ

伐採スルニハ普通鉋鋸ヲ用ヒ直チニ剝皮ス、剝皮ハ丸太ト異ナリ四枚ニ分チテ剝キ山内立木ニ立テ懸
ケ四五日間乾燥セシメ樹冠ヲ去リ各自持チ歸リ適當ノ長サニ切斷シ暫時屋内ニ乾燥セシム、充分乾燥
セハ清水ニ浸積シ清水、白砂琢磨再ヒ乾燥シテ屋内ニ貯藏ス
木作業ニシテ丸太ト同施業ニ懸ルモノハ其要領相等シ

第四 販路及使途

販路及ヒ使途 従前ハ京都市ヲ唯一ノ需要地トセシナリテ自然狹隘ヲ感シタレトモ近年運搬ノ利便大
ナリシト同時ニ販路亦擴張セラレ現今ハ西、九州、東、東京邊ニ及ヘリ、而シテ上等品ハ大阪、名古
屋、下等品ハ重ニ京都ニ販賣セリ、使用ノ目的ハ北山丸太(方言白杉丸太)ハ書院或ハ茶室ノ柱又ハ柁
用ニ供シ垂木丸太(方言「カイフ」)ハ軒先ノ垂木天井椽ニ用ユ
販賣方法 直取引トス、毎年夏期ヨリ冬期ニ大阪、名古屋、京都其他各地ヨリ商人來リ販賣ス

第五 運搬法

運搬法 京都ニ出スニ小野郷村及ヒ梅ヶ畑村ニアリテハ陸路車ヲ以テスルモ中川村ニ在リテハ婦人ノ

頭上ニ載セテ鷹ヶ峰村ニ出シ而シテ車ヲ以テ京都ニ出スヲ普通トス、大阪ヲ經由スルモノハ高瀬川ニ
ヨリ東京名古屋邊ヘハ瀛車ニヨル瀛車、船舶、何レニモ材幹ヲ損傷セサル様注意スヘシ

第六 價 格

丸太ノ 價 格

(以下記スル所ノモノハ京都ニ條聯着價格トス)

種 別	價 格			備 考
	上等品	中等品	下等品	
長サ一丈末口四寸以上	1,100	1,100	1,100	
長サ一丈末口三寸五六分	1,000	1,000	1,000	
長サ一丈末口三寸	900	900	900	
長サ一丈末口二寸五六分	800	800	800	
長サ一丈末口二寸	700	700	700	
長サ二間末口三寸五六分以上	1,000	1,000	1,000	末口三寸以下ハ上等丸太ト謂ハス
長サ二間末口三寸三分迄	900	900	900	末口一寸八分以下ハ丸太ト謂ハス垂木又ハ末木ト稱ス
長サ二間末口二寸七八分	800	800	800	
長サ二間末口二寸四五分	700	700	700	
長サ三間末口三寸五六分	1,000	1,000	1,000	二間半ハ二間ノモノヨリ一割乃至一割五分高(末口東同シ)
長サ三間末口三寸	900	900	900	
長サ三間末口二寸五分	800	800	800	三間半ハ三間ノモノヨリ一割増シ夫以上ハ長サト價格ハ畧 ホ同一率ヲ以テ増減ス

垂木ノ 價 格

種 別	價 格			備 考
	上等品	中等品	下等品	
長サ一丈末口一寸	1,000	1,000	1,000	

丸太、垂木山賣價格

長七尺八尺末口一寸	百本	30,000	30,000	10,000
長十二間末口一寸	百本	10,000	10,000	8,000
種別		上等品	中等品	下等品
丸太 一本二付		30,000	15,000	10,000
垂木 百本二付		10,000	10,000	10,000

第七 丸太産

年次	丸太産		丸太垂木		軒桁其他	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
三十四年	7,700	94,000	1,110	11,000	3,180	45,500
三十五年	5,650	61,400	610	6,100	2,030	28,400
三十六年	6,500	79,500	835	8,350	2,300	30,100
三十七年	5,600	67,000	750	7,500	2,400	32,400
三十八年	6,750	99,750	1,390	13,900	3,950	55,000
三十九年	7,500	110,000	1,200	12,000	4,500	63,000
四十年	8,700	147,900	1,450	14,500	5,700	79,500
四十一年	12,500	250,000	1,700	17,000	7,800	108,000

第八 收支計算
 收支 一町歩三千五百本植栽トス(枝縮ハ通常買得者ト負擔トセルヲ以テ茲ニ計上セス)

其一 丸太

種目	收入		支出		備考
	金額	單價	金額	單價	
初回三十年目伐木二千五百本	22,000	1,000			株、損一千本ト見做ス
差引 貳千拾壹圓六拾錢			4,800		
新植地挿入夫	15,000	1,500			
植栽人夫	12,000	1,200			
苗起人夫	11,000	1,100			
下刈人夫	10,000	1,000			
枝打人夫	11,000	1,100			
小計	58,000	5,800			
地租其他諸稅	5,000				
合計	63,000		4,800		
種目	支出		收入		備考
	金額	單價	金額	單價	
下刈人夫	30,000	3,000			七回施行一回平均十五人宛
枝打人夫	20,000	2,000			七回施行平均一株二本宛枝打トシテ五千本一人一日百本打
小計	50,000	5,000			
地租其他諸稅	5,000				
合計	55,000				三十ヶ年分

第七章 北山臺杉作業

種	目	金額	單價	備	考
種	二回目三十年伐木三百二十五本	四七五,000	一,500	二回目ハ皆伐チナサス全成立幹ノ六割五歩ヲ伐木ス	考
	差引 九拾四圓五拾錢				
種	二回以後(新植ヨリ六十年)百年迄				
種	下刈人夫 百五十人	九〇,〇〇〇	一,800	十回(四年目毎)施行一回平均十五人宛	考
種	枝打人夫 五百人	四〇〇,〇〇〇	八00	十回(四年目毎)施行一回平均五十人宛	考
種	小計	四90,000			
種	地租其他諸税	六七,〇〇〇		四十ヶ年分	
種	合計	五五七,000			
種	百年目迄伐木四千二百二十五本	六,337,500	一,500	百年ヨリ百年迄平均々々三年目毎(三回)成立幹(割五分宛(百五本)伐木	考
	總計百年				
	總支出	千四百參拾八圓四拾錢			
	總收入	九千參百貳拾五圓			
	差引	七千八百八拾六圓六拾錢		益	
	平均一ヶ年	七拾八圓八拾六錢六厘		益	
種	新植地拵人夫 三十人	一七,〇〇〇	一,000	備	考
種	栽種 苗	一〇五,〇〇〇	一,000		
	其二 垂木				

種	目	金額	單價	備	考	
種	植栽人夫 三十五人	三三,〇〇〇	一,000			
種	苗起人夫 四人	三,〇〇〇	一,000			
種	下刈人夫 二百四人	三三,〇〇〇	一,000	十七回施行一回平均十二人宛		
種	枝打人夫 四十五人	三六,〇〇〇	一,000	五回施行平均一回九人		
種	小計	一〇五,〇〇〇				
種	地租其他諸税	三三,〇〇〇		十五ヶ年分		
種	合計	一三八,〇〇〇				
種	初回 十五年目伐木 三百本	三〇〇,〇〇〇	一,000	拵一千本ト見做シ一割四分伐木	考	
	差引 貳百七拾五圓八拾錢					
種	種	目	金額	單價	備	考
種	下刈人夫 五十人	五〇,〇〇〇	一,000	五回施行平均一回十人宛	考	
種	枝打人夫 六十五人	五二,〇〇〇	一,000	五回施行平均一回十三人宛	考	
種	小計	一〇二,〇〇〇				
種	地租其他諸税	一七,〇〇〇		十ヶ年分		
種	合計	一九九,〇〇〇				
種	十年目 伐木 二千二百五十本	五五〇,〇〇〇	一,000	四百五十本宛五回(隔年)伐木	考	
	差引 參百九拾六圓					
種	種	目	金額	單價	備	考
種	下刈人夫 二百九十六人	一,480,000	一,000	三十七回施行一回平均八人宛	考	
	二十五以後百年迄(七十五年間)					

第七章 北山臺杉作業

枝打人夫	八百五十一人	六〇、〇〇〇	三十七回施行一回平均二十三人宛
小計		八六、〇〇〇	
地租		二四、〇〇〇	七十五ヶ年分
其他諸税		六、〇〇〇	
合計		一一六、〇〇〇	
種目	金	額	單價
百年目迄伐木	一萬八千五百本	四、一五〇、〇〇〇	三十七回(隔年)分一回五百本宛伐木

總計 百年 總收入 千四百拾壹圓七拾錢
 總支出 四千八百〇四圓

差引

平均一ヶ年 參千參百九拾貳圓參拾錢

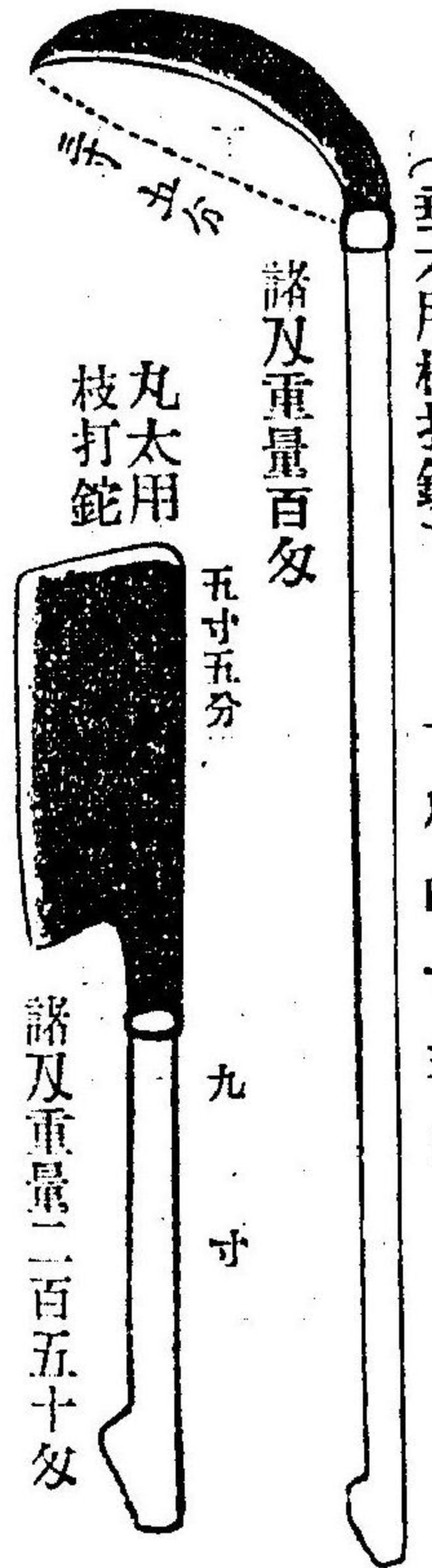
益

收支ハ前記ノ如ク數多ノ利益アリト雖之ヲ以テ直チニ收利ト云フヘカラス何者濬林ニ要スル諸雜費ハ重利ヲ以テ増殖スルモノナレハ眞ノ純收入ヲ知ラント欲セハ必ス重利法ニ依リテ其資金ヲ計算シテ事業ノ利得ヲ決定スヘキナリ

使用器具

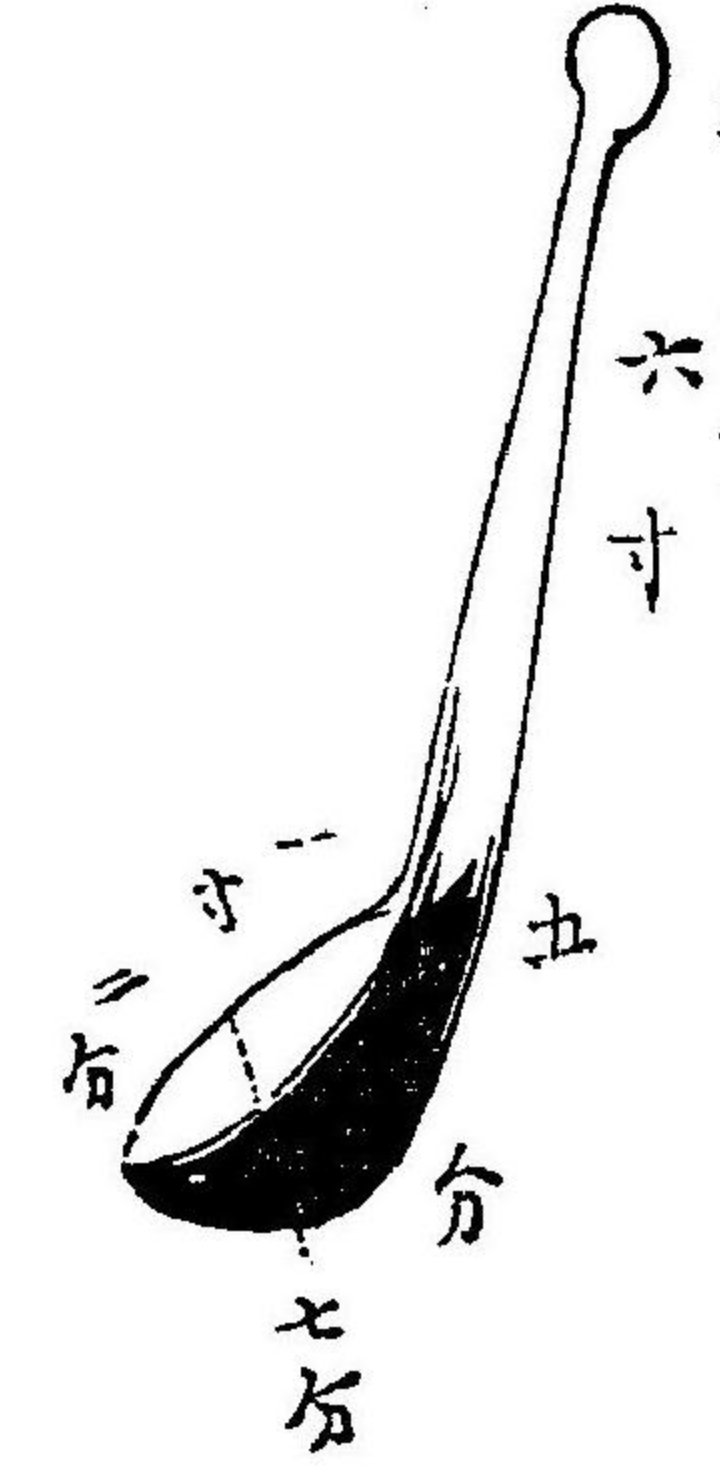
(垂木用枝打鎌)

一尺四寸五分



剥皮篋

六寸

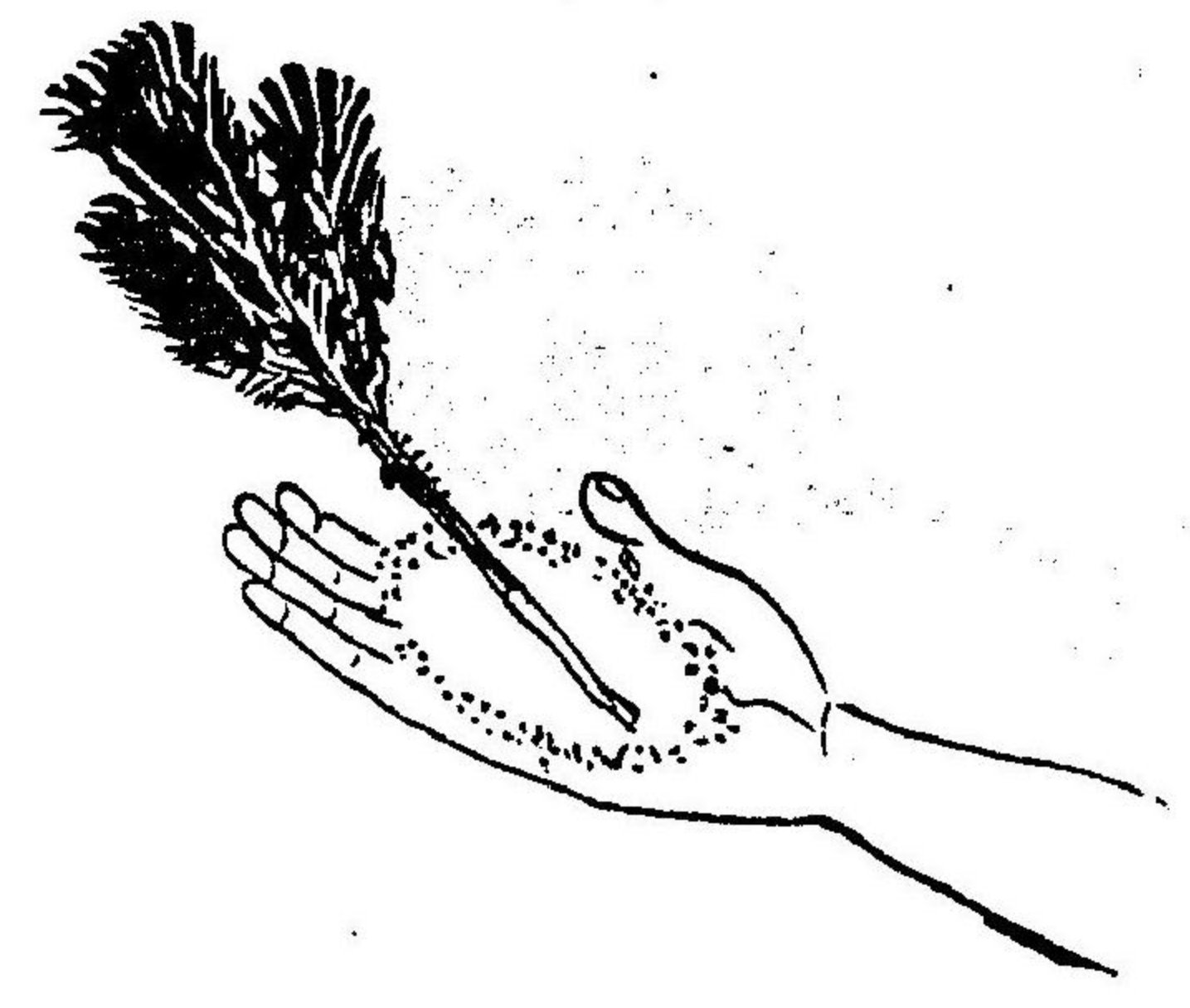


圖ノ如ク銳利ナル鎌ニテ斜ニ切ルヘシ

(一) 檜頭

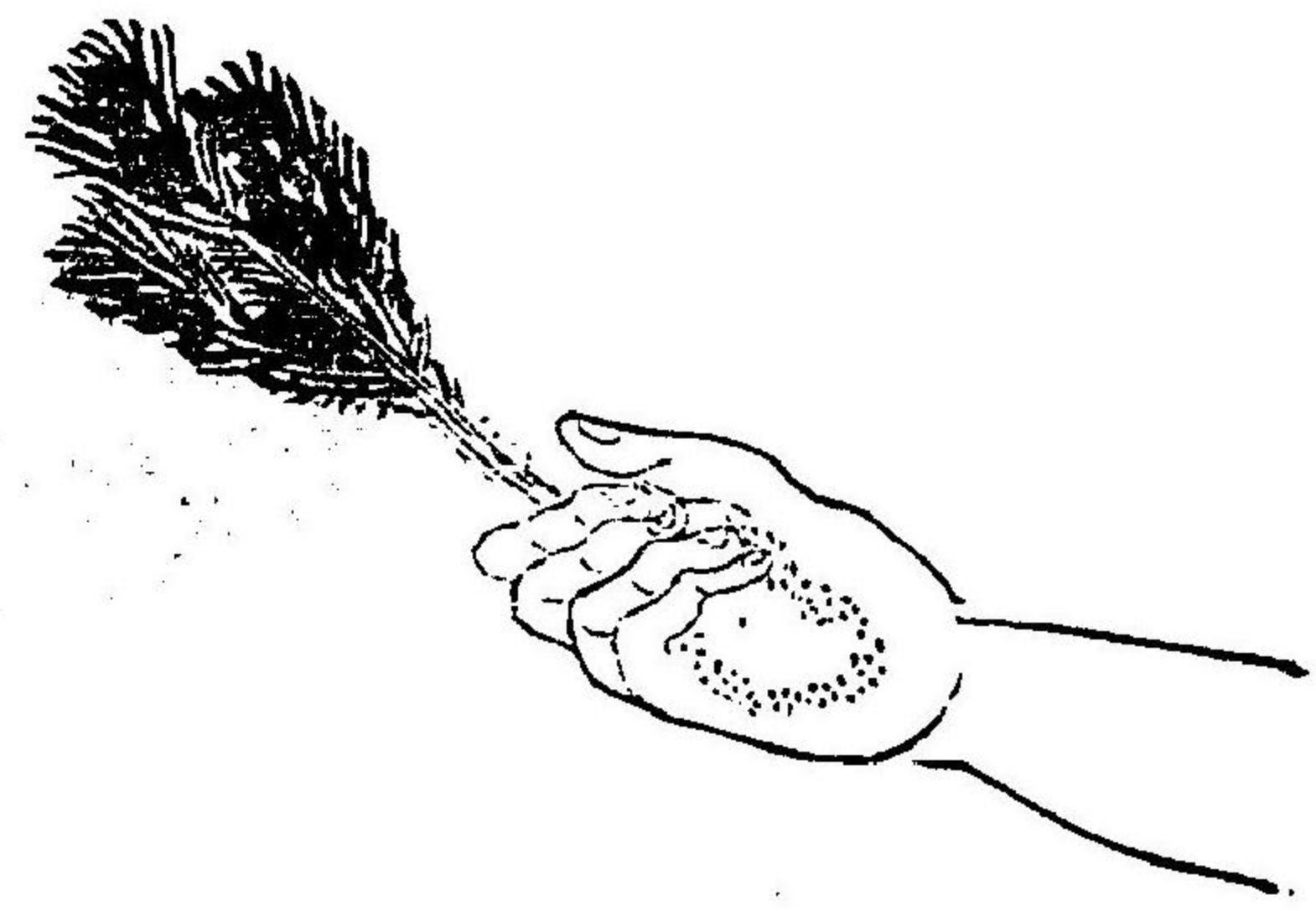


(二)



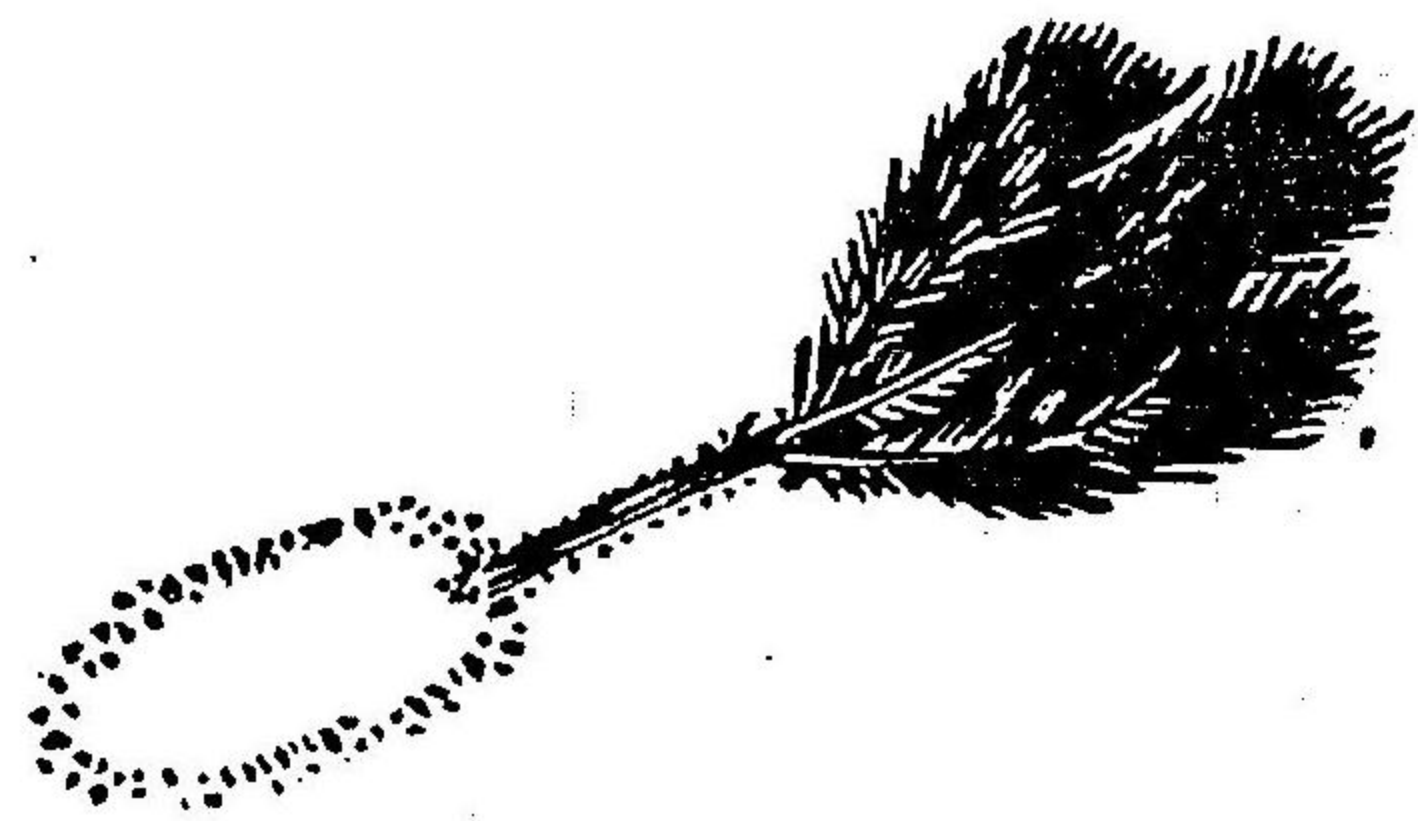
圖ノ如ク檜頭ヲ切り捨ツヘシ

(三)



圖ノ如ク掌ニ赤粘土ヲ載セ挿枝ノ伐リ口ヲ握リ包

(四)



赤粘土ニテ根ヲ包ミタル圖

(五)



此枝ハ候補材(トリ木)トシテ残スナリ

七八年目初メテ枝ヲ打伐リシ圖

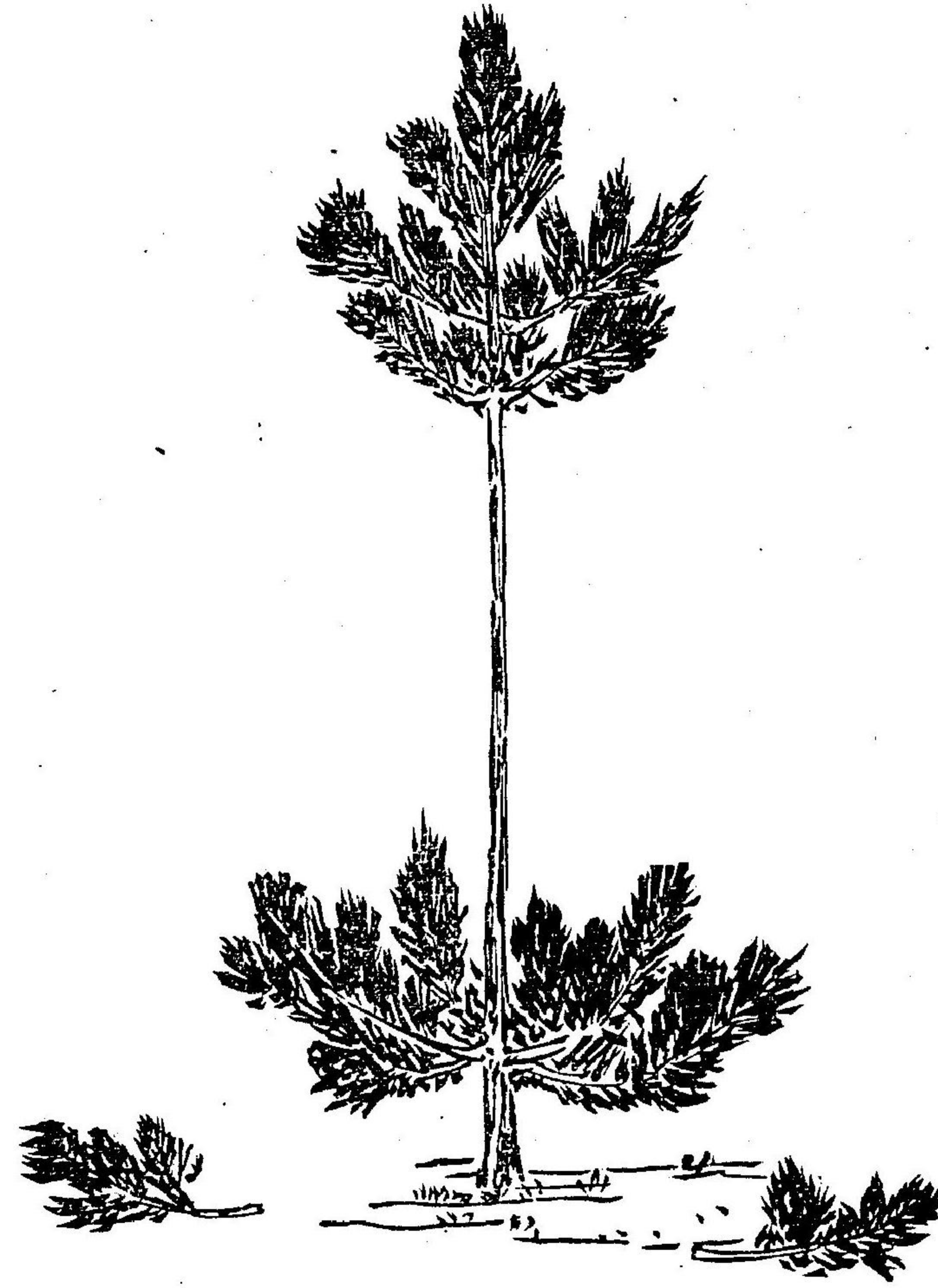
枝ヲ偏長ヤシメサル爲メ枝打ヲ爲ス圖



(六)

十二、三年生立ノ圖

(七)



平均ニ枝ヲ打伐リタル圖

附 名栗丸太及赤松床柱

其一 名栗丸太

起原 天保年間(八年ヨリ十四年迄ナルモ確タル事ハ不明ナリ)弓削村字上弓削嶋子久兵衛ナル者アル時不圖堤防用栗丸太(水質用材)ノ極粗雜ニ六角形ニ削リアルヲ觀テ思ヘラク之レニ己レノ專業トセル袖ノ技術ヲ以テ巧妙ニ六角ノ波狀ヲ附セハヤト試ニ之ヲ製シ愛宕郡鷹ヶ峰村材木商「丹長」ヲ經テ京都ニ出セシニ其技ノ非凡ニシテ且雅趣ニ富メルノ故ヲ以テ臆テ一部人士ノ嗜好ヲ喚起シ一度之ヲ手ニセル者ハ同氣相呼ヒ漸次需要ヲ増スニ至レリ、久兵衛ノ甥嶋子源右衛門志ヲ繼ギ名栗丸太ヲ以テ營業トナスニ至リ同村ノ柚業者其利益ナルヲ知リテ企營セシ者増加セシト雖所謂技神ニ通スル者ニ非ラサレハナシ能ハサルヲ憾ミトセリ

名栗ナル名稱ハ久兵衛ノ有名ナル栗丸太ト假リニ附名セシヲ源右衛門名栗ノ二字ヲ執リ約言シテ名栗丸太ト稱ヘシニ因ルト云フ

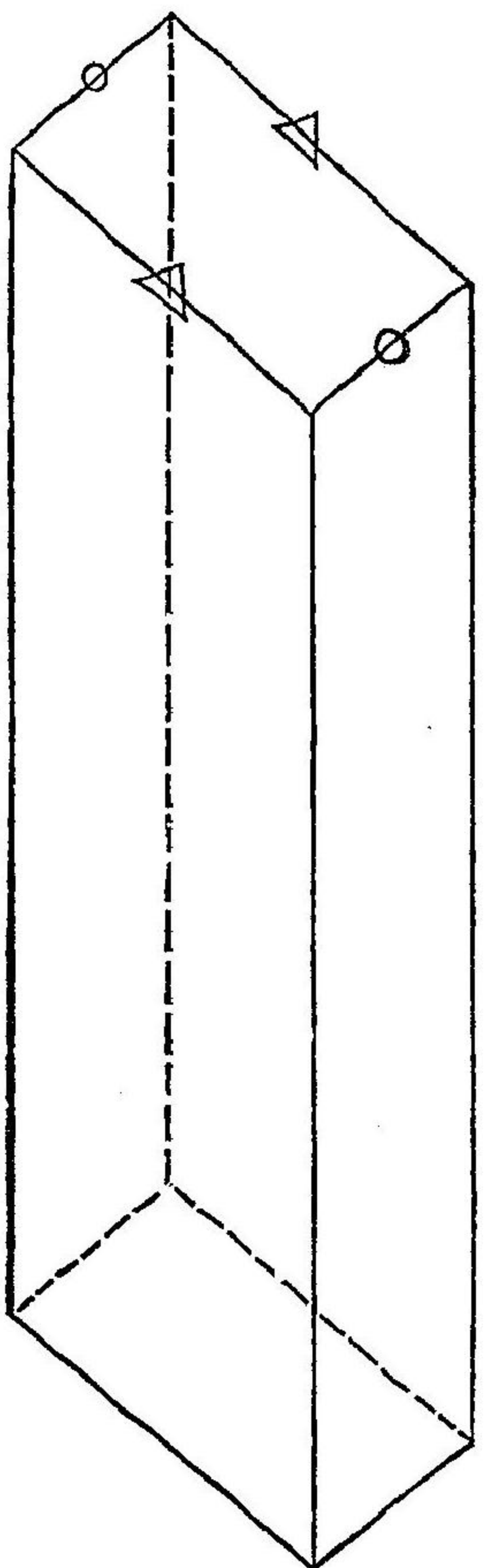
用材 用材ハ栗ニ限ルモノトス櫟小檜等ニテ製セシモ反張龜裂ヲ生シ商品トシテノ價値ナシ伐採期 栗材ハ蟲ニ蝕害セラル、事殆ント絶無ナルヲ以テ何レノ時期ニ於テスルモ不可ナシト雖降雪ノ候ハ伐木ニ困難ヲ感スルヲ以テ大抵春、夏、秋ノ三期ニ於テス

伐採 用材ハ雜木林中ヨリ眞直ニシテ枝ノ附着高キ普通三、四十年ヨリ百年生位(樹齡ハ斯ク限ルニ非ス古キ者程貴ハル乃チ古キモノハ其質緻密ニシテ光澤ヨク斫ツリ易ク之ニ反シテ若キモノハ樹液多ク製材後反張ヲ生シ且ツ利用率少ナシ)ノモノヲ撰定シ伐採ス

製材 伐採終レハ其乾燥セサルニ先チ適當ノ長サ(一丈モノヲ以テ一間半ト云フ然シテ一丈ヲ以テ價格ノ標準尺トナス)ニ伐木シ(需要者ノ好ミニヨリ一丈二尺ニ伐木スル事アルモ極メテ少量ナリ)出來得ル限り大ナル方柱ニ製ス、之ヲ「粗料理」ト云フ

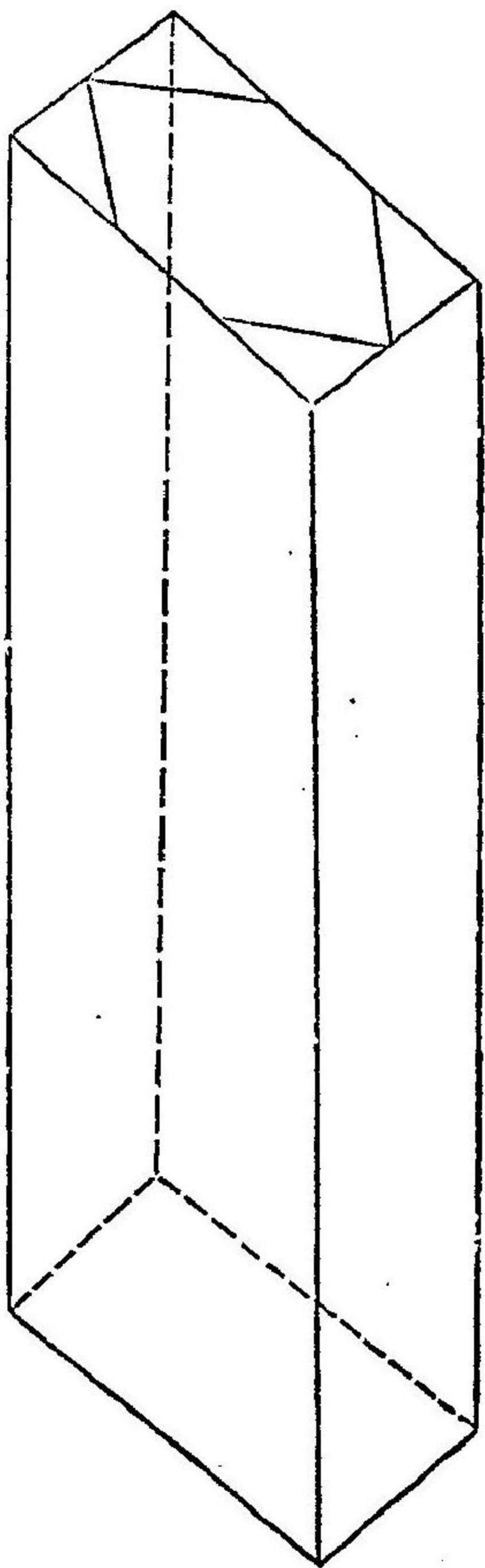
而シテ平行四邊形ノ平行ノ二邊ヲ當初豫期スル方寸ニ鋸扱ス之ヲ「第一粗取」ト稱ス即チ左圖ノ如シ

第一粗取ノ圖



△ノ二邊ハ○二邊ヨリ少シク短カク之ヲ「遠邊」ト云フ

第一粗取リノ圖



之ヨリ以下ハ總テ名栗斫リノ仕事ニ屬ス

次ニ料理臺ニ載セ仕上ニ懸ル、料理臺ハ料木ヲ製スルニ適スル幅及ヒ長サヲ有シナルヘク平滑ナルモノヲ撰フヘシ、之レ角面ト一致セシメノカ爲メナリ、(一丈物ヲ製スルニハ通常長サ二間巾一尺五寸ノ者ヲ用ニ)

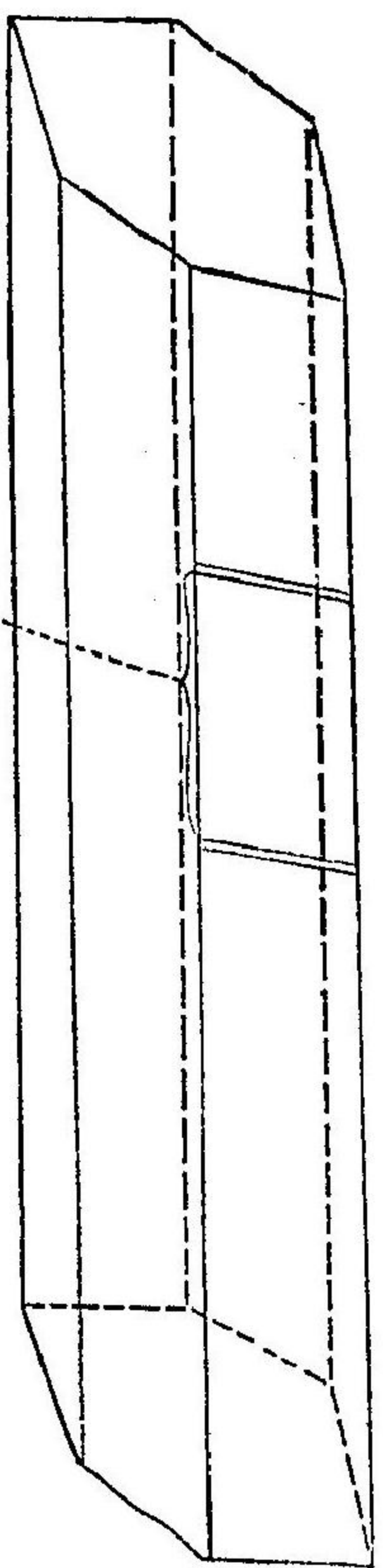
名栗ノ種類 三種アリ波形、竹節形、突鑿トス

先ツ料木ヲ料理木ノ一端ニ載セ兩足ノ爪先ニテ壓ヘ斧ニテ反對ノ面ニ已レノ豫期スル如ク加工ス、加工ノ一邊ハ普通五分ヨリ始マリ一寸五分(之ヲ中丸太ト云フ)四寸(丈丸太ト云フ)ヲ限リトス、之レ以上ハ加工セス

但シ此間ノ寸法ハ注文ニヨリ適宜行フ

波形ハ一邊五分ノ場合ハ普通七八分トシ、中丸太ハ一寸、大丸太ニ於テモ大差ナキモノトス、波ト波トノ關係ハ相隣接スル者ハ互ノ目形ニナル如ク加工ス

竹節形ハ其名ノ如ク一振斧ニテ出來得ル限り長ク上節ハ高ク下節ハ低ク殘存スル如ク斫ルヲ宜シトス即チ左圖ノ如シ



竹節形ノ突鑿ハ第二ノ粗取リヲ飽削シ鑿ヲ以テ前方ニ研穿ス其互ノ目ナルハ波形ニ同シキモ唯穿掘目ノ深(大

突鑿ハ第二ノ粗取リヲ飽削シ鑿ヲ以テ前方ニ研穿ス其互ノ目ナルハ波形ニ同シキモ唯穿掘目ノ深(大

抵二分位)キチ異ナリトス

以上ノ如ク加工ナリシタル者ヲ約三時間流水ニ浸漬シ斧垢ノ除去スル迄充分洗滌シ之ヲ取リ上ケ陽光ノ直射セサル場所ニ於テ乾燥セシム之ニテ名栗ナリトス

前記ノ如ク名栗ハ總テ六角形ナルモ數寄者ノ好ミニヨリ四、五、八、角等アレトモ異數トス

品質 名栗ノ良否ハ加工ノ巧拙、材質ノ緻密、色澤ヲ以テ區別シ白色ヲ良シトシ赤黑色ヲ惡シトス

商品取引 仲買等ノ手ヲ煩ハサス需要者トノ直取引ナリ

運搬 運搬ハ舟棹ノ便ニ依ラス材ヲ傷クル懼レアルヲ以テ全部陸路車載シ紙、苞ノ類ヲ以テ傷損ヲ豫

防シ各注文先ニ送致ス

販路 東名古屋邊ヨリ西廣島邊ニ及フト雖大半ハ京都ニシテ他ハ謂フニ足ラス

用途 細キモノハ天井竿椽、格子、壁止、床用縁、欄干、太キモノハ柵欄干、屈曲セルモノハ潤縁ニ

供ス

生産額 前記久兵衛ノ外四戸專業トセシカ目下原木欠乏ノ結果之ヲ專業トセル者ナク只注文ニ應シ製材スルニ過キス尙同職工ハ原木ノ豐富ナル大阪、名古屋、大和、越前地方ニ出稼キ從事セリ取引ノ尤モ旺ナリシ時代(明治五六年頃)ニ於テハ一ヶ年六七百圓乃至千圓ノ産額アリシト云フ、殊ニ京都市ニ於テ中流以上ノ茶室、木柵等ニハ名栗ヲ見受ケサルモノ殆ント稀ナルヲ見レハ一面生産額ノ大ナルヲ示セルニ似タレトモコハ上述ノ如ク原産地タル北條田郡弓削村ニテハ已ニ原木欠乏ノ爲メ目下該職工ノ多クハ材料ノ豐富ナル他府縣下ニ出稼キ其生産品ノ大半ハ都市ニ集中セラル、カ爲ナルヘシ

收支計算 普通基準トスル長サ一丈一邊一寸ノ波形ニ付テ擧ケレハ次ノ如シ

支 出

拾貳錢

原木代及第一粗取迄

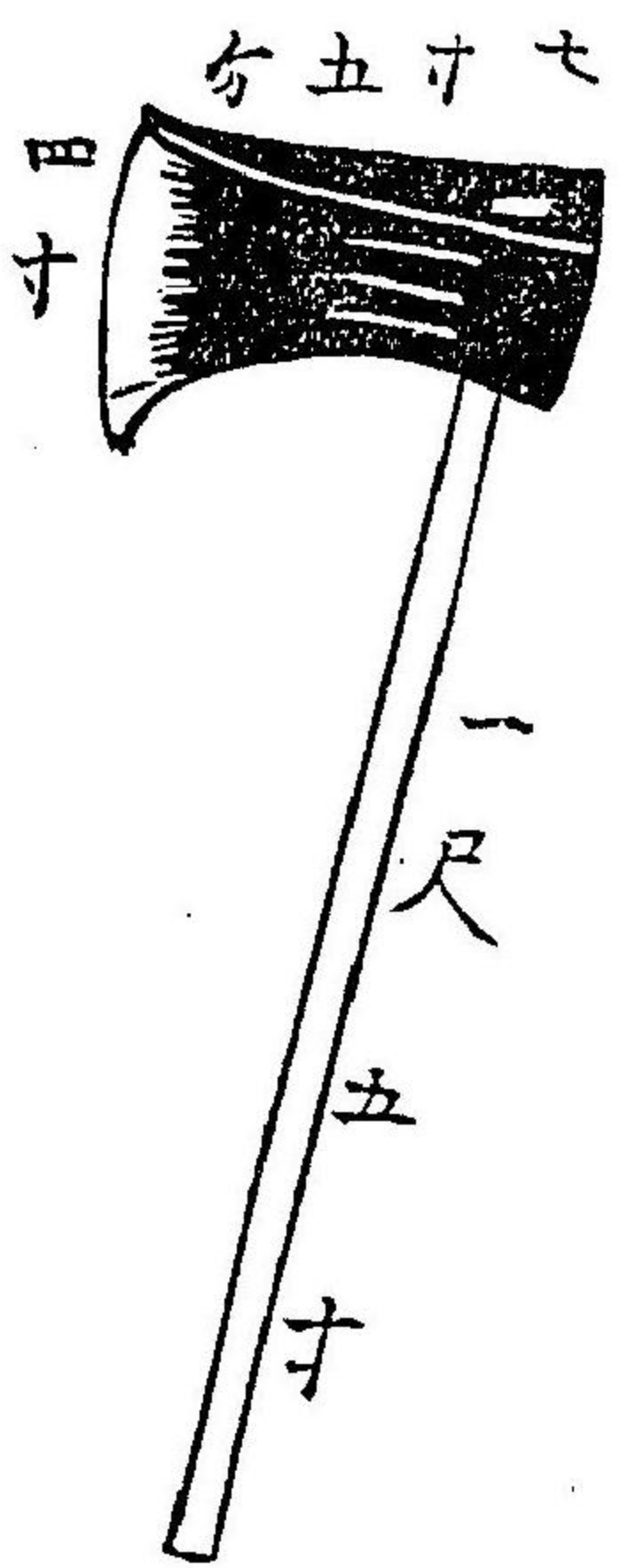
第一粗取ヨリ仕上迄
計

五 錢
拾七 錢

賣 價

拾九 錢

故ニ名栗研職工ノ加工手間賃ハ「ゴービー」錢ニシテ一人一日約十七八本ヲ加工シ得
價格 長サ一丈一邊一寸ノ波形ニテ通常拾九錢一邊一分ヲ増ス毎ニ賣價ノ一割ヲ増額シ一寸八分ヨリ
ハ二割ヲ増ス、竹節形ノモノハ同寸法ニテ參拾錢トス、増寸ニ於ケル増價率ハ前同斷トス、突鑿形ハ
波形ト畧同シ
使用器具



其二 赤松床柱

諸及ニシテ重量三百七十匁
乃至四百匁

起原 古老ノ説ニヨル時ハ創案之ニ從事セリト謂ヒ、或ハ他地方ノ既生産品ヲ摸倣シテ出スニ至リテ
リト云ヒ、諸説茫莫トシテ其何レカ信ナルヤ捕捉スルニ苦シム、然レトモ五六十年前ヨリ産出セシ事
ハ事實ニ徴シテ明カナリ
材質伐採論 赤松磨材ハ當初ヨリ該目的ヲ以テ仕立ツルモノニ非スシテ諸々ノ成林セル林中ヨリ撰定
シ適宜伐木スルモノナリ、即チ四十年生以上ノ赤松密林中ニテ材幹真直、枝下長ク枝根ノ恢復良好且

堅緻皮平滑ナルモノニシテ甫メテ良材ヲ製スルヲ得ルヲ以テ慎重ニ撰定ス

伐木 十一月乃至翌春三月中旬末夕樹液ノ流動セサルニ先テ鋸及ヒ鉋ヲ以テ根際ヨリ一間ヲ捨テ其上
ヲ長短ニ應シ枝下二間乃至三間末三寸五分乃至五寸五分ニ切斷シ各自宅ニ持テ歸リ製材ニ着手ス、
製材

脊割 末口三寸五分内外ノモノハ一寸二分、五寸内外ノモノハ一寸五分ノ幅ヲ有スル如ク鋸ニテ二條
ニ木髓ニ達スル迄脊捨チナス、之レ磨材ハ炭火干燥セシムルヲ以テ用材ノ後龜裂、割裂ヲ生セサラシ
メシカ爲ナリ

剝皮 脊割ヲ終レハ直チニ金篋(普通大工ノ尺金ノ古キモノヲ用ユ、目盛アル爲大ニ便利ナリ)ヲ以テ
外部ノ皮ヲ剝キ起ス、(俗ニ「死皮」ト稱シ生長セサル皮ナリ)此時尤モ注意ヲ要スルハ内部ノ皮(俗ニ
「生皮」ト云フ)ヲ傷ケサラン事ナリ

炭火乾燥 三月中旬乃至下旬火爐ニテ乾燥セシム、火爐ハ幅一尺長サ三尺深サ一尺ノ地中ニ穴ヲ穿チ
タルモノニ木炭(普通「川上」)ヲ用ユ炭質堅キニ失スル時ハ火氣狂温トナルヲ以テ一様ニ乾燥スル事難
シ)一貫目ヲ投入シ兩側ニ高サ五寸ヲ有スル枕木ヲ横タヘ其上ニ原木ヲ併列ス、一時ニ乾燥スル量ハ
三本ヲ限リトス、乾燥中ハ不絶轉々反覆シテ偏頗アルヘカラス、而シテ外部ノ皮ノ脱落セントスル時
ヲ見計ラヒ火爐ヨリ卸シ藁繩ヲ以テ脱皮シ内部ノ皮ヲ帶赤赤色ノ光澤ヲ生スル迄琢磨ス

赤松磨材ニ於テ火入及ヒ琢磨ハ尤モ技工ヲ要スル所ニシテ熟練ノ職工ト雖往々失敗スル事アリ即チ炭
ノ入方過不及アル時ハ外部ノ皮ニ黒斑色ヲ生シ或ハ乾燥充分ナラス、要ハ原皮色ヲ變セサル程度ニ於
テ巧妙ヲ期スヘキナリ
末口四寸内外ノモノハ一回ノ火入琢磨ニテ充分ナレトモ五寸内外ノモノハ四月上旬再度火入琢磨スル
ヲ要ス、此時ハ初度ニ比シテ少シシ黒色ヲ帶フル迄行ヒ琢磨モ綿密施行スルモノトス、普通三貫目炭

俵ニテ約五十本男一人一日五十本ヲ琢磨スル事ヲ得
琢磨了セハ直チニ木柵ニ立テ懸ケ日光ニ曝露(雨中ノ時モ取入レス)ス
別ニ赤松ノ垂木ト稱スルモノアリ、長サ八尺以上十四尺以下ニシテ末口五分以上一寸以下ノモノヲ使
用ス、其伐採ヨリ琢磨ニ至ル迄施業床柱ニ等シケレハ省畧ス
販路及使途 京都及ヒ大阪トス他地方ハ大抵大阪商人ヲ經由スルモノトス用途ハ床柱ヲ専用トシ偶々
茶席、東屋ノ柵ニ供ス
取引ノ状況 仲買人ニ販賣シ、一切小賣ハナサ、ル習慣ナリ
運搬 菰ニテ梱包シ陸路京都ニ大阪行ハ高瀬川ニ依ルモノトス
品質及ヒ價格 需要ノ多キハ末口三寸五分内外ノモノナリ末口五寸以上ニ及フ者ハ大ナル床ニ非サレ
ハ供用セサルヲ以テ却テ安價ナリ品質ノ尤モ真好ナルモノトハ眞直ニシテ本末同材ニ近ク材質堅緻、
皮薄ク且ツ帶爲赤色ノ稍透明的光澤アルモノトス價格ハ技工ノ巧拙、技質ノ如何ニヨリ一定シ難ク下
等品ハ貳圓内外上等品ハ拾數圓内ニハ數拾圓ノ異例ヲ示ス事アリ然レトモ普通品ト謂ヘハ先ツ參四圓
位トス時價左ノ如シ

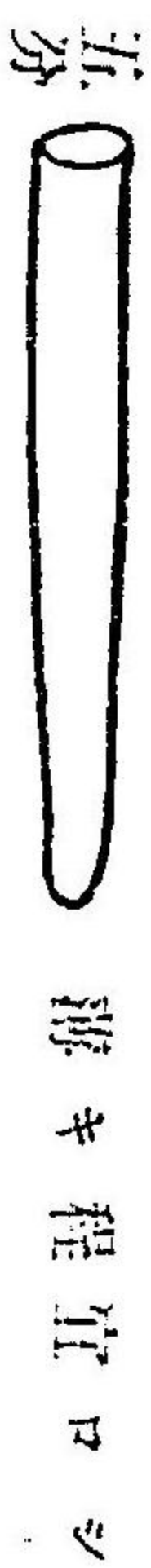
種別	床柱			垂木		
	上等品	中等品	下等品	上等品	中等品	下等品
長サ一丈	六、七〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇	一、一〇〇	一、七〇	一、五〇
長サ二間	七、〇〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	一、二〇〇	一、三〇	一、九〇
長サ三間	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇	一、九〇	一、九〇

年次	赤松			赤松		
	數量	價	格	數量	價	格
三十四年	八〇〇	八〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	一、〇〇
三十五年	八〇〇	九〇〇	一、一三六	六〇〇	六〇〇	一、〇〇
三十六年	六〇〇	八八〇	一、四六七	四〇〇	四〇〇	一、〇〇
三十七年	六〇〇	九〇〇	一、一六六	五〇〇	五〇〇	一、〇〇
三十八年	七〇〇	一、〇五〇	一、五〇〇	五〇〇	五〇〇	一、〇〇
三十九年	七〇〇	一、三三〇	一、九〇〇	五〇〇	七五〇	一、五〇
四十年	九〇〇	一、八七〇	二、一〇〇	五五〇	九三五	一、七〇
四十一年	九五〇	二、一八〇	二、四〇〇	八〇〇	一、六〇	二、〇〇

收支 長サ一丈末口三寸五分ノ床柱十本ニ付テ示セハ左ノ如シ

名稱	支出		收入	
	費用	部	名稱	價格
原立木十本代	四、〇〇〇	上製木十本賣拂代	三、五〇〇	
伐出	二、〇〇〇			
春割	五、〇〇〇			
炭	四、〇〇〇			
火入琢磨	一、二〇〇			
乾燥木柵場設置	〇、〇六〇			
計	八、一六〇			

使用器具



第八章 狩 獵

第一 京都御獵場

沿革

明治二十一年中雲ヶ畑外六ヶ村内ニ御獵場ヲ創設セラレタルモ御都合上二十二年中止サレシ以來雲ヶ畑村民等ノ悲惜痛嘆一方ナラス茲ニ同時波多野六之丞嶋井恒之進等主トシテ復興ヲ伏望シ爾來十有五年ノ星霜ヲ經過セシニ時恰モ征露 大詔ノ喚發以來連戰連捷遂ニ旅順要塞ノ開城ヲ見ルニ至リ六之丞ノ長男富之助同村々長ノ時之ヲ村民ニ謀リ此際紀念トシテ御獵場ノ再設ヲ奉願シ明治三十八年九月愛宕御獵場ヲ設定セラル、ニ至レリ而シテ同四十二年十一月更ニ獵區ヲ擴張サレ京都御獵場ト改稱サレタリ

- 一 本御獵場ト云ケ畑トノ關係及ヒ 皇室ニ捧獻セル來歴ノ大要ヲ窺フニ同村ハ元丹波國桑田郡ニ屬シ山國ノ内高所或ハ高谷ト稱セシニ弘仁年間御國擴張ノ節山城國葛野郡ニ編入シ小野郷十ヶ村ノ内中畑、中津、出谷等ノ村稱アリシニ元祿六年右三村ノミ愛宕郡ニ編入シ明治七年二月合シテ雲ヶ畑村ト改稱サレタリ本村ハ古來 皇室御直領下ニ屬シ往昔ヨリ 皇室ニ奉公セル最モ深ク艾葉菖蒲ナ 風關ニ捧獻シ及内裏修理職等ヲ司リ又御吉凶ノ式ニ諸種ノ御用ヲ蒙リ本村ノ河川ハ御用川トシテ毎半夏季ニ於テ日點魚ヲ献上セル等故舉ニ逸マアラヌ尙古書舊記ニ據リ其最タル一二ノ例ヲ擧グレハ左記ノ如シ

獻捧艾葉菖蒲濫觴

人皇十七代仁德天皇之御宇即位三十九辛亥年五月始而獻菖蒲見獻後人皇四十五代聖武天皇ノ御宇天平十八丙戌年五月五日始而於殿閣令懸菖蒲艾葉云云

獻捧艾葉菖蒲之式

毎年獻捧艾葉菖蒲前七日外懸門戶七五三丙爲事清淨潔齋然而捧兩種至 帝城一宿而翌四日至辰刻着素袍烏帽于獻捧之 風關或涼閣若有時穢之刻艾葉菖蒲獻捧内侍所當役之時自恒例致清淨潔齋甚嚴密也其當人掛門戶七五三於門前建禮札書記不可 爲當役人潔齋中不言語干諸人且獻捧兩種日於道路不經一宿而五月四日辰刻直昇 禁關自南御門之東道登門令參入獻捧内侍所矣

内裏修理 職 濫觴

人皇五十代桓武天皇之御宇延暦十三甲戌年平安城御遷都之術大和國添下郡島見庄島見御殿守護職タリシ爲虎ノ子本性大神爲勝ナル人柳頭梁職木工頭當地ニ來リ雲ヶ畑ト改庄シ内裏柚土御料ト定メラル 桓武天皇ノ御遷都ノ時ハ丹波國桑田郡北山中深山ハ大樹數十萬叢生シ天朝重代ノ柚土三十六人ヲ召出サレ銘々實名ヲ賜リ當所へ差向ケラル夫レヨリ雜兵ヲ召集シテ愈以テ奉精勵葛野内裏御造營在ラセラル于時五三寸三尋ノ苑木ハ當地官人ヨリ献上シ御造營成就ス尤國始メ開闢ノ吉例ヲ以テ本郷ヲ山國ト名付ケ當庄ヲ高所又ハ高谷ト稱セシテ雲ヶ畑ト改庄セラレタリ本郷官人ヲ始メトシテ枝郷ニ至ルマテ不殘所領家祿ヲ下シ置セラレ如斯深遠ナル關係ヲ有セシニ明治維新ニ際シ特殊ノ御用ハ免セラレシモ明治二十一年御恩召ニ因リ雲ヶ畑村外六ヶ村内ニ御獵場ノ御創設アリシニ至レリ

本御獵場ハ 文德天皇第一皇子惟喬親王御遊獵ノ舊地ナリ

京都御獵場區劃及面積

本御獵場ハ京都市ヲ距ル西北五里餘ノ處ニ位シ山嶽重疊急斜ナル森林多クシテ林相稍鬱蒼トシテ丹波丹後方面ノ諸山ヨリ來集セル鳥獸ノ棲息場トシテハ頗ル適當ノ場所ナリトス其區劃及面積ヲ示セハ左ノ如シ

區 劃

- 第一區 愛宕郡ノ内 雲ヶ畑村、鞍馬村ノ内大字一ノ類、靜市野村ノ内大字市原上賀茂村ノ内大字上賀茂、大宮村ノ内大字西賀茂、葛野郡ノ内 小野郷村ノ内大字眞守

第二區 愛宕郡ノ内 雲ヶ畑村ノ内小字横成

葛野郡ノ内 小野郷村大字大森、小野、杉阪

第三區 愛宕郡ノ内 靜市野村大字市原、野中、鞍馬村ノ内大字二ノ瀬、貴船

一金面積五千二百二十四町三反四步

郡名	村名	面積
愛宕	雲ヶ畑村全部	千五百八町六反五畝二十一步
同	大宮村ノ内	三百七十九町六反四畝十三步
同	上賀茂村ノ内	百八十六町六反九畝八步
葛野	中川村ノ内	五十四町一反一畝六步
同	小野郷村ノ内	千五百四十六町七畝二十九步
愛宕	鞍馬村ノ内	千七百七十三町二畝八步
同	靜市野村ノ内	二百七十六町九畝九步
同	鞍馬村ノ内 貴船園有林	百十五町八畝二十五步

本場ノ御獵主要鳥獸及有害動物

- (甲) 猪、鹿
 - (乙) 雉子、鶺鴒、鶉、兔、
- 有害動物

狼、鷲、

御獵場保護及狩獵季并ニ方法

一 保護監督

本御獵場ノ保護監督ハ頗ル嚴重ナルモノニシテ監督長及監督、見廻人並ニ保護囑託員等二十一名ノ職員常ニ御獵區域内外ヲ巡視シ嚴密ニ御獵場ニ於ケル鳥獸蕃殖ノ狀況並ニ鳥獸ノ員數等ヲ豫メ調査シ監督長ハ之レ等ノ調査書ヲ作製監督長ハ時々報告ヲ怠ラス監督長ハ之ヲ更ニ實地ニ綜合查察シ主獵寮ヘ報告スル等保護監督上頗ル周到ナリトス其狀況報告方法等ノ例ヲ擧ケレハ左記ノ如シ

京都御獵場内鳥獸蕃殖狀況第一回報告 (三十九年十二月一日)

一 御獵場内雲ヶ畑方面

當方面ニ於ケル獸類ノ蕃殖ハ頗ル夥シク就中猪ノ棲息數ハ昨年ニ比シ三四割増加ノ傾向アリ是レ全ク昨年來殆ント終聲ヲ聽カサル爲メ交尾後北方ニ歸還セス御獵場内ニ於テ猪兒ヲ産ミ濕地ヲ掘起シ蟲類ヲ喰ヒ秋分田畑及林産物ニ被害ヲ與ヘ近年稀ニ觀ルノ損害過大ナルハ全ク安全ナル居住地トナシ棲息スルモノト相考フ、猪ノ棲息頭數等ハ詳細取調フル能ハサルモ概テ左記ノ如シ就中五頭連三頭連等各別ニ群ヲナシ山林内ヲ縱横ニ足趾ヲ印ス親猪ノ大ナルモノニ至テハ半大ノ足趾ヲ止ム鹿ノ蕃殖ハ猪ノ如ク林産物ニ被害ヲ及ボスコト僅少ナルヲ以テ著シク判明セス然レトモ頭日人家附近ニ四五頭群ヲナシ數度出沒シ餌ヲ喰ヒ少シモ恐怖ノ念ナク棲息スルヲ觀レハ全ク猪同様安全ナル棲息地トナスモノニ有之從テ昨年ニ比シ多數蕃殖セルモノト認ム昨年ヨリ御獵場内ニ棲息セシ熊ハ今夏雲ヶ畑村小梅ニ出沒セシ趾アルモ其後上賀茂村十三石山方面ニ棲息シ狩獵期ニ入ル前行衛不明ニシテ現ニ御獵場内ニ棲息スルヤ否ヤハ判明セス鶺鴒ノ蕃殖ハ前年捕獲セサルト林産物實獲作ナリシニ依リ夥シク蕃殖セルモノト認ム獵場内巡回ノ都度飛逃スルニ微シ明ナリ

一 上賀茂村十三石山方面

當方面ハ餘程暖氣ナルヲ以テ猪ノ土着スルモノ皆無ト云フヘク唯時々雲ヶ畑村方面ヨリ散步的ニ或ル一部分ヲ遊涉シ直ニ歸還スルヲ以テ棲息地トハ認メ難ク從テ蕃殖セス唯北方ニ降雪甚シキ時期ニ限り一時ノ避寒地トナスノミナリ鹿ハ猪ト異ナリ交尾後棲息スルモノ二十頭ヲ算ス絶エス字袴谷邊ニ出沒スルノ趾ヲ認ム鶺鴒ハ雲ヶ畑方面ニ於ケルト同様多數蕃殖セリ

一 大宮村方面

當方面ニ於ケル猪ハ五頭連、三頭連、二頭連ノモノ三組同部落ノ東方約十町以内字尾横ナル山林内ヲ棲息地トナシ巧ミニ出沒シ秋分田畑ニ多大ノ損害ヲ加ヘ今尙ホ毎夜哇哇ト堀起シ食料ヲ求メツ、アルヲ以テ棲息地ヲ變更スルコトナク全ク土着ノモノト認メテ可ナリ鹿ハ蕃殖居住ノ趾ヲ認メス唯雲ヶ畑村方面ヨリ時々往來スルノミ鶺鴒ハ各方面ノ如ク蕃殖セルモノト認ム尙ホ當方面

後國熊野郡久美谷村ニ於ケル鴨汲ミ獵等ノ如キハ稍見ルヘキモノトス故ニ其概況ヲ左ニ記述ス而シテ野獸々獵法等ハ御獵地ニ於ケルモノト大同小異ナルヲ以テ省畧ス

久世郡巨椋池ノ狩獵

巨椋池ハ久世郡ノ北西隅ニ位シ周圍四里餘ニ渉ル恰モ湖水ノ如キ大池ニシテ魚鳥ノ繁殖其數ヲ知ラサルモノ、如シ舊藩時代ニアリテハ或ル區域ヲ定メ禁獵ノ制アリ藩吏ノ殺生場トシ魚鳥類ノ捕獲ヲナシタリト雖モ別ニ著シキ狩獵方法ナカリシト云フ然ルニ維新後ニ於テ禁獵解除ト共ニ一般狩獵ノ盛ナルニ隨ヒ種々ナル方法ヲ以テ鳥類ノ捕獲ヲナスニ至レリ其方法ノ概況ヲ記述セハ左ノ如シ

(一) 銃 獵 (二) 網 獵 (カスミ網 ムソツ網)

(三) 高 繩 獵 (四) 鵜 繩 流 獵

右四種ノ狩獵方ニシテ近來盛ニ狩獵セル爲メ漸次魚鳥類減退スル狀況ヲ呈セリ然レトモ毎年狩獵期滿ツル頃ヨリ青鷺鳧雁等ヲ始メ其他ノ諸鳥群ヲナシ來集シ魚舟遊者等接近スルモ別ニ驚ク模樣モナク水面上ハ恰モ鳥類ノ博物場タル感アリ如斯鳥類ノ棲息繁盛ナルニ一朝獵期ニ入ルヤ其當日ノ如キハ諸方面ヨリ獵者ノ來集雲ノ如ク銃ニ或ハ網ニ鵜ニ種々ナル獵具ヲ携ヘ陸ニ或ハ水上ニハ小舟ヲ利用スル等用意周到ニシテ現場ハ恰モ戰場ノ如ク獵期時刻ヲ待ツコト殆ト軍隊指揮官ノ號令ヲ待ツカ如キ感アリ時刻來ルヤ一齊ニ打チ出ス銃聲天地ニ響キ其光影壯觀ナリ銃ニ網ニ鵜ニ捕獲サル鳥類萬ヲ以テ算セラルト云フ如斯有様ナルヲ以テ其翌日ヨリ青鷺ノ如キハ銃聲ニ驚キ其跡影ヲ留メス何處ニ歎遁逃移轉スト云フ

狩獵ノ方法ニ至リテハ何レモ一定ノ規律ナク銃ニ網ニ鵜ニ各方面ニ於テ各自隨意ノ方法ニ據ルカ故ニ捕獲數モ比較的少キ感アルモノ、如シ

狩 獵 方 法

(一) 銃 獵ノ如キハ小舟ヲ利用シ巧ニ諸鳥ヲ銃殺捕獲セリ

(二) 鵜 繩 無 雙 網 ト モ ニ 池 水 上 約 二 三 尺 ノ 處 ヨ リ 巾 六 尺 長 八 間 ノ 細 糸 製 ノ 網 十 張 リ 十 五 張 又 ハ 二 十 張 ト 各 要 所 ニ 於 テ 風 下 モ ニ 張 網 ヲ 設 置 ス 此 網 ニ 掛 リ 得 ル 處 ノ 鳥 類 ハ 鳥 子 主 眼 ト シ 其 他 ノ 諸 鳥 子 捕 獲 ス

(三) 高 繩 獵 ハ 細 キ 繩 ニ 鵜 ヲ 塗 リ 水 面 上 約 二 三 尺 ノ 處 ニ 恰 モ 網 ノ 如 ク 張 繩 ヲ ナ シ 鳥 類 ノ 水 面 上 二 下 ラ ン ト ス ル 際 此 鵜 繩 ニ 掛 リ タ ル 諸 鳥 類 子 容 易 ニ 捕 獲 ス ル モ ノ ニ シ テ 頗 ル 簡 易 ナ ル 愉 快 ノ 方 法 ナ リ ト ス

(四) 鵜 繩 流 獵 ハ 高 繩 法 ト 同 様 ナ ル 細 繩 ニ 鵜 ヲ 塗 リ 諸 鳥 ノ 群 集 ス ヘ キ 要 所 ヲ 查 定 シ 水 中 ニ 流 シ 置 キ 水 鳥 ノ 水 中 ヲ 浮 遊 シ ツ、 ア ル モ ノ 自 然 ニ 此 鵜 繩 ニ 懸 リ 自 由 ヲ 失 ヒ タ ル ト キ 容 易 ニ 之 レ ヲ 捕 獲 ス ル 方 法 ニ シ テ 頗 ル 簡 單 ナ ル 方 法 ナ リ ト ス

熊野郡久美谷村ノ鵜 獵

熊野郡ハ丹後ノ西隅ニ位シ北西ハ日本海ヨリ灣入スル久美濱灣ニ臨ミ其周圍ノ諸山ハ稍鬱蒼トシテ各種魚族ノ棲息場ニシテ鴨ヲ始メ各水鳥食餌ヲ得ノ爲メ來集スル其數幾萬ナルヲ知ラス之レヲ捕獲セシトスル狩獵者ハ銃ニ網ニ各獵具ヲ以テスルモ稱贊スヘキモノニアリテハ鴨汲ミト稱スル一種ノ捕鳥術ナリトス之レカ沿革ハ更ニ不明ニシテ知ルヲ得サルモ今ヲ去ル凡一百年以前ヨリ執行セルモノ、如ク左ニ其概様ヲ記述ス

狩 獵 ノ 位 置

久美濱灣ヲ去ル西南ニ向テ約一里餘本郡ト城崎トノ郡界ニ位スル所ニテ山脈ハ西北ヨリ東南ニ連瓦モル山尾通リノ凹所(谷ニ山ノゲ)ヲ水鳥鴨ノ通過セル際之レヲ捕獲スルモノニシテ本位置一對ノ諸山ハ多ク柴草繁茂スルモ鬱蒼タル森林ハ遠ク山麓ニ下テラサレハ見ルヲ得サル山頂凹所ノ位置ナリ

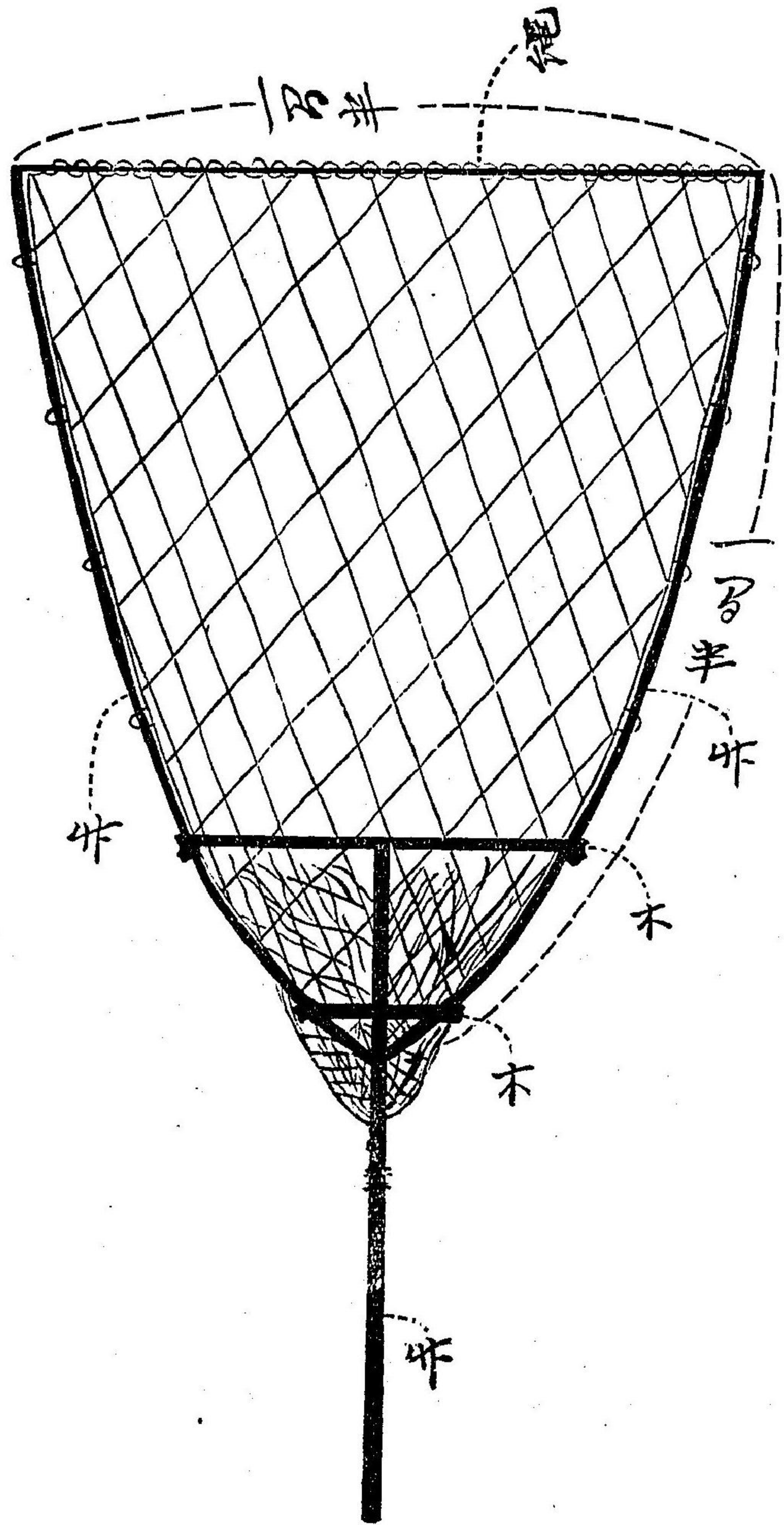
狩獵ノ季節

鴨汲ミ捕鳥ノ季節ハ氣候變遷ノ遲速ニヨリ多少ノ相違アルハ數ノ免カレサルモ毎年九月中旬頃ヨリ翌年三月下旬頃迄ノ間ニ於テ晝ハ鴨ノ日本海及久美濱灣等ニ來集シ夜ハ城崎郡但馬方面ノ水田等ニ食餌ヲ得ノカ爲メ此期間ニ於テ往來集遊セルヲ捕獲スル季節トナス

狩獵方法及器具收獲

鴨汲ミ狩獵ノ方法ニ至リテハ頗フル巧妙ナルモノニシテ毎年研究熟練セサレハ此捕鳥術ヲ行フコト不可能ナルモノニテ實ニ奇抜ナル方法ナリトス前叙ノ狩獵位置ナル山尾通リナル凹所ニ於テ數十名ノ獵者ハ各自左圖ノ如キ鴨汲ミ網ヲ以テ午前三時頃ヨリ凹所ヨリ一二間下リタル所ニ於テ鴨ノ但馬方面ヨリ日本海ニ向ツテ通過スルヲ待テ遙ニ鴨ノ來ルヲ認ムルトキハ各獵者ハ網ノ竹柄ヲ以テ匍伏用意周到ニ待テ受ケ今ヤ凹所ヲ通過セントスル瞬間ニ此ノ網ヲ上方ニ放テ上リルモノニシテ多數ノ鴨ハ此網袋ニ飛入數間或ハ十數間網トトモニ飛行遂ニ地上ニ落ツルヲ待テ直ニ之レヲ捕獲スル方法ニシテ其技術ノ巧妙ナルコト稱贊ニ堪ヘサラシム鴨ノ通過スル時間ハ約二三時間ニシテ夜ノ引明ケ頃ニ至リ全ク通過ヲ終ルト云フ
獵具タル網ハ麻或ハ絹糸ヲ以テ製シタル一寸三分目内外ヲ普通トス其他網ノ構造ハ左圖ヲ參照スヘシ
捕獲高ハ其年ニ於テ多少増減ヲ生スヘキモ平均一ケ年千羽内外ニシテ價格約四百圓内外ヲ通例トス

鴨汲ミ網ノ圖



第九章 府ノ施設

第一 公有林野ノ整理

本府ノ公有林野ハ臺帳ノ示ス所ハ僅カニ三萬五千餘町歩ナリト雖モ目測反別ハ實ニ十五萬町歩ニ達シ
 民有林中最モ荒涼不毛ノ狀ヲ呈シ經濟ノ保護ヲ破リタルノミナラス中ニハ公安的關係ヲ害スルニ到リ
 タルモノナキニアラス又肥料若クハ牛馬飼料ト稱シ濫火延焼セシメ地力減耗シ遂ニ國土保安上ニ危害
 ナルヲ虞ヒナシトセサルモノナキニアラス要スルニ最モ廣ク一大團地ヲナシ林業經營上有利ノ地域
 ナラセラルニ拘ラス經濟的利用セラレシテ多クハ不生産的放任ノ狀態ニアルモノ少カラサルナリ
 本府ニ於テハ已ニ明治十七年共有山林保護條例ヲ制定シ次テ共有山林保護規約ヲ作りテ示シ以テ大ニ之
 レ等整理ニ付テ獎勵セラレ其結果各町村ノ多クハ該規約ヲ設ク整理ニ努ムルニ至リ成績大ニ見ルヘキ
 モノアリキ彼ノ南桑田郡龜岡町有林、同郡篠村ニ於ケル林野ノ整理、船井郡質美村有林ノ如キハ全ク
 之レニ胚胎セルモノト云フヘキナリ
 然ルニ明治十九年府下ニ於ケル官林農商務省ノ直轄トナリ凡テノ事務本府ノ手ヲ離レ民林ニ對スル獎
 勵監督ハ振ハサルニ至リタルヲ以テ之レ等林野ハ苛酷ノ取扱ヲ受クルニ至レリ然レトモ時勢ノ進歩ハ
 之レヲ許サス森林法ノ發布ト共ニ地方人士ノ醒覺スル所トナリ公法人ノ財産トシテ適當ノ經營ト適當
 ノ管理方法ヲ講スルモノアルニ至レリ然レトモ之レ等ハ隕天ノ星ニ當ナラスシテ尙不生産的放任ノ狀
 態ニアルモノ多キ時ナル故明治三十七八年戰役ハ實ニ一ツノ清涼劑ヲ與ヘタルト同一ニシテ町村部
 落其他團體等戰時紀念林ヲ設定スルモノ多ク林野ハ正ニ整理ノ狀態ニ向ヒタリキ更ニ府ハ公有林野整
 理規程ヲ發布シ或ハ獎勵ヲ加ヘ或ハ強行ヲ加ヘツ、アルモノニシテ其効果ハ空シカラス町村其他團體

等ノ適當ナル經營ト管理法ヲ講スルモノ多キヲ加ヘ更ニ一歩ヲ進メ部落有テ町村ニ統一シ以テ適法ノ
 經營管理スルモノアルニ至レリ南桑田郡曾我部村何鹿郡東八田村及船井郡梅田村ノ如キハ其顯著ナル
 モノニシテ目下此方針ヲ以テ整理セントシ已ニ着手中ノモノ若ハ之レカ考究ニ腐心スルモノ多シトス
 又何鹿郡物部中筋、與謝郡三河内、桑飼村及中郡河邊村ノ如キハ公有林野中山骨露出シ土砂流出スルノ
 地ニ向ツテハ町村若ハ部落又ハ青年會軍人會等ノ事業トシテ砂防的造林ヲナシ著々整理スルニ至レリ
 以上ハ單ニ整理ニ向ヒタル趨勢ヲ示シタルノミニシテ面積上ヨリ云フ時ハ僅カニ二分一ニ過サルナリ
 殘餘二分一ニ向ツテハ目下着手中ノ山林調査ト相俟テ極力獎勵ヲ加ヘ期年ナラスシテ完成セントス然
 レトモ其ノ一半ハ容易ニ整理セシメ得ヘキモ尙其ノ一半ハ舊來ニ於ケル習慣ノ錯雜セルト入會權ノ存ス
 ルトニ依リ一層ノ困難ヲ來スヘシ入會山ノ如キハ特ニ然リトス之レ等ニ向ツテ適當ノ處置ヲ講シ以テ
 根本的ニ解決シ整理セシメント期スルモノナリ
 今次ニ前記南桑田郡外ニケ村ニ於ケル部落有林ノ統一並ニ整理方法等ヲ掲ク

- 一 南桑田郡曾我部村部落有山林ナリ有ニ移シタル狀況
 - 部落有山林ハ古來夏季ニ於テハ綠肥ヲ採取シ冬季ハ肥料ヲ採ルノミナリシヲ以テ火入チナストキハ善其ナル綠肥ヲ得ラルト唱
 へ毎歲春季ニ於テ部落總出役ニテ火入チ執行セリ爲メニ立木トシテ見ルヘキモノナカリシカ其ノ方法タル收利上ノ其策ナラス
 且ツ早損水災ニ影響渺ナカラサルヲ慮慮スルニ至リ明治十七八年ノ頃孰レモ松樹ノ伐採ヲ禁シ中腹以下ヲ綠肥刈取場ト定メ下
 柴ノミハ燃料トシテ部落民ノ隨意刈取ヲ許スコト、ナセリ以後明治二十七八年ニ至リ松樹ノ茂生ヲ見ルニ至リシヨリ伐期ニ至
 リ莫大ノ收入アルヲ思ヒ其場合ニ於テ收利ノ富者ニ沒收セラレントノ疑念ヲ惹起シ紛議ヲ生ゼリ茲ニ於テカ種々協議ノ末左
 記貸地料ヲ徵シ字穴太郎落ノミハ三十ヶ年ノ期限ヲ附シアルモ他部落ハ無期限ニテ部落民ニ區有山林ノ全部ヲ貸與シ收利ハ住
 民各戸ニ配分スルヲ約シ漸ク鎮靜セリ
- 本村ハ左記九大字ヲ付テ組織セラレ各大字共ニ山林ナリ有ス

字春日部	山林六町二反九畝十五歩	貸地料年額	金七圓也
字甲	山林二十八町一反八畝歩	同	金拾貳圓也

有之サレト毎歲貸地料ノ收入ハ金六百圓内外ニシテ土地ニ對スル租稅公課ハ百圓内外ナルヲ以テ差引金五百圓ノ剩餘ハ之レヲ
普通基本財産ニ蓄積シ三十年ノ後ハ元利合計四萬五千圓以上ノ蓄積ヲ見ルノ像定ナルヲ以テ土地還付當時ニ至リ伐期ニ至ラサ
ル立木ハ之レヲ以テ相當價格ニ買收シ茲ニ始メテ完全ナル管理ノ下ニ基本財産ノ確定ヲ見ル見込ニ有之候
以上

何鹿郡東八田村ハ村内八大字ニ岐シテ從來何レモ公有山野所有セルモ殖林保護ノ途充分ナラス基本財産タルノ價値無キニヨリ現任村長山
室龜太郎ハ區有財産ヲ統一シ村有財産ニ移スノ策ヲ講シ昨四十年十一月十四日之ヲ區會ニ提案シ議決ヲ經テ實行セリ其方法ハ公有山野
ノ算少ナル於與岐區ヲ率トシ各區ノ地價戶數ヲ標準トシ左記ノ如ク各區ヨリ無償ニテ村有ニ移シ統一ヲ決行セリ

- 中山區 五町四反壹畝貳拾九步
 - 安國寺區 拾貳町五反八畝貳拾步
 - 梅道區 拾七町六反七畝拾壹步
 - 高槻區 拾八町八反六畝拾九步
 - 上杉區 拾八町壹反六步
 - 於與岐區 拾八町五反貳拾六步
 - 黑谷區 四町九反壹畝壹步
 - 奥黑谷區 貳町八反五畝貳拾八步
- 此整理ノ大要左ノ如シ
- 一 百拾町九反貳畝拾步
 - 丙 六拾叁町壹反五畝四步
 - 現在雜木林、杉、檜混淆林
 - 差引發四拾七町七反七畝拾六步
 - 此實測面積五拾壹町八反七畝貳拾九步
 - 丙 四拾六町壹反七畝貳拾九步

赤松ノ天然林(天然下種保育)

貳反步
五町五反步

四十一年四月杉、檜植栽
四十二年以後造林地

船井郡梅田村公有林整理

本村ハ公有林ノ沿革ニ就テハ別ニ調スヘキ材料ナキモ在來ノ森林ハ常ニ鬱蒼タル林相ヲ保チ又往昔ヨリ僅カニ杉檜ノ天然下種ニヨリ育
生セル苗ヲ移植シ以テ建築橋梁等ノ用ニ供シタル形跡ハ歴然タリサレト一般林業思想ノ發達セサルハ當地方ハ山間僻地ニシテ峻坂且ツ
水運ノ便ナク常ニ人肩牛馬ノ脊ニ據ラサルヘカラサルカ故ニ收支償ハスシテ自然如此小成ニ安シタルカ如シ其ノ大部分ノ柴草山ハ是
又往昔ヨリ年々歲々火入ナシ且ツ草根木株ヲ採集シ來リタルヲ以テ漸次衰頽益々荒廢ニ傾キ隨ツテ水旱洪水ハ年々逐テ甚タシク殊
ニ明治十九年山陰街道ノ改修成ルト共ニ運搬ノ利便大イニ開ケタルヲ以テ從來鬱蒼タル真林モ近々數年ニシテ其ノ林相ヲ破リ所謂坊主
山ニ化シ去リタリ茲ニ於テ有志ノ者ハ區々之レカ挽回策ヲ講スルモ一向其ノ難ナク實ニ荒廢慘又慘ヲ極ム次イテ明治二十二、三年ノ頃
時ノ村長助役ハ之レカ同復策ヲ細明シ整理ハ勿論尙ホ進シテ殖林ノ急務ナルヲ唱導シ部落及ヒ個人ニ付キ熱心ニ奨勵意リナク一面隣郡
氷上地方ヨリ杉檜標等ノ苗樹ヲ購入セシメ處々ニ植栽ヲ試ミ且ツ天然林ノ増殖ヲ圖レリ然リト雖モ未タ林業ニ幼稚ナルト愛林思想及殖
林ノ智識一般ニ普及セサルヲ以テ明治三十四年村長辻幸太郎氏ハ北桑田郡及ヒ吉野地方ノ林業地ニ視察員ヲ派シ殖林志願ノ普及ニ努メ
タリ爾來之レカ改善發達ヲ計リツ、有リシカ恰カモ其ノ府ハ明治三十九年公有林野整理規程ヲ發布セラレシヲ以テ屢々府技師ヲ聘シ其
ノ精神及ヒ方針ニ付テ懇談ヲ請ヒ一般ニ整理ノ必要ヲ徹底セシメ漸ク本年始メテ之レカ整理其ノ緒ニ付キ從來ノ火入ハ施對ニ禁止スル
ニ到レリ

經 營

- 一、明治三十五年區有山林殖林計畫ヲ確立シ(其ノ方法書別冊)同時ニ之レニ要スル苗木ヲ仕立ツルタメ杉檜ノ播種ヲ村農會ニ囑託シ
播種植付ノ方法等ヲ專ラ其ノ當時本府林業巡回教師監督指導ノ下ニ行ヒツ、明治卅八年始メテ栽種セリ其ノ後引續キ養成シ全ク明
治四十三年ヲ以テ完了ノ見込ナリ
- 一、明治三十九年公有林野整理委員規程(別ニ掲ク)ヲ設ケ整理委員ヲ撰舉シ且ツ又各部落ニ於テモ其ノ區整理委員ヲ撰舉セシメ相呼
應シテ諸方面ニ涉リ之レカ調査ヲナシ熟議協定シ以テ遂行ヲナシタリ其ノ協定事項左ノ如シ
- 一、綠肥採取地ハ耕地ノ約二倍(現今耕地反別二百九十二町九反七畝五步)其方法ハ區共同シテ從前ノ通り採取スル乎又ハ各戸ニ地域
ヲ定メテ採取スル乎ハ各區ノ事情ニヨリ任意トセリ
- 二、牛馬ノ飼料地ハ平均一戸ニ付二反步(現在農戶數四百五十戸)ニ對シ牛馬頭數二百頭ナルモ一戸ニ付キ一頭宛飼養シ得ル迄ノ餘地

ヲ存セリ

三、燃料採取地平均一戸ニ付キ約一町步(現在戸數四百六十戸ナルモ將來約三割ヲ増戸ス。假想シ其ノ餘地ヲ存セリ)ノ方法ハ之レ
 又區域ヲ定メテ輪代法ヲ行フカ又ハ各區ニ地域ヲ定メテ支配セシムルモ其區ノ隨意トセリ

四、殘餘ノ地ハ總對ニ村基本財産ニ統一スルノ豫定ナルモ各部落ノ提供地ニ均一ヲ得サルヲ以テ其ノ部落ニ於テ造林ヲナサシメ稍々
 平衡ヲ得ルヲ俟ツテ逐次統一セントス

公有山野整理委員規程

- 第一條 本村公有山野整理ノ爲メ公有山野整理委員三名ヲ置ク
- 第二條 公有山野整理委員ハ公民中ヨリ村會ニ於テ選舉ス
- 第三條 公有山野整理委員ノ職務權限左ノ如シ
 - 一、明治三十九年京都府訓令第一號公有山野整理規程ニ基キ本村公有山野整理方法ヲ調査スル事
 - 二、公有山野整理ニ關シ村長ノ諮問ニ應答シ意見ヲ陳述スル事
- 第四條 公有山野整理委員ノ報酬ハ一人一ヶ年參圓トシ執務一日ニ付金貳拾五錢ノ手當ヲ給ス
- 第五條 本規程ハ整理方法調査完了濟ノ上ハ其効ヲ失ヒ委員ハ解職スルモノトス

附 則

本規程ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

區有山林造林方法書

- 各區有山林ノ内ニテ其區ニ本籍ヲ有シ且ツ住民タルモノニ凡ソ反別一反五畝步宛地上權ヲ許可シ造林セシムルモノトス
- 區有山林ノ内肥草刈取ニ差支ナキ場所若シクハ從前肥草刈取リ來リタル場所ニテモ縮少ニテ差支ナキ地所ヲ選ビ造林地ヲ定ムルモ
 ノトス
- 一 己人ノ持分ナルソ反別一反五畝步宛トシ之ヲ三區ニ區分シ三期ニ造林ヲサシムルモノトス
 - 一 己人ノ持分ハ三區共同一ヶ所ニテセシ地味及運搬ノ便否ヲ參酌シ大抵其持分ノ公平ヲ保ツ事ニ區分ス可キモノトス
 - 一 己人ノ持分ハ抽籤ノ方法ニ依テ定メ苦情ノ起ラサル事ニ期ス可シ
- 持分ノ境界ハ杭若シクハ溝筋等ヲ設ケ他日境界ノ紛議ノ起ラサル事ヲ期ス可シ

苗木ハ一年生ノ杉檜(杉七分、檜三分)ノ見込ミニテ村農會ヲシテ播種セシメ一戸分凡ソ三百三十本(内三十本ハ枯死補植ノ見込)
 ヲ無代配付セシムルモノトス

苗木仕立及種子代ハ村ノ補助ニ依リ村農會ニ於テ扱フモノトス

一年生ノ苗木ノ配付ヲ受ケタル時ハ充分ノ注意ヲ加ヘ移植シ三年生ニ至リテ造林地ニ新植スルモノトス

造林地ニ植込ミハ林業視察シタルモノニ付充分開墾シテ後若手スル事

其他ハ地上權設定證書案及保護規約案ニ依ル此方法ニ依ル

造林ハ明治三十八年ニ第一回造林ナスモノ、ミニ適用ス

何村字何區有山林地上權利者造林及保護ニ關スル規約

- 第一條 此規約ハ梅田村字何區有山林ニ地上權ヲ設定シタルモノハ申合セニ依リ造林及保護ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス
- 第二條 地上權設定地ノ各自區分ヲ定ムルハ一己分ヲ三個所ニ區分シ地味ノ善惡運搬ノ便否ニ依リ凡ソ公平ヲ期シ抽籤ヲ以テ定ム
- 第三條 造林ハ一己人分ヲ三期ニ區分シ明治三十八年第一期トシ爾後三ヶ年毎ニ杉檜苗木ヲ新植スルモノトス
- 第四條 保護ハ左ノ方法ニ依ル
 - 一 下草刈割シ各自ノ持分ニ於テ新植ノ翌年ヨリ凡ソ何ヶ年間年々一回宛其後ハ隔年若シクハ三年毎ニ刈割シ凡ソ雜草ノ發生セ
 サルニ至リテ止ム
 - 二 雪損若シクハ枯損ハ各自持分ニ於テ相當手入レヲナスヘシ
 - 三 害虫鳥獸其他火災等ノ災害アル時ハ共同從事スヘシ
 - 四 開伐時期ハ評議員ノ評定ニ依ル
- 第五條 地上權利者ハ造林及其保護ニ係ル一切ノ事務ヲ評議處辦セシムル爲メ組合員ノ互選ヲ以テ評議員 名ヲ置ク
 但シ任期ハ四ヶ年トシ滿期再選スルコトヲ得
- 第六條 評議員ハ公民權ヲ有スルモノニ限ル
- 第七條 評議員ノ互選ヲ以テ正副理事二名ヲ置キ理事ハ評議員ノ評議シタル事項ヲ執行シ又別ニ規定セサル外部ニ對シテ組合員
 ナ代表シテ交渉スル事アルヘシ
- 第八條 副理事ハ理事ヲ補佐ス

第七條 理事ハ地上權地内ヲ時々巡回シ造林ノ整齊保護如何ヲ視察スヘシ

- 第八條 造林及保護ノ方法ハ凡テ理事ノ指揮ヲ受ク可シ
- 第九條 地上権利者ニシテ此規約ニ定ムル造林ヲナサ、ル時ハ此規約加名者ノ共同持分トシテ造林ヲナスモノトス
- 第十條 地上権利者ニシテ此規約ニ定ムル保護ノ手入ヲナサ、ル時ハ共同手入ヲナシ其費用ハ伐採立木賣却金ノ内ヨリ先取ヲナスモノトス
- 第十一條 非常ノ災害ニ罹リ間伐木ヲ自家ニ必要アル時ハ理事ニ申出テ評議員ノ評定ニ依リ伐採セシムル事アルヘシ
- 第十二條 皆伐ハ可成権利者全時ニナスモノトス
- 第十三條 間伐及皆伐共總テ自儘ニナス事ヲ得ス
- 第十四條 此規約ノ改正加除ハ總會ノ決議ニヨル
- 第十五條 此組合ニ要スル經費ハ組合員ノ負擔トス
- 第十六條 此規約ハ區有財産管理者ノ承認ヲ經テ施行ス

(造林各自施設見込書式ハ略ス)

命令

- 第一條 分區造林担当者ハ明治三十八年ヨリ向フ七ヶ年間ニ自費ヲ以テ杉植ヲ新植造林シ及保護ヲナスヘシ
但シ此期間ニ造林ヲナサ、ル時ハ其未成部分ニ對シテハ担当ノ許可ハ消滅ス
- 第二條 苗木ハ一年生ノ杉植苗(杉苗凡ソ七分、檜苗凡ソ三分)ヲ壹區分凡ソ壹千本トシ三回ニ分チ無代交付ス
分區造林担当者ハ前項ノ苗木ハ充分ノ注意ヲ加ヘ移植シ三年生ニ至リテ担当區ニ新植スヘシ
- 第三條 分區造林担当者ハ杉植ヲ新植スル外他ノ樹種ノ造林ヲナスコトヲ得ス
- 第四條 分區造林担当者ハ造林シタル立木ノ皆伐、間伐トナ間ハス其代價ノ百分ノ九十五ヲ報酬トシテ交付ス
- 第五條 造林シタル立木ハ新植後四十ヶ年ヨリ五十ヶ年間ニ於テ皆伐ヲナス
但シ造林担当者ニシテ其ノ期ニ皆伐ヲ望マサル時ハ延期スルコトヲ得
- 第六條 間伐及皆伐ノ際立木賣却ノ方法ハ區有財産管理者ト分區造林担当者トノ協議ヲ以テ決定ス
- 第七條 保護及間伐ノ手續ハ其區分區造林担当者ノ申出ヲ以テ組合規約ヲ定メ區有財産管理者ノ認可ヲ受クヘシ
其規約ノ改正加除ヲナス時亦同シ
- 第八條 保護申合規約ノ定ムル期間外ニ於テ造林担当者ニシテ災害ニ罹リ若クハ自家家屋建築等ノ爲メ間伐木ヲ必要トスル場合ハ

組合役員ヲ經テ申出ツル時ハ許可スルコトアルヘシ

- 但シ此場合間伐木ノ代價ハ組合役員ノ定ムル評價ニヨル其評價額ノ百分ノ五ヲ區有財産管理者(納ムヘシ)
- 第九條 分區造林担当者ノ許可ヲ受ケタル權利ハ相續ノ外賣却價與買入書入ヲナスコトヲ得ス
- 第十條 分區造林担当者ニシテ其區外ニ本籍ヲ轉シ若シクハ住民タルノ資格ヲ失ヒタルトキハ其擔當ノ權ハ自ラ消滅スルモノトス
但シ此場合ニ於テハ造林ノ最初ヨリ受シタル金額及勞賃ヲ精算シ其半額ヲ交付シ其殘額ハ區ノ所得トス
- 第十一條 分區造林担当者ニシテ他家若クハ廢家ヲナシタルトキハ其擔當ノ許可ハ自ラ消滅スルモノトス
- 第十二條 分區造林担当者ニシテ此命令ニ違背シ若クハ此命令ノ條項ヲ遵守セサル時ハ此許可ヲ取消シ其受クヘキ權利ハ自ラ消滅スルモノトス
- 第十三條 分區造林担当者許可ハ其許可ヲ受ケタルモノニ於テ此命令ヲ誠實ニ遵守スル時ハ公共ノ用ニ供スル爲メ取用セラル、外區ノ爲メ取消スロトナシ

第二 模範林ノ經營

公有林野ノ荒廢セル前述ノ如クニシテ之レカ整理ハ刻下ノ急務ニ屬シ且之レカ完全ナル整理ハ至難ナル何人ノ肯首スル所ニシテ本府ニ於テハ一ツハ之レカ整理ノ資ニ供シ一ツハ中小規模ノ林業經營ノ模範ヲ示シ有利ニシテ安固ナル事業ノ特質ハ町村其他基本財産ノ造成ニ適スルコトヲ誘導シ併セテ造林法ノ改善ヲ促シ以テ一般林業ノ發達ニ資シ且府基本財産造成ノ目的ヲ以テ案ヲ具シ明治三十八年通常府會ニ提出シテ協賛ヲ得明治二十九年度ヨリ實行セルモノナリ之レカ計畫及施設方法ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ

- 一 植林地ハ一千町歩ニシテ府下ノ公私有地ニ地上權ヲ設定シ收益ノ十分ノ二ヲ土地所有者二十分ノ八ヲ府ノ所得トス
- 一 造林事業ハ十一ヶ年ノ繼續ニシテ毎年度ノ植栽面積ハ左ノ如シ

初年	二年	三年	四年	五年	六年
三〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
計	七	八	九	十	十
年	年	年	年	年	年
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

一 植栽スヘキ樹種及其割合ハ次ノ如シ

一 前項樹種ニシテ造林地ニ不適當ナリト認ムルトキハ他ノ樹種ニ變更ス

一 一町歩ニ對スル植栽木數ハ土地ニ依リ異ナルモ其標準ヲ示セハ次ノ如シ

杉 六千本 扁柏 六千本 赤松 六千本 櫟 四千五百本

事業ノ順序ハ明治三十九年度ヨリ植樹及樹苗ノ栽培ニ着手シ明治四十九年度ニ於テ新植ヲ完了シ

同五十五年度ニ至ル迄下草刈拂及保護ニ從事シ一段落ヲ告グルモノトス

一 經費年度割ハ別表ノ如シ

一 伐期ハ次ノ如シ

杉 五十年

扁柏 六十年

赤松 五十年

櫟 第一回十二年第二回目ヨリ十年

年次	造林費	苗圃費	小計	管理費	雜費	總計
一	九、九六〇、〇〇〇	二、六八〇、二九〇	三、六七六、三九〇	一、二七五、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇	四、九九八、九八〇
二	二、〇四九、八四〇	二、二八二、三五〇	四、三三二、一九〇	一、一七一、五〇〇	一、七二〇、〇〇〇	五、六七五、七四〇
三	二、五三三、六八〇	三、一〇八、五九〇	五、七三二、二七〇	一、六二〇、〇〇〇	九七〇、〇〇〇	七、四四九、二六〇
四	二、九五五、六八〇	二、七五六、六六〇	五、七一二、三四〇	一、六三〇、〇〇〇	九七〇、〇〇〇	七、四四九、二六〇
五	四、五八三、六八〇	三、一九九、五九〇	七、七八三、二七〇	二、一五二、五〇〇	一、〇九〇、〇〇〇	一〇、〇九七、七六〇
六	六、一三三、五五〇	三、一九九、五九〇	九、三三三、一四〇	二、八二一、五〇〇	一、三二〇、〇〇〇	一三、四七五、一四〇
七	六、六八三、四〇〇	三、一七六、一六〇	九、八五九、五九〇	三、八三六、五〇〇	一、五二〇、〇〇〇	一五、二一六、〇九〇
八	七、一七五、四〇〇	二、九八四、六六〇	一〇、一六〇、二六〇	三、八三六、五〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一四、一〇七、七六〇
九	七、六〇七、四〇〇	二、四三九、七四〇	一〇、〇四七、一四〇	三、八三六、五〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一三、九八四、六四〇
〇	七、八八三、四〇〇	一、三七六、七六〇	九、二六〇、一八〇	四、一四一、五〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一三、五二二、六八〇
一	七、四八四、四〇〇	一、三三七、〇〇	七、五九八、一〇〇	四、一四一、五〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一三、八八〇、六〇〇
二	三、九一一、五〇〇	—	三、九一一、五〇〇	四、一四一、五〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	八、一六四、〇〇〇
三	二、九二八、〇〇〇	—	二、九二八、〇〇〇	一、五九九、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四、五五七、〇〇〇
四	一、八八四、〇〇〇	—	一、八八四、〇〇〇	一、五九九、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三、五五三、〇〇〇
五	一、二〇〇、〇〇〇	—	一、二〇〇、〇〇〇	一、五九九、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二、八二九、〇〇〇
六	四〇〇、〇〇〇	—	四〇〇、〇〇〇	一、五九九、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二、二九九、〇〇〇
七	二〇〇、〇〇〇	—	二〇〇、〇〇〇	一、五九九、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、六二九、〇〇〇
計	六、六六一、九三〇	二、七四八、五三〇	九、四〇〇、四六〇	四、二四七、六〇〇	一、六六六、二〇〇	一三、八七一、六五〇

備考 植栽ハ十一年ヲ以テシ爾後六ケ年間ハ下蒔等ノ手入ヲ要スルニ付十七年迄經費ヲ要ス

一、模範林現況

苗圃 前記ノ計畫ニ基キ第一着手トシテ造林ニ要スル苗木養成ノ爲メ苗圃ヲ設置セリ明治三十九年ヨリ連年繼續施行シ一ツハ山城國愛宕郡修學院村ニ一ハ丹波國船井郡檜山村ニ一ハ丹波國與謝郡城東村ニ分設シテテ四十二年ニ至リテハ施業ノ關係上丹波國中郡五箇村、北桑田郡大野村ニ分苗圃ヲ設ケテテ之レ主苗圃ハ主トシテ一二年生ノ苗木ヲ培養シ併セテ其附近ノ模範林地ニ植栽スル山行苗圃ニ栽培ス分苗圃ハ造林地附近ニ設置スルモノニシテ一、二年生ヲ主苗圃ヨリ供給ヲ受ケ一ケ年間培養シ林地ニ栽植スルモノトス而シテ本年ヨリ與謝郡城東村苗圃ヲ廢シ同郡上宮津村ニ移シ又加佐郡岡田中村ニ分苗圃ヲ設置ス之レ前述ノ目的ニ外ナラサルナリ栽培セル樹種ハ扁柏、杉、松、櫟等ニシテ其ノ數量及經費等ハ左ノ如シ

府有模範林樹苗養成本數年別總括表

種目	借地料積	樹種	播種數			床替本數			計
			面積	數量	第一回	第二回	第三回		
三九	一五、〇八七ノキ、スギ、アカマツ、ク	ヒノキ、スギ、マツ、クヌギ、クヤキ、ホウササリ	二六二八	二二〇、五	七、四二一	一七、四六一	—	—	二四、七三三
四〇	三〇、〇三三	全	二、二一七	三〇、七〇	四、六二〇	三、九〇九	—	—	七、九一三
四一	四、五二五	全	一、八三三	一、四〇八	六、〇一七	四、〇四〇	—	—	一〇、五一七
四二	七、六七二	全	一、五一九	一、四四〇	二、〇四八	二、六八四	—	—	九、〇〇〇
計	二〇、〇八一	全	一、一〇一	八、一〇三	三、一八六	一、七五五	—	—	一、三四三

植栽 模範林地ハ府會ノ希望ニ依リ可成各郡ニ設置セントシ已設林地ハ八ヶ所ニシテ明治三十九年度ヨリ植栽ニ着手シ其造林面積ハ百四十四町六反廿八步ニシテ植栽セル本數ハ八十三萬七千三百八十本ナリトス而シテ將來施設スヘキ模範林箇所ハ現在ニ倍スルニ至ルヘシ一ヶ所ニ於ケル林地面積ハ三十町以上四百町歩ニ亘ルト雖モ四、五十町歩ノモノ多シトス如斯小面積ニシテ各郡ニ点在スルヲ以テ將來ノ施業管理ハ特ニ考慮ヲ要スヘキモノナリトス而シテ植栽後ニ於ケル成績ハ各模範林ヲ通シ地位ノ優劣ニ應シ概シテ良好ナルヲ認ムルモ植栽後僅カニ二ケ年餘ヲ經過シタルノミナルヲ以テ眞ノ良否ハ明言スル能ハサル所ナリ然レトモ加佐郡岡田中村及愛宕郡修學院(比叡山)模範林ノ如キハ生育尤モ旺盛ニシテ僅カニ二ケ年餘ナルニ拘ラス已ニ林相ヲナスニ至レリ(口繪参照)今各林地ニ於ケル植栽面積本數等ヲ示セハ次ノ如シ

自明治三十九年度 至全 四十二年 京都府模範林植栽表

各模範林地	全面積	造林面積	本數	着手年度
愛宕郡修學院村 比叡山	六〇、〇〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇	四十年三月
船井郡檜山村 大砂利	三、八五〇	三、八五〇	一、八六九	四十年三月
加佐郡岡田中村 赤岩山	三、三三〇	一、一五〇	七、二七〇	四十年三月
中郡五箇村 比治山	四、八九〇	一〇、一七〇	一三、〇〇〇	四十一年三月
南桑田郡龜岡町 矢田山	五、〇〇〇	二、六五〇	一三、〇〇〇	四十一年三月
綴喜郡田邊町 甘南備山	三〇、〇〇〇	五、五〇〇	二、九〇〇	四十二年三月
北桑田郡大野村 脇谷	二〇、〇〇〇	六、三〇〇	四、三九〇	四十二年三月
與謝郡上宮津村 浮橋	四〇、〇〇〇	一、一〇〇	二、九〇〇	四十二年三月
合 計	四九八、八四三	一四四、六〇八	八三、四七〇	

又府下山城各郡ハ竹林業盛ナルヲ以テ經濟的試驗及外國輸出竹種栽培試驗ノ目的ヲ以テ模範竹林ヲ設置シ四十年秋季着手セリ其植栽セル種類面積經費等左ノ如シ

事業年度	面積	開墾費	竹種	竹母本數	竹母代價	植人夫賃	肥料代	除草施肥人夫賃	雜費	計金	備考
四十年	六四〇〇〇	六八三、八五〇		四三五〇	五七七、六八〇	四六八、四七〇	四七五、四九〇	八、四四五	三〇、〇〇〇	二、三二六、九二五	
四十一年	六四〇〇〇	六八三、八五〇		四三五〇	五七七、六八〇	四六八、四七〇	四七五、四九〇	八、四四五	三〇、〇〇〇	二、三二六、九二五	
計	六四〇〇〇	六八三、八五〇		四三五〇	五七七、六八〇	四六八、四七〇	四七五、四九〇	八、四四五	三〇、〇〇〇	二、三二六、九二五	

竹種、苦竹、淡竹、江南竹、皮白竹、黑竹、丹波斑竹、布袋竹、ノ七種ヲ現在栽培スルモ尙沙古丹竹ヲ増植スル見込ナリトス

第三 造林ノ獎勵

其一 補助金下附

一 樹苗圃ニ對スル補助 公有林野整理及其他一般林業ヲ獎勵シタル結果ト時勢ノ然ラシムルトニ依リ一般ニ林業思想ヲ喚起シ町村其他團體并ニ個人等ニシテ着々造林スルニ至リシモノ及造林ニ着手セントスルモノアルニ至リケルモ之レニ要スル苗木ノ供給不足ニシテ他府縣ヨリ購入セハ其成績良好ナラス府下ニ於ケル良好ナルモノヲ使用セントセハ價高ク且其量少ク之レカ爲メ折角ノ獎勵モ意ノ如ク効果ヲ擧グルヲ得サリキ依テ明治三十七年七月樹苗圃獎勵金交付規則ヲ發布シ郡若クハ郡農會ニ補助金ヲ交付シ樹苗ヲ栽培セシメ町村公共團體ニ無料交付セシメ殘餘アルトキハ實費ヲ以テ個人ニ拂下クル事トセリ其結果年々重マルト共ニ其栽培面積ヲ增加スルノ狀況ニシテ其成績大ニ見ルヘキニ至レリ今最近三ヶ年ニ於ケル成績ヲ示セハ次ノ如シ

明治二十九年年度郡及郡農會經營ニ係ル樹苗拂下又ハ交付本數調査表(一、二年生ノ區別不明ナルモノハ其額ニ記入セス只計欄ニノミ記入セリ)

郡市名	杉		扁柏		松		槲		落葉松		山		橙		合	
	一年生	二年生	一年生	二年生	一年生	二年生	一年生	二年生	一年生	二年生	一年生	二年生	一年生	二年生	一年生	二年生
愛宕	15,300	17,000	8,000	11,000											16,000	10,000
乙訓		8,000		12,000											12,000	12,000
相樂		1,500		12,000											12,000	12,000
南桑田				11,000											11,000	11,000
北桑田		108,000		11,000											108,000	11,000
船井		113,000		7,000											113,000	7,000
天田		87,000		8,000											87,000	8,000
何鹿		113,100		11,000											113,100	11,000
加佐		99,000		15,000											99,000	15,000
與謝	115,000	135,000	135,000	13,100	5,000	5,000								115,000	135,000	
中野		14,000		13,000											14,000	13,000
竹野	14,000	14,000	14,000	8,000											14,000	8,000
熊野	14,000	14,000	14,000	8,000											14,000	8,000
計	167,300	177,000	167,300	117,000	5,000	5,000	11,000	11,000	5,000	5,000	100	100	167,300	177,000	167,300	177,000

遭チ申請スルモノ多ク其希望ヲ充ス能ハサルノ狀況ナリトス
講習科目ハ森林通論、造林及保護、測樹利用等ノ概要及椎茸栽培法、製炭改良法等ナリトス

第四 府立農林學校

位置

京都府立農林學校ハ京都市ノ西約二里葛野郡桂村ニ在リ京都府立農事試驗場及ヒ京都府農會ト共ニ此處ニ鼎立スルヲ以テ三大體ト稱セラル
沿革

本校ノ紀元ハ實ニ今ヨリ十有七年前農事講習所開設ニ胚胎セリ其後幾多ノ變遷ヲ經テ明治二十八年二月文部省ノ認可ヲ得京都簡易農學校ト稱シ修業年限ヲ二ケ年生徒ノ定員ハ百名トシ校舍ハ愛宕郡大宮村宇紫竹大門大德寺境内ノ寺院ヲ借り受ケ農事ニ關スル一部ノ學科ヲ授クルニ過キサリシヲ越エテ明治二十九年四月規則ノ改正アリ修業年限ニケ年ニ加フルニ更ニ一ケ年程度ノ補習科ヲ増置シ同時ニ從來農學科中養蠶ノ設ケナカリシヲ以テ更ニ同科ヲ加フルコト、ナセリ是レヨリ生徒ノ數モ増加シ來リシヲ以テ更ニ葛野郡川岡村本願寺別院ヲ借り受ケ此處ニ分教場ヲ設ケタリ然レトモ尙狹隘ヲ告グルヲ以テ同年九月同郡桂村校舍ヲ新築シ從來ノ假舎ハ是レヲ還附シ是レヨリ稍々其緒ニ着クヲ見ルニ至レリ

次イテ明治三十一年三月ニ簡易農學校ノ組織ヲ變更シ京都府立京都農學校ト改メ更ニ明治三十七年二月本校ヲ京都府立農林學校ト改稱シ生徒定員ヲ二百五十名トシ本校ニテ收穫セル農產物林產物賣拂代金ハ全部本校基本財産ニ編入スルヲ得ルコト、セラレタリ
以上ハ本校變遷ノ梗概ナルカ其間居テ更フルコト三度其間又校長ノ交迭ヲ見ルコト四度即チ創設ノ時

代ニ於テハ農學士佐藤義長氏(現盛岡高等農林學校校長)次イテ農學士新莊三郎氏(現東京煙草專賣所長)農學士鏡保之助氏(現千葉縣立園藝專門學校校長)ノ任命アリ現時農學士三宅鏗吉氏(兼府立農事試驗場長、京都府技師)校長タリ

教科

本校ニハ本科別科ノ二科ヲ置キ農業及林業ニ關スル學理ト技術ヲ授ク但シ本科修業年限ハ三ケ年ニシテ別科ハ毎年六郡ツ、開設セラレ修業期ハ一ケ月ナリ

尙本科ハ教科ヲ分チテ第一部及第二部トストモコノ教科ハ第三學年ニ至リ分タル、モノニシテ第一學年第二學年ハコノ區別ナキナリ即チ第一部ノ教科ハ主トシテ農業ニ從事セントスル者ニ課シ第二部ノ教科ハ主トシテ林業ニ從事セントスル者ニ課ス

校地反別

總反別六十三町六反三畝八步強ナリ更ニ細別スレハ

建物敷地 一町三反一畝四步強

實習地 四町三畝二十二步

丙 三町六反四畝十五步

丙 三反九畝七步

農業實習地

林業見本園及苗圃地

實習林 五十八町二反八畝十二步

實習

實習ハ農業ニ關スルモノハ一學年二學年三學年共ニ一般農場實習、室内實習、農産實習、畜産實習、養蠶實習等アリ其林業ニ關スルモノハ一學年二學年ハ床替及除草實習ヲナシ第三學年(林學生)ニハ播種、床替除草其他發芽試驗、植栽試驗等各自相當區域ヲ設ケ實習セシム尤モ實習林植栽ノ業務ハ各

學年ヲ通シテ之レヲ行ヘトモ尙林學生ニハ特ニ測量、森林數學、經理學、造林學、林産製造學等ノ實習ハ常ニ實習林ニ就キ習得セシム

實習林ハ京都市ヲ距ル約三里半市ノ西南山城國ト丹波國トノ國境乙訓郡大枝村字沓掛ニ在リ其面積五十八町二反八畝十二步ニシテ山陰街道ニ隣ル一團地ナリ本林ハ元大阪大林區署ノ所管ナリシカ明治三十五年五月金壹萬六千圓ニテ拂受テ了シ實習林ニ當テ其收入ヲ以テ基本財産ニ編入ス既ニ本林ハ所謂暖帶ノ稍北部ニ屬スレトモ赤松ヲ主林木トシ其間常綠潤葉樹ヲ混生シ或ハ其間又落葉樹ヲ交ヘ林相甚ク不整ナリシカ三十六年度以來之レヲ研伐シ赤松、扁柏、杉、櫟、樺等ヲ植栽シ漸次其林相ノ改善ヲ計カルト共ニツトメテ合理的林業ヲ經營センコトヲ期ス故ニ本年度マテニ植栽シタル面積約二十八町歩植栽本數十七萬千餘本ナリ

卒業生
本年度迄ノ卒業生ハ第一部生三百四十名第二部生六十四名ナリ卒業生ノ狀況ハ一般自家農業ニ從事スルモノ多ク農會府縣郡其他農事試驗場技術員タルモノ之レニ次ク

第五 民有保安林調査

現在ニ於ケル民有保安林ハ左表ノ如クニシテ其多クハ舊來ノ伐木停止又禁伐林ナリトス、之レ等ノ調査ハ目下其進行中ニシテ已ニ其大部分ヲ了セシヲ以テ規定ノ年限即チ明治四十三年度迄ニハ全部ヲ了シ得可シ將來ニ於ケル保安林編入等ハ目下着手中ナル山林調査ノ結果ニ俟ツト雖モ可成適當ノ經營ヲナサシメ法律ノ制裁ヲ受ケサラシメントス、

保安林種類箇所面積現在表

種別	森					林				
	國有	御料	公有	社寺有	私有	國有	御料	公有	社寺有	私有
土砂杆止林	八	二二六、九七〇	八	一九〇、一五七、六〇九	一一	八、四五一、八	五〇二	二一九、三三二	七一一	二、一六、三三三
水害防備林	二〇	五、三三三	二〇	四、五〇一、八	一一	五二	九七一	九八、三二四	九二	九八、三二四
防風林	二	一一、四八一〇	九	一三、九九五	一一	〇、一〇	八、五九一	三	八、五九一	三
潮害防備林	二	一、一四八、一〇	七	三七〇、六三三	一一	二、七六三	七五、九五七	一〇	一四〇、一一五	一〇
水源涵養林	四	七、五五二	三	二五、八九六	八	一一〇、四	二五、九七二	二二	四〇、八三三	二二
魚附林	一	一、二九一	二	一、四六〇	二	一一六、一六二	八四、二二六	一	一、二九一	一
衛生林	五	七、九八六	二	九、五八九	二	一一六、一六二	八四、二二六	八	一、二九一	八
風致林	八	二、一六七、四三二	三	九、五二九	五	一、四七六、二二	八二、八	三三	三、三九、一七〇	三三
計	八	二、一六七、四三二	三	九、五二九	五	一、四七六、二二	八二、八	三三	三、三九、一七〇	三三

第六 山林調査

林業ニ對スル方針ヲ確立セントセハ其管內ニ於ケル林野ノ狀況ヲ詳細熟知スルヲ要ス明治二十九年以來之レカ調査ニ着手セントスルモ之レニ伴フ經費多大ニシテ府ノ財政上之レヲ許サスト雖モ之レカ必要ハ益々眼前ニ迫リタルヲ以テ僅少經費ノ増額ヲ得一方他ノ用務ヲ差繰リ昨四十一年度ヨリ着手スルニ至レリ之レカ調査標準ハ左記内規ニ依ルモノニシテ山城國相樂郡ヲ結了シ本年度ニ於テハ尙ホ之レヲ繼續ス將來ニ於テハ益々其歩ヲ進メ今後五ケ年間ヲ以テ府下全部ヲ結了セントス

山林調査内規

第一條 本府山林ノ調査ハ本内規ニヨルモノトス

第二條 本調査ニ於テハ實測ヲナスシテ陸軍參謀本部陸地測量部ニヨルモノトス但實地ノ狀況ニヨリ簡易ナル測量ヲナスコトアルヘシ

第三條 實地ニ於テハ左ノ事項ヲ調査スルモノトス

- 一、所有別
- 二、面積
- 三、地況
- 四、林況
- 五、保安林ニ關係ノ有無
- 六、森林開墾支障ノ有無
- 七、將來施業ノ方法
- 八、參考事項

イ、林役權ノ有無及其狀況

ロ、林野ノ保護取締ニ關スル地方ノ習慣

ハ、砂防工事ノ要否

ニ、交通ノ便否

ホ、森林労働者ノ關係

ヘ、其ノ地方ニ於ケル薪炭材及林草、綠肥等需用供給ノ關係

ト、其ノ地方ニ於ケル森林副産物ノ有無及其産額等

チ、其ノ地方慣行ノ林業方法

リ、其ノ他必要ト認ムル事項

第四條 所有別ハ左ノ區別ニヨルヘシ

國有、御料、公有(町村有、部落有ノ區別ヲ要ス)社寺有、共有、私有

第五條 面積ハ畝段別ト圖上面積トヲ調査スヘシ

但シ圖上面積ハ「アラニメーター」若クハ其ノ他便宜ノ方法ニヨリ算出スヘシ

第六條 地況調査ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一、土壤ノ種類(塩土、粘質壤土、壤土、砂質壤土、砂土)

二、土壤ノ深淺(深、中、淺)

三、土地ノ濕度(乾、適、濕)

四、土地ノ方向及傾斜(平坦五度未満、緩斜二十度未満、急斜三十五度未満、峻峻四十五度未満、絶峻四十五度以上)

五、地味(上、中、下)前四項ヲ參酌シテ定ムルモノトス

第七條 林況調査ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一、立木地、無立木地

二、樹種

三、疎密ノ度(密、中庸、疎)

四、林齡(目測又ハ切株、口碑ニヨルヘシ)

五、見積材積(用材林十五年生以下矮林五年以下ノモノハ見積ルニ及ハス)

六、成立(天然又ハ人工)

七、生育ノ狀況(良、中庸、不良)

第八條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ保安林ニ編入スルノ見込ヲ以テ調査スヘシ

一、傾斜四十五度以上ニシテ立木ヲ皆伐シ又ハ放任スルトキハ土砂崩壊ノ憂ヒアル箇所

二、風土ノ關係上人工造林スル能ハサルノ地

三、森林法第十四條ニ該當シ必要ト認ムルノ地

第九條 森林開墾ニ付テノ調査ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一、開墾禁止地

イ、傾斜峻峻以上ノ地

ロ、急斜地ニシテ開墾セハ土砂崩壊スルノ憂ヒアリト認ムルノ地

二、開墾制限地

第九章 府ノ施設

急斜地又ハ緩斜地ニシテ開墾スルモ相當ノ設備ヲナサハ土砂崩壊ノ憂ヒナシト認ムルノ地(適切ナル設備方法ヲ附記スヘシ)

三、開墾放任地

緩斜以下ノ地ニシテ開墾スルモ何等支障ナシト認ムルノ地

第十條 將來ニ於ケル施設方法ハ前各條ノ調査ヲ參酌シ其ノ所有者ノ實力、株草、綠肥ノ需用其ノ他ヲ考察シ株草及綠肥採取地、天然更新地、人工造林地(樹種其他施設ノ要領)并開墾地等ノ豫定ヲ附スヘシ

第十一條 調査終了シタル時ハ順次現況圖及施設豫定圖ヲ作製スヘシ

第十二條 圖式ハ凡テ農商務省山林局森林圖式ニ據ルヘシ

附 則

第十三條 實地調査ノ際ハ必ス野帳ヲ携帶シ其様式ノ各欄ニ記入スルモノトス

第十章 郡ノ獎勵施設

何 鹿 郡

其一、樹 苗 圃

舊藩時代ニ於ケル本郡ノ林況ヲ開クニ到ル處天然木鬱蒼トシテ繁茂セリト云フ、然ルニ維新後制度文物ノ開發ト共ニ木材ノ需用ヲ増加シ且交通機關ノ發達ニ伴ヒ深山幽谷ノ腐朽ニ任セシ木材ハ漸次價格ヲ有スルニ至リ約一萬五千町歩ノ森林ハ次第々々ニ濫伐セラレ日一日ト頽廢ニ傾キ今ヤ自家所用ノ木材ハ勿論日常缺クヘカラサル燃料ニモ缺乏ヲ訴ヘントスルニ至レリ、一方樹木ノ價格ハ愈々騰貴シテ底止スル所ヲ知ラス、茲ニ於テカ地方人民漸ク殖林ノ必要ヲ感スルニ至リタルモ如何セシ郡内需用ニ應スヘキ樹苗ニ乏シク他郡ヨリ粗惡ナルモノヲ購入スルノ止ムヲ得サルノ狀況ナリキ

要種苗ヲ育成シ先ツ以テ公有林ノ植栽ニ資スル方針ヲ立テ十三ケ年間繼續事業トシテ明治三十四年ヨリ實施スルニ至レリ、今其繼續年期及支出法ヲ擧レハ左ノ如シ

自明治三十四年度 至明治四十六年度 何鹿郡立樹苗圃繼續費調

一金壹萬六千四百八拾八圓拾錢六厘

總 費 額

金貳百貳圓貳拾錢	明治三十四年度
金五百九拾壹圓七拾錢	明治三十五年度
金九百八拾圓貳拾錢	明治三十六年度
金千百拾參圓四拾五錢	明治三十七年度
金千貳百七拾參圓壹錢	明治三十八年度
金千貳百七拾參圓壹錢	明治三十九年度
金千貳百七拾參圓壹錢	明治四十年度
金千五百六拾七圓五拾參錢四厘	明治四十一年度
金千八百四拾參圓五錢貳厘	明治四十二年度
金貳千百貳拾圓九拾四錢	明治四十三年度
金千八百五拾圓貳錢四厘	明治四十四年度
金千百貳拾四圓九拾六錢六厘	明治四十五年度
	明治四十六年度

イ、現 況

現時苗圃ハ綾部町、中筋村、以久田村、志賀郷村、山家村、東八田村、中上林村、奥上林村ノ八ヶ所

ニ分設シ其面積八千七百八坪ニシテ其樹種別、數量左ノ如シ

樹種	一年生	二年生	三年生	四年生	計
杉	一六三、〇〇〇	一六、七二〇	四四、五三〇	一四、九六〇	二七九、五五〇
檜	九一、五〇〇	二二、七〇〇	七三、二四五	一四、九六〇	三九三、四〇五
松	九二、〇〇〇	五二、〇〇〇	四六、四五〇	一四、九六〇	一九〇、四五〇
赤松	七〇、〇〇〇	—	—	—	七〇、〇〇〇
計	三七一、六〇〇	三六、四二〇	一六四、二二五	一四、九六〇	九三三、四〇五

樹苗圃設置以來本年マテニ下付シタル樹苗數並ニ將來收苗豫定數左ノ如シ

樹種	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	計
杉	一三〇、五〇〇	七、七九五〇	一三、四二二九	九三、〇四〇	一四、三、九八五	五、二、八二五	六、〇〇〇	五六五、〇六九
檜	—	六、九三〇	三、七二〇〇	一四、六五〇	一三、九五〇	二、七、九二五	三、四、九六〇	一三、五、六一五
松	—	八、九九〇	二、五八〇〇	三、七、五〇〇	三、四、四四五	三、四、八〇〇	三、三、〇〇〇	一六、四、七三五
赤松	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一三〇、五〇〇	一四、七一五〇	一八、七二二九	一四、五、一九〇	一、九、一、三六〇	一、五、五、五〇〇	一、九、一、一六〇	八六五、四一九

自明治四十三年度收苗豫定數ハ次ノ如シ

樹種	四十三年	四十四年	四十五年	四十六年	計
杉	八四、〇〇〇	一三、一〇〇〇	一三、一〇〇〇	一三、一〇〇〇	四三、三〇〇〇
檜	六五、〇〇〇	六五、〇〇〇	九三、六〇〇	九三、六〇〇	三二七、二〇〇
松	二七、〇〇〇	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇	一四四、〇〇〇
赤松	—	—	—	—	—
計	一七六、〇〇〇	二〇七、〇〇〇	二七五、六〇〇	二七五、六〇〇	一、一〇〇、〇〇〇

山	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	一四四、〇〇〇
計	二二、〇〇〇	三三、〇〇〇	三七、〇〇〇	三七、〇〇〇	一、一九五、〇〇〇

明治三十六年度ヨリ下付テ受ケ本年マテニ植栽シタルモノ左ノ如シ

町村	杉	檜	松	計	殖林反別
綾部町	七、四五〇	八、五七〇	二、四二〇	一〇、七九〇	二、七五〇
中筋村	二、四六〇	一、九〇〇	—	六、一六〇	一、四〇〇
以久田村	九、四〇〇	四、〇〇〇	—	九、八〇〇	一、六〇〇
佐賀村	一、四〇〇	一、四五〇	—	二、八五〇	一、一〇〇
小畑村	六、五〇〇	二、三三〇	—	九、八三〇	一、六〇〇
物部村	一、四一五〇	九、一五〇	—	一〇、五六五	四、六〇〇
志賀郷	二、四、三四五	一、三七七〇	—	四、一、九一〇	七、六二〇
吉美郷	九、五〇	五、〇五〇	—	八、八五〇	一、九五〇
西八田村	二、一九〇〇	四、八〇〇	—	二、二、四五〇	四、二〇〇
東八田村	一〇、四、〇〇〇	二、六、三三〇	—	一四、三、八八〇	二、六、一一〇
山口家	五、一一〇〇	八、一三〇	—	一三、五、八二〇	三、五、三三〇
口上村	八、一八〇〇	一、六、四〇五	—	一〇、五、五〇五	一、八、七九〇
中上村	二、二、四、四五	二、一、六、五〇	—	四、四、一〇五	二、六、〇九〇
奥上村	三、四、八、六九	五、七、九〇	—	九、二、六五九	七、一一〇
計	五、六、五、〇六九	一、三、五、六、〇五	—	八、六、五、四、二九	一、七、三、三、六〇〇

ハ、保護及管理

苗圃ニハ各一名ノ管理人ヲ置キ保護管理ノ任ニ當ラシム苗圃設置規程并ニ樹苗下付規程ヲ示セハ次ノ如シ

其二、實地指導

前記樹苗圃ノ設置ニ依リ苗木ノ供給ヲナシ得ルト雖モ一般ニ造林ノ技術幼稚ニシテ適地ヲ誤リ又ハ方法不完全ノ爲メ其成績佳良ナルモノ稀ナリトス茲ニ於テ明治四十年度ヨリ郡技術員ヲ置キ專ラ實地指導誘掖ニ努メシメツ、アリ其効果ハ空シカラスシテ經營施設其ノ宜シキヲ得造林ノ獎勵ハ漸次成功ノ緒ニ就ケルモノ、如ク特ニ砂防的造林ノ如キハ住民ノ注意ヲ喚起シ進メテ施行スルニ至ラシメタリ

何鹿郡樹苗圃設置規程

- 第一條 苗圃ハ本郡町村有又ハ區有山林原野ニ供用林ヲ仕付クニキ需用ニ供給スル目的ヲ以テ之ヲ設置ス
- 第二條 苗圃ハ本郡内十ヶ所以内トシ其坪數、借入年限、借地料其他必要ナル條件ハ借入契約ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 各苗圃ニハ管理人各一名ヲ置キ播種栽培ヲ擔當セシム
- 第四條 管理人ハ日誌ヲ製シ置キ天候播種栽培施肥ヲ始メ其日ノ要件ヲ記載シ毎月末日郡長ノ檢閲ヲ受ケルモノトス
- 第五條 管理人ハ害虫ノ發生其他天災等異常アリタル時ハ迅速ニ其手當ヲ爲シ直チニ郡長ニ申報シ指揮ヲ受ケヘシ
- 第六條 管理人ハ樹苗成育ノ狀況ヲ別記書式ニ依リ毎年十月三十日限リ郡長ニ申報スルモノトス
- 第七條 管理人ハ疎虞懈怠ノ爲メ作業上ニ損害ヲ及ボシタル時ハ相當ノ補償ヲナサシムルコトアルヘシ
- 第八條 苗圃ノ存続期間ハ明治三十四年ヨリ同四十六年ニ至ル十三ヶ年間トス
- 第九條 樹苗下付ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

何鹿郡樹苗下付規程

- 第一條 郡内各町村有若クハ各區有山林原野ニ造林ノ目的ヲ以テ植樹セントスル時ハ此規程ニ依リ其樹苗ヲ下付ス
- 第二條 樹苗ノ下付ヲ受ケントスル時ハ第一號書式ニヨリ毎年九月三十日迄ニ町村長ヨリ郡長ニ請求スヘシ
- 第三條 下付スヘキ杉檜松苗ハ栽植地一町步ニ對シ凡六千本以内標ハ凡三千本以内ノ割合トス
但シ補植或ハ地味ニ格段ナル情況アルカ若シクハ「山ナラシ」ニ「ズリシバリ」等ノ種類ハ本條ニ拘ハラズ附減スルコトアルヘシ

第四條 左ノ場合ニ於テハ樹苗下付ノ員數ヲ減少シ又ハ全ク下付セサルコトアルヘシ

- 一 成育樹苗ノ員數請求ノ員數ニ對シ不足アルトキ
 - 一 栽植地反別一ヶ所一反歩ニ滿タサルトキ
- 第五條 町村有區有ノ造林ニシテ其施業ノ適切ナルモノニ對シハ杉檜松山楡ノ五種ニ限リ其樹苗ヲ町村有ハ之ヲ無代下付シ區有ニアリテハ實價ノ凡半額ヲ以テ之ヲ下付ス
- 前項ニ該當セサルモノハ其價格ヲ實價ノ凡十分ノ七ヲ以テ標準トス
- 第六條 郡内各學校ニ於テ樹苗ヲナストキハ町有林ニ準シ取扱フモノトス
但シ第二條ノ請求ハ管理者ヨリ之ヲ爲スモノトス
- 第七條 樹苗ニ多餘アルトキニ限リ他郡市町村公私團體又ハ私人ヨリ購入ノ申込アルトキハ時價ヲ以テ賣與スルコトアルヘシ
- 第八條 成育樹苗ノ員數不足スル場合ニ在リテハ先ツ保安社又ハ森林法ニヨリ造林ヲ命セラレタル箇所ニ栽植スルモノヲ先ニシ殘餘ノ樹苗ヲ以テ他ノ需用ニ配當スルモノトス
- 第九條 本規程ニ基キ樹苗ノ下付ヲ受ケタル町村、區、學校ノ造林ハ其主管者ニ於テ稟帳ヲ備ヘ補給ノ年月日、場所、樹種、數量及手入、間伐、皆伐ハ年月日並ニ之レニ要セシ經費使用人夫其他收入等詳細之レカ登記ヲ爲スモノトス
- 第十條 前條ノ造林ハ其植栽及保護ニ關シ郡長ノ監督ヲ受ケルモノトス
尙遺材地ハ實測反別及植栽年月日等ヲ記入セル標柱(長サ六尺以上三寸角以上)ヲ建設スルモノトス
- 第十一條 樹苗植栽ノ日時ハ町村長學校ニアリテハ管理者ヨリ五日以前ニ之ヲ郡長ニ報告シ尙餘ラノ上ハ第二號書式ニヨリ報告スルモノトス

附 則

第十二條 本規程ノ改正ハ明治三十八年二月十日ヨリ之レヲ實施シ第四條區有造林及第六條小學校造林ノ目的ニ下付スル樹苗ノ價格ハ明治三十八年度ヨリ實施スルモノトス
(書式略)

天 田 郡

本郡ノ山林面積ハ二万二千餘町步ニ達シ全地積ノ八割餘ヲ占領スルニ拘ラス到ル處濫伐ノ結果荒廢ニ

傾キ過半以上全ク無立木地トナリ其他ノ地ト雖トモ僅カニ赤松及矮小ナル雜木ノ生立セルノミニシテ
 森林トシテ見ルヘキモノナク水害又頻々タルニ至レリ、茲ニ於テカ經濟上及治水ノ關係ヨリシテ大ニ
 殖林ノ獎勵ニ勉メタル結果個人事業トシテ其私有地ハ稍々殖林ノ氣運ニ向ヒタルモ山林面積ノ過半ヲ
 占ムル公有林野ハ依然トシテ舊態ヲ改メサルニ依リ一ツハ以テ間接獎勵トシテ造林撫範ヲ示シ一ツハ
 郡有財產増殖ノ目的ヲ以テ郡有撫範林ヲ設置シ且森林ヲ容易ニシ健全ナル苗木ヲ供給シテ公有林野ノ
 整理ニ資スルノ目的ヲ以テ樹苗圃ヲ設置スルノ議ヲ起シ明治三十七年二月郡會ノ決議ヲ經實施スルニ
 至リタルモノナリ

今郡有撫範林并樹苗圃設置規程ヲ示セハ次ノ如シ

(三十七年二月議決)

撫範林並ニ樹苗圃設置規程

- 第一條 郡内町村又ハ部落ニ施設スヘキ造林ノ撫範ニ供シ及郡有財產増殖ノ目的ヲ以テ天田郡撫範林ヲ設置ス
 - 第二條 撫範林並ニ郡内町村又ハ部落ニ施設スル造林ニ要スル樹苗ヲ供給スル目的ヲ以テ天田郡樹苗圃ヲ設置ス
 - 第三條 撫範林ハ郡内二十ヶ所以内樹苗圃ハ六ヶ所以内トシ其存續期間ヲ撫範林ニ在テハ用地借入契約ノ年ヨリ九十年以内樹苗圃
 ニ在テハ同十年以内トス
 - 第四條 各撫範林ニハ別ニ管理人ヲ置カス各苗圃ニハ擔當人一名ヲ置キ播種栽培ニ從事セシム
 - 第五條 本規程ハ明治三十七年二月一日ヨリ施行ス
- 撫範林ハ總面積五十町歩ニシテ年々五町歩宛植栽即チ十ヶ年繼續ニシテ之レカ經費支出年度別及事業計畫書等次ノ如シ
- 一 金五千六百拾七圓七拾五錢
- 營 林 費
- 同 明治三十七年度支出額 金六百貳拾四圓六拾五錢
 - 同 三十八年度支出額 金六百四拾九圓六拾五錢
 - 同 三十九年度支出額 金五百八拾四圓六拾五錢
 - 同 四十年年度支出額 金四百六拾參圓四拾錢

- 同 四十一年度支出額 金四百八拾八圓四拾錢
 - 同 四十二年度支出額 金五百拾參圓四拾錢
 - 同 四十三年度支出額 金五百參拾八圓四拾錢
 - 同 四十四年度支出額 金五百六拾參圓四拾錢
 - 同 四十五年度支出額 金五百八拾八圓四拾錢
 - 同 四十六年度支出額 金六百參圓四拾錢
 - 一 金八千八百參拾八圓七拾五錢
- 樹 苗 圃 費
- 同 明治三十七年度支出額 金百四拾參圓六拾錢
 - 同 三十八年度支出額 金參百四拾貳圓八拾五錢
 - 同 三十九年度支出額 金八百五拾壹圓六拾錢
 - 同 四十年年度支出額 金千八百八拾壹圓參拾五錢
 - 同 四十一年度支出額 金千八百八拾壹圓參拾五錢
 - 同 四十二年度支出額 金千八百八拾壹圓參拾五錢
 - 同 四十三年度支出額 金千八百八拾壹圓參拾五錢
 - 同 四十四年度支出額 金千八百八拾壹圓參拾五錢
 - 同 四十五年度支出額 金九百六拾五圓五拾錢
 - 同 四十六年度支出額 金六百九拾二圓七拾五錢

各年度別營林費一覽表

年度	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	第十五區	第十六區	第十七區	第十八區	第十九區	計
明治三十七年度	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000
同 三十八年度	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000

第十章 郡ノ獎勵施設

第七條 郡有林ノ伐採ハ郡會ノ議決ヲ經ヘキモノトス

第八條 郡有林ヨリ生スル收入ハ第三條第一號ニヨリ地主ニ交付スルノ外凡テ本郡積立金規程ニ依リ蓄積スルモノトス

第九條 郡有林ニ係ル事業ノ成績ハ毎翌年度ニ於テ郡會ニ報告スルモノトス

附則

第十條 郡有林管理方法ハ別ニ之ヲ定ム

郡有林管理方法

栽植及保護

第一條 第一期ニ於テ栽植スヘキ面積ハ年々四町歩トシ春期ニ於テ適當ノ時季ヲ撰ヒ施行スルモノトス

第二條 栽植スヘキ樹種ハ杉、檜ノ二種ニ限ルモノトス

第三條 栽植スヘキ樹苗ハ郡ニ於テ培養シタルモノ或ハ本郡内ニ於テ生産シタルモノヲ購入シ之ニ充ツルモノトス

第四條 栽植樹苗ノ枯損シタルモノアルトキハ實地ノ狀況ニ應ジ翌年ニ於テ補植スルモノトス

第五條 栽植翌年ヨリ向フ四ヶ年間ハ毎年一回及爾後七年及十四年ニ各一回ノ下刈ヲナスモノトス

第六條 栽植翌年秋季ニ於テ獸害豫防ノ爲メニ相當保護ヲナシ及栽植翌年ヨリ三ヶ年間ハ毎年解雪ノ時季ニ於テ倒樹ノ釣起ヲナスモノトス

第七條 栽植後十五年二十年ノ二回ニ下枝打取ヲ爲スモノトス

間伐及賣却

第八條 栽植後十五年ニ初回間伐ヲナシ爾後每五年ニ一回ツ、間伐シ五十年ニ至リ皆伐スルモノトス

但時宜ニヨリ間伐年期中仲補スルコトアルヘシ

第九條 間伐ノ割合ハ現在立木ノ約一割半ヲ超過セサルモノトス

第十條 間伐セントスルトキハ毎年逐々モ六月中旬迄ニ之ヲ調査シ其根際一極印ヲ打チ伐採終了ノ後再調査ヲナスモノトス

第十一條 間伐及皆伐ハ立木ノ儘一般競争入札ニ附シ公賣スルモノトス

第十二條 前條入札ニシテ確定ノ價格ニ達セサルトキハ再入札ニ附スルカ或ハ特賣ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 賣買契約ハ普通慣行ノ法式ニ依ルト雖トモ代金皆納ノ上ナラバ木材ノ搬出ヲ許サ、ルモノトス

第十四條 入札セントスルモノハ本郡内ニ於テ身元アル保證人ヲ有スルモノニ非ラサレハ其入札ハ無効トスヘシ

管理及監督

第十五條 郡有林ノ四周ニハ界標ヲ建設シ及年々栽植シタル地區ニ其年別及植付本數ヲ表示シタル標木ヲ建設スルモノトス

第十六條 郡有林ヲ監守スル爲メ監守人ヲ設ク

第十七條 監守人ノ服務細則ハ別ニ之ヲ設ク

第十八條 郡有林發賣ヲ製シ栽植及伐採等其始末ヲ明瞭ニ登記スルモノトス

其様式ハ別ニ定ム

宇治郡

沿革并狀況

本郡ハ殖林獎勵ノ爲メ明治三十六年度即チ明治三十七年戰役紀念トシテ郡有林ヲ設ケ一般ニ造林ノ模範ヲ示シ事業ノ獎勵ニ力メ傍ラ其收益ヲ以テ郡基本財産ヲ造成シ郡財政基礎ノ鞏固ヲ圖ラントスルノ目的ヲ以テ宇治郡醍醐村大字醍醐區有山林十町三反三畝四歩ヲ借入レ地上權ノ設定ヲ爲シ(借地料一ヶ年一町歩ニ付金壹圓ノ割)明治三十七年三月右反別ノ内五町歩ニ對シ栽植ヲナシ明治三十八年四月殘部ノ栽植ヲナシ全部栽植ノ事業ヲ了セリ

其栽植シタル苗木ノ種類數量并其費用左ノ如シ

一明治三十七年二月栽植ノ苗木六万本

内

杉苗 三万六千本

檜苗 二万四千本

一明治三十八年四月栽植ノ分苗木五万九千本

内

杉苗 二万九千本

第十章 郡ノ獎勵施設

檜苗 三万本

合計植栽苗木數十一万九千本

費用年度別調

	三十六年度	三十七年度	三十八年度	三十九年度	四十年年度	四十一年度	計
借地料	10,330	10,330	10,330	10,330	10,330	10,330	61,980
苗木代	400,160	296,400	296,400	296,400	296,400	296,400	696,560
看守人手當	5,500	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	29,500
手入費	208,814	51,997	219,824	73,210	50,000	67,475	671,325
諸費	49,800	11,000	34,400	16,800	10,000	5,500	127,500
補植費	—	1,648	—	7,410	—	40,000	230,582
計	669,104	195,337	566,954	180,450	76,530	293,000	1,817,447

備考 手入費中ニハ手入刈及開拓費ヲ掲ク諸費中ニハ監督人ノ手當及小屋掛料建杭等ノ費用ヲ計上セリ

現在樹齡ハ六年目(三十七年植)五年目(三十八年植)ノ二様ニシテ生育ハ良好ナリ大ナルモノ二丈五尺目通七寸目下約壹萬圓ノ價格アリト云フ郡有林設置ノ結果郡内一般ニ造林ヲ企ツルモノ増加シ例セハ隣地ニアル醍醐區有山林百餘町歩ノ山林ノ如キモ五ヶ年ノ期限ヲ以テ造林ノ計畫ヲナシ三十八年已來年々植栽ヲナシ殆ント三分ノ一ヲ了リ其他一般ニ造林ノ氣運ニ向ヘルモノ少カラス

宇治郡有林設計

目的

本郡ハ殖林事業獎勵ノ爲メ明治三十六年度ヨリ郡有林ヲ設ケ一般ニ造林ノ擴範ヲ示シテ新業ノ勸奨ニカメ傍々其收益ヲ以テ郡基本財産ヲ造成シ郡財政基礎ノ鞏固ヲ圖ラントス

事業執行ノ方法

- 一 造林地ハ醍醐村宇醍醐區有地ヲ借入レ地上權ヲ設定スルモノトス
- 一 造林反別ハ十丁三反三畝四歩ニシテ明治三十六年度ニ於テ五丁歩ヲ植栽シ爾後ノ殘部ハ同三十八年度ニ於テ植栽ヲ完了スルモノトス
- 一 借地料ハ一ヶ年一町歩ニ付金壹圓ノ割ヲ以テ毎年十二月地主ニ交付ス
- 一 植樹ハ地味ノ都合ニヨリ杉樹ノ二種ヲ折半シテ一町歩一萬本ノ割ヲ以テ混植スルモノトス但シ苗木ハ凡テ買上ルモノトス
- 一 植付ノ方法ハ造林地ノ最下部ハ坪約二木稍上ルニ從ヒ三本ノ割ヲ以テ杉樹ヲ植栽シ中部ハ杉樹ヲ折半シテ坪約三木トシ上部ハ檜七八分杉二三分ノ割ヲ以テ坪約四五木ヲ植栽シ地形地質ノ撿核ニヨリ適度ニ増減スルモノトス
- 一 事業ノ監督ハ郡吏員ヲシテ監督セシム

事業費支出ノ方法

一本事業ハ郡基本財産費經營中ニ於テ遂行スル計畫ヲナシ三十六年度ヨリ特別會計ヲ設ケ既設ノ基本財産蓄積金ヲ以テ支辨スルモノトス

一 事業費ノ概算左ノ如シ

一 借地料	10,330	十町三反三畝四歩ニ對スル借地料一町歩ニ付一ヶ年壹圓ノ割
一 苗木代	100,000	杉苗木五萬本一本四厘ノ割
一 諸費	49,800	下刈及植手間並苗木運搬費此金壹百九拾五圓看守人給料及雜費四拾五圓六拾六錢九厘
計	209,130	以上初年日諸費
一 借地料	10,330	一ヶ年分
一 看守人手當	5,500	一ヶ年手當
一 苗木代	50,000	初年植付數ノ内二割ノ枯死アルモノトシ林相及利息ヲ保ツ爲メ杉樹各五千本ヲ補植ス
一 諸費	20,000	(杉苗一本ニ付四厘五毛檜苗一本ニ付五厘五毛)
		補植手間費四拾圓、手入下刈費四拾圓

第十章 郡ノ獎勵施設

第十章 郡ノ獎勵施設

計	以上第二年度目諸費	一六、三三一
一借地料	一ヶ年分	一〇、三三一
一看守人手當	一ヶ年手當	五、〇〇〇
一苗木代	殘地植栽用杉苗木五萬本代	一〇〇,〇〇〇
一諸費	植手間及下刈苗木運搬費並手入費	四〇,〇〇〇
計	以上第三年度目諸費	一六、三三一
一借地料	一ヶ年分	一〇、三三一
一看守人手當	一ヶ年手當	五、〇〇〇
一苗木代	前年植栽ノ分ニ對スル補植用苗木杉苗木一萬本代	五〇,〇〇〇
一諸費	補植手間費四拾圓、手入下刈費四拾圓	一〇,〇〇〇
計	以上第四年度目諸費	一六、三三一

手入費	三三〇,〇〇〇	一ヶ年六拾圓二年目ニ同シ 六ヶ年分
借地料	六二、六六六	一ヶ年拾圓參拾參錢壹厘 六ヶ年分
看守人手當	三三〇,〇〇〇	一ヶ年參拾六圓 八拾ヶ年分
保備費	五〇〇,〇〇〇	一ヶ年五圓 八拾ヶ年分
合 計	一,一〇三,六六六	以上自第十一年目至九十年目 八拾ヶ年分諸費
總 計	造林事業費 六、三三三、三三三	

備考 苗木ハ凡テ買入法ニ成ル杉苗木五萬本植付ノ事業費ノ計算ヲ示スモノナリ

一 第一年度ヨリ第十年度マテノ支出ハ裕ニ見積リアルヲ以テ多少ノ剩餘ヲ生スルノ見込ナリ造林ノ手入ハ此年間ニ於テ一先終局シタルモノトス

一 第十一年ヨリ廿九年度ニ至ル八十ヶ年間ニ於ケル造林維持ノ費用トシテハ看守者ノ手當及借地料ノ外殆ント所要ヲ認メスト雖モ風雪虫害等不時ノ備ニ供スル爲メ豫備トシテ毎年金五圓ヲ支出スルモノトシ積算シタルモノナリ

一 抜伐皆伐等ノ山林作業費ハ一切支出ナキモノトセリ伐木ハ材木業者カ立木ノ評定ニ依リ賣買シ一切ノ作業費ハ買主ノ負擔ニ歸スルモノニシテ山林所有者ハ唯看守ヲ嚴ニシ他ノ木材ヲ損害セシメサルコトニ勸ムレハ足レリトス

加 佐 郡

本郡ハ郡有林ヲ設ケ一般ニ造林ノ模範ヲ示シ斯業ノ獎勵ニ力メ傍ラ其收益ヲ以テ郡基本財産ヲ造成シ郡財政基礎ノ鞏固ヲ圖ラントスルノ目的ヲ以テ明治三十八年二月郡會ノ決議ヲ經テ二十九年ヨリ實行シ已ニ植栽ヲ了セシモノ十二町五反歩ニ及ヒ尙進ンテ第一期事業トシテ十九町歩ニ達セントス其成績等亦良好ナリトス而シテ該模範ヲ示スト同時ニ一方左記造林獎勵規程ヲ設ケ獎勵金ヲ附與スルコトトシ明治四十二年度ヨリ實行ス

- 造林獎勵規程
- 第一條 郡ハ造林ヲ獎勵スル爲メ本規程ニ依リ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 本規程ニ於テ獎勵金ヲ交付スヘキ造林ハ町村區ヲ包含ス又ハ町村組合カ其管理ニ係ル郡内所在ノ山林原野ニ於テ左記各項ニ依リ適當ノ計畫ヲ立テ植栽ヲ爲スモノニ限ル但シ此造林ハ町村條例ニ依ルコトヲ要ス
- 一 施業地 柴草山又ハ荒廢セル山林、耕地ニ開墾シ得サル原野
- 二 面積 一ヶ所ノ計畫反別二町歩以上ニシテ一ヶ年度ノ施業地反別三反歩以上
- 三 樹種 杉、檜、樺、楡
- 四 植付本數 一坪ニ付一本乃至四本
- 第三條 獎勵金ハ左ノ割合ヲ以テ交付スルヲ例トス
- 一ヶ年度施業地反別
- 三反歩以上一町歩未満
- 獎勵金交付歩合
- 事業費ノ百分ノ七

第十章 郡ノ獎勵施設

第十章 郡ノ獎勵施設

二四六

一町歩以上五町歩未満
五町歩以上十町歩未満
十町歩以上

同 百分ノ八
同 百分ノ九
同 百分ノ十

第四條 獎勵金ハ常關ノ認ムル事業費ヲ基礎トシ毎年度豫算ノ定ムル範圍ニ於テ之ヲ交付ス但シ豫算ニ不足ナル場合又ハ成續不良ト認ムル場合ハ其額合ヲ減少シ又ハ全ク之ヲ交付セザルコトアルヘシ

第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルモノハ施業年度ノ前年十一月三十日限り別紙書式ノ申請書ニ經費豫算書及圖面ヲ添付シ郡長ニ差出スヘシ

第六條 事業終了シタルトキハ費用計算書ヲ添付シ此旨郡長ニ届出ツヘシ

第七條 獎勵金ハ事業終了後實地検査ノ上之ヲ交付ス

附 則

第八條 本規程ハ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

第九條 第五條ノ申請期限ハ明治四十二年度内施業ノモノニ限り明治四十二年三月三十一日トス

郡有林造林計畫書及施業方法書次ノ如シ

年次	造林費	補植費	手 入						合 計
			第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	
一	150,000	20,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	300,000	
二	100,000	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	200,000	
三	100,000	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	200,000	
四	100,000	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	200,000	
五	100,000	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	200,000	
六	100,000	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	200,000	
七	100,000	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	200,000	
八	100,000	20,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	200,000	
合 計	1,000,000	200,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	1,500,000	

造林計畫書

合 計	十九	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000
-----	----	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------

郡有林施業方法書

- 一 造林地 加佐郡志樂村大字鹿原
- 一 一反別 十九町歩 第一年且五町歩 第二年且四町歩 第三年且三町五反歩 第四年且三町五反歩 第五年且三町歩
- 一 林種 普通林
- 一 年次 自明治三十九年 至 同四十三年 五ヶ年間
- 一 樹種 杉、檜
- 一 一町歩宛本數 杉千二百本 檜四千八百本
- 一 植付後六ヶ年間毎年一回ノ下草刈ヲ行フ
- 一 植付ノ翌年ニ於テ補植ス

備考

造林地ハ加佐郡志樂村字鹿原金剛院ノ所有ニシテ木材賣却代價ヲ郡八、民二ノ比ヲ以テ配當スルコト、シ五ヶ年間地上權設定ノ契約ヲ爲ス

林地ハ全部倭雜木林ナルヲ以テ之レヲ刈拂ヒ造成ス俟期五ヶ年トス

竹 野 郡

本郡ハ郡有林ヲ設置シ一般ニ造林ノ模範ヲ示シ斯業ヲ獎勵シ傍ラ其收益ヲ以テ郡基本財産ヲ造成シ郡財政基礎ノ鞏固ヲ圖ラントスルノ目的ヲ以テ明治四十一年二月郡會ノ決議ヲ經本年度ニ於テ之ヲ實行セントス是レヨリ先キ郡ニ於テハ林業専門ノ技師員ヲ聘シ一方斯業ノ獎勵ニ努メシメ又一方左記林業獎勵規程ヲ設ケ獎勵金ヲ附與スルコト、爲シ明治四十一年度ヨリ實行ス

林業獎勵規程

第一條 郡ハ林業ノ發達ヲ期スル爲メ此規程ニ依リ豫算ノ定ムル範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第十章 郡ノ獎勵施設

二四七

第二條 此規程ニ於テ獎勵金ヲ交付スヘキ林業ハ郡内ニ於テ造林ノ目的ヲ以テ植樹ヲ爲シ計畫ノ適當ナルモノニ限リ其實費額ニ對シ左ノ範圍内ニ依ル

但其實費額ハ郡ノ査定スル所ニ依ル

一 町村有、學校有、郡落有ニ係ルモノニシテ一ヶ年一ヶ所五反歩以上ニ限リ十分ノ四其基本財産ノ造成ヲ目的トセルモノハ尙十分ノ二ヲ增加ス

二 一個人ニ係ルモノハ一ヶ年一ヶ所一反歩以上ニ限リ十分ノ二

第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルモノハ第一號式ノ計畫書ヲ事業施行年度ノ前年十月末日迄ニ郡長ニ提出スヘシ

第四條 事業終了シタルトキハ直ニ第二號式ノ成功届ヲ差出シ獎勵金ノ交付ヲ請フヘシ

第五條 獎勵金ハ其事業ノ成績ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六條 此規程ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル造林地ハ郡長ノ指揮スル所ニ依リ保護スルノ義務ヲ負フヘシ

附則

第七條 本規程ハ明治四十一年度ヨリ施行ス

但第三條ノ期限ハ四十一年度ニ限リ四十一年三月末日トス

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

町村自治ノ基礎ヲ確立セシカ爲メ基本財産トシテ已ニ林業ヲ營ムモノ又ハ經營セントスルモノ府下各町村ニ起ラントスルノ狀況ナリトス然トモ當初ノ計畫何レモ規模小ニシテ殆ント見ルヘキモノ少シ之レ林業思想ノ幼稚ナルニ起因スルモノニシテ一ツノ試驗的經營ニ屬スレハナリ若シ其成績ト其趣味トナ自カラ了解スルニ至テハ大ニ事業發展ノ前驅ナリト見ルヲ得可キカ今次ニ其一、二ヲ紹介スヘシ

日本赤十字社基本財産林
京都市支部
沿革

本社救護事業ハ國家ト共ニ永遠不朽ニシテ其準備ハ忽諸ニ附スヘカラス今ヤ平和克復シ戦後ノ經營急ナル時ニ方リ社是トシテハ十年計畫ヲ遂行シ鞏固ナル基礎ヲ確立スルニ在リ而シテ其方法タル社員ノ増募ヲ圖ルニ在ルモ多クノ社員ハ職金ノ義務既ニ滿了シ之ヲ補フニハ新入社員ヲ勸誘セサルヲ得ス是等モ亦十年ヲ經過スレハ義務ヲ滿了スルモノニシテ數十年ニ涉リ現狀ヲ維持スルニハ別ニ其方法ヲ設クルノ必要アリ若シ夫レ有利ノ事業アリテ將來ノ資金ヲ増殖スルノ道ヲ得ルモノアラハ一時ハ資金ヲ投下スルモ敢テ避クル所ニアラサルヲ信ス今ヤ民間ニ放散セル資金ノ豊富ナルト外資ノ輸入アルトニ依リ諸般ノ事業勃興シ或ハ水力電氣事業ヲ計畫シ或ハ工業ヲ盛ニシ或ハ水産事業ヲ經營スル等ノ事各地ニ起ルモ未タ殖林事業ノ如ク確實ニシテ將來ノ利益ヲ見ルモノハ稀ナリ然ルニ世人ノ之ニ着手スルモノ尠ナキハ其收益遠ク數十年ノ事後ニ屬シ近ク利ヲ見ル能ハサルカ故ナリト雖トモ先見者ノ規畫ハ着々成功シ莫大ノ資産ヲ蓄積セルハ世人ノ認識スル所ニシテ資ヲ擁シ土地ヲ有スルモノハ競フテ之ニ着手スルノ氣運ニ際會セリ我カ支部ノ所在地附近ハ膏腴ナル山地ニ富ミ山林事業ヲ起スニハ最も好適ノ地ナリト思料ス北桑田郡山國、黒田ノ二村及葛野郡小野郷村、愛宕郡雲ヶ畑村附近一帯ノ山脈ニハ杉、檜等ノ殖林尤モ盛ニ行ハレ其收益モ年々逐フテ益増加スルヲ觀ルノミナラス愛宕、葛野、北桑田、船井四郡ノ如キ此殖林ニ適スルノ地頗ル多ク林業家ノ施設ヲ待ツモノアリ而シテ或ハ道路ニ依リ或ハ河川ヲ利用シテ運輸ノ便略ホ備ハルヲ以テ木材ノ價格他ニ比シ高價ナルハ幸福ナリト謂フヘシ此地ニ於テ百五拾町歩ノ地所ヲ得ルハ決シテ難シトスル所ニアラスト雖トモ是等永遠ノ事業ヲ起サニハ慎重ノ調査ト専門家ノ技術ニ俟ツモノ尠シトナサス依テ之レカ計畫ヲ本府ニ託シ調査ノ結果明治四十年ヨリ向フ三十五年間ニ貳萬參千四百八拾圓ノ資金ヲ下シ七十九年目ニ至リ百四拾壹萬五千六百圓五錢四厘ノ收入ヲ得ルノ計算ヲ得タリ依テ四郡中ニ於テ適當ノ地所ヲ借入レ本事業ヲ起セハ百年ノ後ニハ莫大ナル利益ヲ得テ吾人カ憂フル所ノ資金募集ノ事ハ敢テ思慮ヲ要セス而シテ一方國家經濟ヲ助

長スル所アラントス故ニ審査研究ノ上當支部ノ基本財産ヲ確成セシコトヲ期シ明治四十年十一月ヨリ爾後毎年春秋兩季ニ於テ豫定ノ設計ヲ實行シ以テ今日ニ及ヘリ

事業計畫ノ概要

計畫面積ハ百五拾町歩ニシテ明治四十年度ヨリ着手シ毎年五町歩ツ、施行シ三十ヶ年間ヲ以テ終了セシトスルモノニシテ之レカ經費ハ造林費、手入費及管理費等ヲ合セ初年度五百五拾七圓、次年度六百四拾四圓餘、三年目六百八拾四圓餘、四年目七百拾七圓餘、五年目七百四拾參圓、六年目ヨリ十二年間七百五拾參圓、十八年目ヨリ三十年目迄七百七拾參圓ヲ要シ以降五ヶ年間ハ手入費及管理費ノミニシテ小計壹千四拾圓ヲ支出スヘキ計算ニシテ造林費其他合計貳萬參千四百八拾圓ヲ以テ造林ヲ完成スヘキ計畫ナリ而シテ收入ハ植栽後順次拾五年目ヨリ五ヶ年毎ニ間伐收入ヲ得五十ヶ年ニ達シ主伐收入ヲ得ル見込ナリ

造林スヘキ樹木ノ種類ハ杉、扁柏、赤松ノ三種トスルモ尙其林地ノ風土ニ鑑ミ夫々之レニ適應スル樹種ヲ以テセントス、而シテ造林地ハ町村若クハ公共團體ノ所有地ヲ選擇シ相互ノ基本財産ヲ造成スルヲ目的トシ其共益ヲ了得セシメ以テ其林地ニ地上權ヲ設定スルコト、シ部分林法ニ依リテ施業スルモノニシテ借地料トシテ收益ノ百分ノ二十ヲ地主ニ交付シ百分ノ八十ヲ施業主即チ當支部ノ所得トス斯ノ如クシテ收支ノ關係ヲ見ルニ間主伐收入ヲナシタル年度ヨリ年五米ノ重利法ニ依リ蓄積スルトキハ造林着手ノ年度ヨリ五十一年目ニ至リ投入シタル資本ノ元利合計ヲ償却シ得ヘク以後全部伐採ヲ結了スルニ至レハ合計八拾五萬五千參百餘圓ノ純利益ヲ得ルニ至ルヘキノ計算ナリ勿論地主ニ百分ノ二十ヲ交付シタル殘額ナリトス若シモ投入シタル資本ヲ償却セスシテ全部蓄積スルトキハ實ニ壹百四拾壹萬五千六百餘圓ノ基本金ヲ得ルニ至ルヘキナリ

事業ノ實行

事業實行ノ第一着手トシテ造林地ヲ撰定ス抑モ林地ハ土地肥沃ニシテ樹木ノ發育ニ適シ且交通便利ニシテ管理シ易キノ地ナラサル可カラス幸ヒナル哉京都府ニ於テ林業獎勵ノ目的ヲ以テ愛宕郡修學院村地内ナル比叡山ニ模範林ヲ設置シ明治二十九年年度ヨリ之レカ經營ニ着手セリ依テ之レニ隣接セル土地ヲ以テ當支部ノ造林地ニ撰定セリ此地ハ秩父古世層ニ屬スル礫質壤土ニシテ至テ肥沃ナルノミナラス山麓ヨリ車馬ヲ通スル道路アリテ京都市ニ至ル僅カニ一里半ニ過キスシテ京都市ヨリ比叡山延曆寺ニ通スル捷路ニ當レルヲ以テ全國ノ信徒及遊歴者等多數往來スルカ故ニ大ニ人目ヲ惹キ自然全國ニ模範ヲ示シ林業上與フル間接ノ利益抄少ナラス從テ本社事業發展上多大ノ便宜ヲ得ルニ至ルヘク且囑託セル技術者ハ京都市府技師、技手ナルヲ以テ事業施行上并ニ管理上府模範林ト同一ニセラル、ノ便益アリテ支部造林地トシテ最モ適當ノ地ナリ

林地確定スルヤ直チニ同年十一月造林ニ着手シ地勢及區域ノ關係上豫定ノ五町歩ヲ施行スル能ハサリシモ四町餘歩ニ亘リ扁柏一万八千三百二十本、杉七千二百八十本合計二萬五千六百本ヲ栽植シ翌四十二年ニ至リテハ三月ニ於テ三町歩ヲ十一月ニ於テ三町五反餘歩合セテ六町五反餘歩ニ扁柏二萬四千本杉一万五千本、合計三萬四千五百本ヲ栽植シ翌四十二年即チ本年三月ニ於テ四町餘歩ノ地積ニ扁柏二萬本、杉五千本、赤松千五百本合計二萬六千五百本ヲ栽植セリ而シテ之レニ要セシ經費ハ次ノ如シ

年 度	苗木代	植 栽		下 刈		計 金 額
		人 夫 數	賃 金	人 夫 數	賃 金	
四 十 年	九八七六〇	四二九	一六九一九〇	六三	一〇七〇〇	二八二一五〇
四 十 一 年	一四三〇〇〇	四三六	二四四四〇	四七	一七〇六〇	四〇四四五〇
四 十 二 年 春 季	一一〇〇〇〇	三九一〇	一七九九九	一〇	一	二九九九九五
合 計	三六三、七六〇	一二五九〇	五九三、五九	一二〇	三五三四〇	九九二、六九五

斯ノ如ク經費ハ設計豫算以內ヲ以テ施行スルヲ得タリ

事業ノ成績

健全ナル苗木ヲ選擇セルト植栽上特別ノ注意ヲ拂ヒタルト土地肥沃ニシテ空中ノ濕度多キトニヨリ殆
ント枯死セルモノナク未ダ一本ノ補植ヲナスノ必要ヲ見ス從ツテ生育ノ狀態頗ル良好ニシテ初年即四
十年十一月植栽シタルモノハ僅カニ滿一ケ年ヲ經過セサルニ過キサルモ能ク均一ノ生長ヲナシ平均二
尺五寸ニ及ヒ中ニハ三尺ニ達スルモノアリ隣接地タル京都府檜籠林ノ四十年春季植栽セルモノ、如キ
ハ春季ト秋季ノ差(樹木ノ生長ヨリ云ヘハ一年)ナルニ已ニ四尺以上或ハ五尺以上ニ達スルモノ多シ
之レ等ニ依テ推察スルニ將來生育ノ良好ナルヘキ疑ヲ容レサル所ニシテ本地ニ接續スル運峯ニ於テ
檜ノ杉ノ鬱蒼トシテ繁茂セルヲ見ルモ明カナリトス故ニ下草刈拂ノ如キハ植栽後三四年ニシテ其必要
ヲ見サルニ至ルヘク間伐收入ノ如キモ十五年目ノ計畫ナルモ尙之レヨリ三三年ハ其期ヲ早カラシムヘ
シト信ス

以上ノ如キ成績ナルヲ以テ將來ノ收入ニ至リテハ蓋シ豫想以上ノ好結果ヲ得ヘキヲ信ス本地ト風土ノ
關係ヲ同フスル京都府下愛宕郡花脊村ノ如キハ三十ケ年ニシテ一本貳圓五拾錢乃至參圓八拾錢ヲ以テ
立木ノ儘賣買セラル、由ナレハ本事業ノ伐期五十年ニシテ一本壹圓五拾錢ノ見積價格ハ非常ニ低廉ナ
ルヲ以テ豫定ノ收入ヲ減スルノ憂ヒナク反テ其二倍以上ノ收額ヲ得ヘキヤ言ヲ俟クサル所ナリ此推定
ニ依レハ蓄積基本金ハ蓋シ參百萬圓ニ達シ年五米ノ利率ヲ以テ運轉スル時ハ其利子ノミニシテ年々拾
五萬圓ツ、ヲ得ヘク又假リニ豫定ノ收額ニ止マルモノトスルモ年々ノ利子ハ七萬餘圓ナルヲ以テ本支
部ノ基礎鞏固ナルコト實ニ大磐石ノ如クニシテ經常、臨時費ヲ支辨シ尙多大ノ殘餘ヲ生シ大ニ事業發
展ノ資ニ供シ益基金ノ増殖ヲ計ルヲ得ヘキナリ

南桑田郡龜岡町有山林

沿革

明治二十二年町村制實施ニ際シ龜岡町字北町以東廿四ヶ部落共有ニ係ル山林反別三百三十五町二反
二十八歩ヲ同町基本財産ト爲スコトニ決シ其賠償金トシテ同町ヨリ元持主タル廿五ヶ部落ヘ金三萬
五千六百圓ヲ二十ヶ年賦ニテ支拂ヒ明治四十一年度ヲ以テ完済セリ尋テ前項山林ニ接續スル國有林
ノ拂下ヲ企圖シ總反別八十六町七畝十歩ヲ代金貳萬七百六圓五拾錢ヲ以テ特賣ヲ受ケ明治三十五年
三月三十日同町基本財産ニ編入セリ
而シテ四隣民有林トノ境界ヲ訂シ整理ヲ爲スニ當リ必要ノタメ民有林二反九畝十五歩ヲ代金參拾六
圓七拾七錢貳厘ヲ以テ買收シ基本財産ニ編入セリ依テ町基本財産林ノ面積ハ實ニ次ノ如シ

一 山林反別 四百二十一町五反七畝二十三歩

但シ此買收價格金五萬六千四百四拾參圓參拾貳錢貳厘

保護營林

明治二十七年 山林委員條例ヲ設ク
同 年 使用條例ヲ設ク
同 年 委員規程ヲ設ク
同 年 使用規程ヲ設ク
同 三十三年 山林看守勤務規程ヲ設ク
同 三十七年 山林保護規則ヲ設ク
同 三十八年 戰捷紀念殖林五ヶ年繼續事業方法ヲ設ク
如上山林保護ニ關シ盡力ノ結果舊部落共有ナリシ山林ハ殆ント荒廢ニ傾カントセシヲ挽回シテ林相
大ニ改マリ場所ニヨリテハ鬱蒼タル森林ヲ顯出スルニ至レリ又國有林特賣ノ山林ハ大半皆伐シテ其

跡地ニ五ヶ年計劃ヲ決定シ去ル明治三十八年度ヨリ實施シテ本年度ヲ以テ完了ス

一 現況

林相

一 舊部落有統一ニ係ル山林三百二十五町歩ノ約八分ハ赤松天然林ニシテ樹齡四十年乃至五十年ナリ
(此内ニ禿禿無立木地砂防工事實施中ノモノヲ含ム)全約二分ノ林地ニ現今迄ニ植栽セシ杉扁柏ハ
七萬七千二百餘本ニシテ最高樹齡十七ヶ年ナリ
一 國有林拂下ニ係ル山林八十六町歩餘ハ皆赤松林ナリシカ戰捷紀念造林トシテ植栽シタル三十八年
度ヨリ四十年度迄ノ本數ハ左ノ如シ

- 一 扁柏 十一萬百二十本
- 一 杉 九千九百五十本
- 一 赤松 六萬四千二百本
- 一 山橙 二萬六千五百本
- 一 樺 一千本

一 收入

先年國有林拂下ノ當時其立木ヲ伐採シ金貳萬壹千餘圓ヲ一時ニ收得セシ外未タ立木賣却ノ時機ヲ得
ス而モ年々同町費經濟ヘ收得スルハ松茸賣却代金ニシテ左ノ如ク多額ナリトス
自明治廿二年 每年五百圓乃至八百圓
自同廿九年 每年壹千六百圓乃至貳千六百圓
自同三十年 每年壹千六百圓乃至貳千六百圓
自同三十八年 每年參千圓乃至參千九百餘圓
自同三十九年 每年參千圓乃至參千九百餘圓
自同四十年 每年參千圓乃至參千九百餘圓
自同四十一年 每年參千圓乃至參千九百餘圓
同郡舊我部村基本財産林

一 學校基本財産

沿革

村當路者夙ニ學校基本財産造成ノ急務ナルヲ認メ去ル三十六年八月學校基本財産蓄積條例ヲ制定
シ村内篤志ノ寄附ヲ勸誘セシ結果一般ニ造成ノ必要ヲ解スルニ至レル折柄三十七八年ノ戰役ニ會
シ其筋ヨリ紀念林設置ヲ獎勵セラル、ニ及ヒ此ノ機逸スヘカラストナシ時ノ村長齋藤安次郎ハ助
役及學務委員ト共ニ部落有山林中一戸一畝步當ヲ寄附シ紀念林ヲ設置セシコトヲ熱心ニ勸誘セリ
サレト如何セン成功ニ至ラス其後三十八年十二月ニ至リ村有志者岩崎房次郎等ノ首唱ニ依リ同議
再ヒ起リ村當路者ト有志ノ熱心唱導ニ依リ遂ニ三十九年四月三日ニ至リ山林三十九町九反七畝十
二步ト金員參千六百圓(此金員ハ山林ヲ提供セサリシ部落ニ於テ山林價格ヲ戶數ニ割充タル相當
金額乃チ一戸當リ拾圓ヲ寄附セシモノ)ノ寄附ヲ得テ學校基本財産林ノ設定ヲ見ルニ至リシナリ

現況

前記山林ニ對シテハ明治四十年ヨリ同四十九年迄十ヶ年計劃ヲ以テ殖林スル方法ヲ立テ中腹以上
ハ松茸發生地ナルヲ以テ赤松自然林トナシ中腹以下ノ肥沃ナル部分ニ杉、檜、柵ヲ地味ニ應シ植込
ヲナスコト、ナシ既ニ該計畫ニヨリ三町歩ニ杉三千本、檜六千本ノ植付ヲナセリ而シテ其成績良
好ナルヲ認ム

保護方法

去ル三十九年四月五日學校林保護規程ヲ設ケ保護委員三名ト看守人(必要ニヨリ員數ヲ定ム)ヲ
置キ造林施設ノ計畫ト苗木栽培ノ監督並ニ山林看守ヲナサシメ四十年度ヨリ十ヶ年間ニ反別十町
二反歩ニ檜二萬二千本杉八千六百本ノ植込ヲナス計畫ニテ每歲其一部ノ植林ヲナスノ計畫ヲ確定
シ學校生徒實習ノタメ年々少許ノ柵ヲ植付シムルコト、セリ而シテ之レニ要スル費用ハ學校基本

財産金員利子ノ内毎年貳百圓ヲ支出シ不足ハ村費ヨリ支辨ノ見込ナリ
一 普通基本財産

去ル三十九年學校基本財産トシテ部落有財産寄附成功報告會ニ於テ一步ヲ進メ全部ノ部落有山林ヲ
村普通基本財産ニ移サントノ有志ノ發議ニ基キ元ヨリ好機ヲ期待セシ村長並河紀ハ爾來有志ト相謀
リ統一方法ヲ定メ各部落ニ説キ熱心盡瘁ノ結果本年四月二十一日村會ノ議決ヲ經九月四日郡參事會
ノ許可ヲ得テ茲ニ四百八十五町三反一畝二十歩ノ基本財産林ヲ見ルニ至レリ

一 現況

該山林ハ古來部落住民ノ肥料採取ノミニ使用シ全部草山ナリシモ去ル十八年ヨリ何レモ松樹ノ伐採
ヲ禁シタルヲメ曰今ニテハ中腹以上ニ松樹繁茂シ中腹以下ハ部落住民借受ケ適地ニ杉檜櫟ノ植林ヲ
了セルヲ以テ林況稍佳ナリ

一 保護方法

前記ノ如ク目今所有權移轉ノ手續中ニ屬スルモノナルヲ以テ具體的ノモノナキモ密附ニ對スル附帶
條件アリテ來明治七十一年九月迄ハ相當貸與料ヲ徵シ各寄附部落住民ヘ貸與シ從來區有ノ當時借受
ケ植林セシ樹木ノ伐期ヲ待チ夫々返付セシメ純然タル基本財産ノ管理方法ヲ確定スル見込ナリ

其他詳細ノ事項ハ第九章第一公有林整理ノ項ニ記述アルヲ以テ茲ニ省略セリ幸ヒニ參照セズ

船井郡質美村有林

一 柴草山反別四百五拾六町壹段八畝拾歩

沿革

本山林ハ殆ソド區有財産ヲ統一シタルモノニシテ純然村基本財産トシテ購買セシモノハ貳町壹段
七畝四歩ナリ本件統一ニ付テハ一、村植林ヲナスコト二、柴草採取地自由採收ノ爲メ使用地ヲ定

ムルコト 三、共同殖林計畫ニ對スル使用ヲ許スコト等ノ條件ヲ設ケタリ

村植林ハ各其年ノ狀態ニ依リ不規律ニモ幾分ノ計畫ヲナセシニ明治四十年度ヨリ別紙造林條例ニ
依リ計畫ヲ續行セリ柴草採取地ハ舊來ノ習慣ニ依リ鎌止メノ不便ヲ啣チツ、アリシモ現在耕地ト
同反別ヲ目的トシテ存續ノ計畫ナリ

共同殖林計畫ハ明治二十七年ノ頃有吉郡長ノ鎌止殖林法極力獎勵ニ從ヒ柴草採取地中耕地ノ被害
渺ナキ箇所ヲ擇ヒ各方面ニ於テ計畫セリ現在面積百二十町ニ及ヘリ

山林中開墾ニ適セル土地一町〇七畝二十二歩ハ相當手續ヲナシ近々鐵下年期明トナル

事業計畫

所在地 船井郡質美村字庄和ノ上三十三番地、字稻ノ山五十八番地、字一ノ谷二十三番地山

林(普通林)

種別 學校基本財産林及村基本財産林

所有者 質美村

全面積 臺帳反別百拾五町七反壹畝五歩

實測反別百五拾五町七反七歩

造林計畫面積 五拾五町七反七歩

内

天然林造林 貳拾町步

四十二年四月マテニ計 九町步

既成ノ分

四十二年植込計畫 四町貳反歩

四十二年ヨリ四十七年

マテ五ヶ年間ノ計畫 參町步宛(但一ヶ年ニ)

四十八年ヨリ五十年マ
テ三ヶ年間 貳町五反歩宛(但同上)

樹種及植込數

檫 壹萬貳千本

内

既 成 五千四百本

四十二年 六千本(植込ノ計畫)

四十三年 六百本(同上)

檜 五萬本

内

既 成 八千九百本

四十二年 參千六百本(植込ノ計畫)

四十三年 四千五百本(同上)

四十四年ヨリ四ヶ年間 四千五百本宛(但一ヶ年)

四十七年マテ 四ヶ年間 五千本 宛(但同上)

杉 壹萬八千本

内

既 成 參千本

四十三年 九百本(植込ノ計畫)

四十四年ヨリ四ヶ年間 千五百本宛(一ヶ年ニ植込ノ計畫)

四十七年マテ 三ヶ年間 貳千七百本宛(同上)

五十一年マテ

栗 六百本 但既成
赤松 貳萬七千本

内

既 成 八千本

四十二年ヨリ六ヶ年間 參千本宛(一ヶ年ニ植込計畫)

現況

村殖林地中村基本財産トシテ購買セシモノニ町餘ハ何レモ天然林トシテ雜木森々何レモ三十年以
上ノ林齡ナリ統一財産中天然林ハ今ヤ柴草山ノ状態カ變シテ柴山雜木林トナリ植込林ハ杉檜生育
シ良好ナルケ所ハ十年生ニシテ貳尺廻リニ達セル個所アリ條例設定後ハ年々規定ノ植込ヲ續行シ
相當ノ成績ヲ呈シツ、アリ

共同殖林計畫ノ爲メ使用セシメツ、アル所ハ天然林ヲ主トシ人造林至テ抄シ去レ地相ニ依リ松
樹ヲ仕立タル所ニ於テハ松茸ノ産額逐年盛ニシテ杉檜ノ成績亦良好ナリ

造林保護ノ方法

條例設定以前ハ人造林ニ對スル苗木ハ便宜商人ヨリ購買栽植セシモ其後滋賀三重奈良縣下ノ植林
状態ヲ觀察シ村苗圃ヲ設ケ樹苗ヲ育成シ苗圃ノ保護ハ村青年會之ニ當リ植込及下刈等ニ至リテモ
人員ニ不足セサル限リハ青年會之カ作業ヲナシ其收益ハ共同貯蓄ヲナシメ村事業ノ遂行ト青年
者ニ對スル共同作業、共同貯蓄、愛林思想ノ喚起ニ努メツ、アリ苗圃ノ成績良好ニシテ移植後枯苗
ヲ生スルコト少ナク青年亦喜ンテ從事セリ下刈ハ其地質ノ状態ニ依リ年一回又ハ二回之ヲ行フ
利用ノ方法及收穫

利用ノ方法未タ遠クシテ之ヲ述フル能ハスト雖モ條例ノ事業ヲ遂行ノ後ハ村經常費ハ其利潤ヲ以テ支辨シ得ルノ豫定アリ
爾後計畫ノ遂行ニ伴ヒ專任森林看守ヲ要スヘク從テ間伐瀾葉樹ハ推茸ノ産出ヲ講スルノ見込ナ

京都府船井郡賀美村基本財産造林條例

- 第一條 本村基本財産造成ノ爲メ本條例ノ規定ニ依リ二十年計畫ヲ以テ造林ヲナスモノトス
- 第二條 造林地ハ本村所有ノ柴草山ヲ以テ之ニ充テ杉、檜、松、樺ノ植栽及ヒ雜木林造成ノ二類トス
- 第三條 植栽林ハ反別五十町歩雜木林ハ反別百町歩ニ達スルヲ目的トシテ計畫スルモノトス
- 第四條 植栽及保護ニ要スル經費ハ村費ヲ以テ支辨ス
- 第五條 左ノ場合ニ於テ村税ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキハ村會ノ決議ヲ經テ植栽ノ一部若クハ全部ヲ停止スルコトヲ得
但シ栽植ヲ停止シタルトキハ其停止年數ニ應ジ造林年限ヲ延長ス

- 一 公債ヲ起ス年度又ハ公債償還年限中
- 一 非常凶荒ノ年度
- 一 臨時事業施行ノ年度

第六條 造林方法ハ手入伐採補植其他保護管理ノ方法等ハ村會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

附 則

第七條 本條例ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

同村學校基本財産

一 山林反別四町一反四畝十歩

沿革

町村制實施ノ際村基本財産ヲ學校基本財産トナセシモノニシテ便宜的殖林計畫ヲナシ内見積反別一町歩ハ明治三十六年ニ始メ學校創設三十年紀念ヲ起源トシ毎年卒業児童及其父兄ヲシテ植栽ニ從事セシメツ、アリ餘ス所尙ニ反歩ノ見積ナリ明治四十年度ヨリ別紙造林條例ニ依リ計畫ヲ續行シ植栽ヲ完了セリ

現 況

便宜植栽ヲナセシ杉檜ハ森々トシ發育シ條例遂行ノ部分モ相當ノ成績ヲ呈シ條例中ニ規定セル松、栗、樺等ハ在來ノ樹種ヲ保護シ育成セリ其發育實ニ良好ナリ

造林保護ノ方法

村基本財産林ニ同シ

利用ノ方法及收穫

村基本財産林ニ同シト雖モ植込完結早キ爲メ早植及在來種保護樹ノ如キハ何レモ二尺廻リ以上ニ及ヒ地質良好ナルヲ以テ伐採期ニ至ラハ學校經常費ハ裕ニ支辨シ得ルノ方針ナリ

同村學校基本財産造林條例

- 第一條 本村學校基本財産造成ノ爲メ本條例ノ規定ニ依リ十年計畫ヲ以テ造林ヲナスモノトス
- 第二條 造林地ハ學校基本財産タル土地ヲ以テ之ニ充テ樹種ハ檜、杉、松、樺、栗ノ種類トス
- 第三條 造林スヘキ樹木ノ數ハ毎年三千本以上トス
- 第四條 植栽及保護ノ費用ハ村費ヲ以テ支辨ス
- 第五條 左ノ場合ニ於テ村税ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキハ村會ノ決議ヲ經テ植栽ノ一部若クハ全部ヲ停止スルコトヲ得
但シ栽植ヲ停止シタルトキハ其停止年數ニ應ジ造林年限ヲ延長ス

- 一 公債ヲ起ス年度又ハ公債償還年限中
- 一 非常凶荒ノ年度
- 一 臨時事業施行ノ年度

第六條 造林方法手入伐採補植其他保護管理法等ハ村會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

附 則

第七條 本條例ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

船井郡世木村ニ於ケル林業

地 勢

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

本村ハ京都府廳ヲ去ル十二里四町船井郡役所ノ北二里七町ノ所ニ位ス一体ハ山嶽重疊シテ耕地少ク大堰川ハ本村字天若、中、殿田ヲ貫通淀川ニ注ク地質ハ未ク學術上ノ調査ヲ遂ケス土壤モ亦化學的ノ研究ヲ遂ケスト雖モ大堰川筋ハ砂土質其ノ他粘土質ニシテ何レモ諸種ノ耕作ニ適ス氣象ハ最高温度八月中旬攝氏二十八度最低ハ二月上旬ニシテ六度五分位降雨ハ九月十月頃尤モ多ク十一月中旬風春夏ハ東南秋冬ハ西北多雪早キハ十一月中旬晚キハ五月上旬結氷早キハ十一月中旬晚キハ三月中旬風春夏ハ東南秋冬ハ西北多シ生業ハ農業兼林業ニ從事スルモノ最モ多ク副業トシテ養蠶及商業ヲ營ミ傍ラ舟筏夫ナスルモノ多シ交通、縣道若狹街道ノ外ニ各部落ニ里道ノ往還アリ大堰川及支川三ヶ所アリ舟筏ノ便開ケ林産物搬出ニ頗ル便ナリ風俗質素、人情温厚朴訥教育ハ比較的進歩セリ目下各學校ニ農業科ヲ特設シ農業ニ關スル智識ヲ啓發セシメツ、アリ

沿革

抑モ本村往古ノ山林事蹟ハ記錄ノ徵スヘキモノナキヲ以テ詳ナラスト雖モ古人ノ口草ニ傳ハリ來リシ事ヲ取調フルニ今ヲ去ル八百五十餘年ノ昔堀川天皇ノ時代不通ナリシ大堰川ニ改修ヲ加ヘ流筏ヲ初メテ行ハシメ更ニ天正十一年豊臣秀吉大阪ニ城ヲ建築セントスルニ當リ良材ヲ山深キ我里ニ來リ多數蒐集シ大堰ノ河川ニヨリテ搬出セシト云フ之レニ依ツテ考察スルニ此ノ時代ヨリシテ植林行ハレ良材繁茂シ居リシモノ、如シ其ノ後天文ノ頃今ヨリ二百七十餘年以前角倉了以更ニ大堰川ニ大々的改修ヲ加ヘ舟筏ノ流下ヲ便ナラシメシヲ以テ時ノ商人燃料材即チ今ノ薪炭ヲ搬出シ販賣先チ擴張セシメ一面此ノ時ヨリ櫟ノ植栽ニ意ヲ注キシト云フ其ノ後領主小出公ノ時代ニ至リ植林地ヲ伐採シ再植セントスルトキハ伐採本數ヨリ以下ノ苗木ヲ植栽スルニアラサレハ輕罪ニ處スル旨ヲ布達セシニヨリ一頓挫ヲ來シ爲ニ植林ノ發展ヲ妨ケシコトアリ明治ノ初年ニ至リ法定一度改定セラレテヨリ稍ヤ林業ニ意ヲ注クニ至ル明治十年迄山林ハ無地價ナリシヲ以テ現今ノ地租ニ代フルニ山役錢トテ金ヲ徵シ領主ニ納メシ

ト云フ明治十年山林地價設定地租ヲ徵收セラル、ト共ニ本村ハ山高クシテ天賦ノ林業地且ツ耕地少ナキ爲メ勢ヒ林業ニ志シ之レニ獎ムルニ至リ以テ現今ノ發達ヲ見整然タル林相ヲ形成スルニ至レリ元來本村ハ耕地僅少ナルヲ以テ村民ノ大部分ハ林業ニヨリテ糊口ノ資ニ供スルヲ以テ今後ハ層一層發展スルニ至ルヘシ

現況

一面積 六百四十二町七反九畝十四歩
 (見積面積二千五百七十一町一反六畝歩)

内 譯

櫟 林	見積面積	四百四十九反五畝十四歩
櫟 林	見積面積	千六百十九町八反三畝歩
檜 杉 林	同	百八十八町九反二畝歩
天然 林	同	四百七十五町六反六畝歩
天然 林	同	百八十九反二畝歩
無立木地	同	四百四十五町六反七畝歩
無立木地	同	三十町歩

而シテ天然林ニ在リテハ赤松ヲ主トシ雜木林ニシテ柴草刈取場ノ如キハ無立木トシテ計上セリ然レトモ此無立木地ハ柴草刈取地トシテ必要ナル部分ニ止メ殆ント其八割ハ明年度ヨリ植林スルノ豫定ナリトス

造林ノ方法

植栽ニ要スル杉檜等ノ苗木ハ大概自家ノ培養シタルモノヲ以テ之ニ充テ櫟苗ニ至リテハ幾分他ヨリ買入ル、モノアリ苗木ヲ植栽セントスルニハ先ツ前年八、九月頃ニ荆棘草蔓等ヲ刈リ充分奇麗ニ掃除ナシ毎年二月下旬頃ヨリ四月上旬頃迄ニ植栽スルヲ適當トス植樹ハ正三角形トス手入ハ植栽後六七年間ハ毎年三四月頃風雪ノ爲メ籠レタル木ヲ繩ニテ釣り十一年頃下枝打チナシ夫レヨリ七八年目毎ニ枝

打チ爲ス下刈ニ付テハ先ツ梅雨ノ頃ヨリ始メ別紙造林計算書ノ通り實行ス

伐採ノ方法

一 櫟林ノ伐採ハ大概九年以上十二年生ニシテ伐採ノ期ハ十二月上旬ヨリ翌四月下旬迄先ツ株ヨリ幹ヲ放チ枝ヲ切り然ル後幹ハ地方定式ノ一尺五寸二分ニ枝ハ三尺程ニ切揃ヘ風雨ノ感レテ除ク爲、葉、又ハ萱茸小屋ニ積上ケ(一人一日平均、切、割、積上五十束)八月頃ニ至リ繩又ハネツテ以テ縛上ケ荷出スルモノトス内夏田トテ(新木)五、六月頃ヨリ縛上搬出スルモノモアリ

二 用材林ノ皆伐ハ大概五十年位トス(檜、松ハ六、七十年位)伐採期ハ八月ヨリ十月迄トス先ツ幹ヲ切取り皮ヲ剝取り後柵ニ積ミテヨク乾カス、十月頃ニ至リ切揃ヘ両端ニ穴ヲ鑿チ、川邊迄テ搬出スルモノトス

立木賣買ノ方法

薪炭林ノ賣買時期ハ毎年十二月頃ヨリ翌年ノ一、二月頃ニ多シ賣買ニ二種アリ即チ立木ヲ地方商人ニ賣買スルモノト薪炭ニ製造シ後、川邊ニ於テ賣買スルモノトアリ、買主ニ於テハ賣主ニ對シ大抵山手金トシテ二分ヲ渡シ殘金ハ山仕舞ノ上支拂フテ例トス

用材林ノ賣買ハ毎年六、七月頃ニ立木ニテ賣買スルモノ多シ、賣買ノ點ニ於テ薪炭林ト大差ナシ

出ノ方法

薪炭、作業地ヨリ川傍迄テ大概一輪車ニテ運搬シ夫レヨリ陸路ハ牛馬車ヲ以テ園部驛迄河川ニテハ船筏等ニテ、八木驛嵯峨地方迄搬出シ各運送會社ニ依託シ更ニ瀛車ノ便ヲ借リテ京都市方面へ運送シ賣捌クモノトス

木材ハ大堰ノ河川ニヨリ嵯峨村迄テ流下セシメ材木會社ニ依託ス

商取引ノ方法

薪炭 買求シ地方商人ハ陸路又ハ河川ニヨリ運送會社ノ手ヲ經テ京都方面へ運送セシメ各自得意ノ商人ニ應分ノ利益ヲ取り卸下賣チナシ金員ヲ持歸ヘルヲ例トス別ニ契約書ノ如キモノヲ取換サス唯口頭ヲ以テ取引チナスモノ多シ

木材 地方商人ハ重ニ葛野郡嵯峨村ニ設置ノ材木會社ニ販賣ヲ依託シ月末ニ集金ニ出張スルモノ多シ

檢造林收支計算(面積一反步)

支出之部

一金拾四圓也

第一年目所要金高

費目	代	額	備考
苗木	七、五〇〇	一坪一本植栽トシ一本ノ價格貳錢五厘三百本代	
地代	二、五〇〇	人夫五人掛リ一人日當五拾錢	
植付	一、五〇〇	人夫一人一日百本植付三人掛リ一日五拾錢	
下刈	一、五〇〇	一年二回人夫一回一人半掛リ日當五拾錢	
雜費	一、〇〇〇	保護費(害虫ノ豫防)其他	
計	一四、〇〇〇		

一金貳圓七拾五錢

第二年目所要金高

費目	額	備考
補植	一、〇〇〇	苗木三十本補植一本貳錢五厘、人夫一人掛リ一人日當五拾錢
下刈	七五〇	年一回人夫一人半掛リ日當五拾錢

第十一章 町村其他団体ノ林業施設

雜費	一、〇〇〇	保護費其他
小計	二、七五〇	
一金拾參圓七拾五錢		第三年目ヨリ所要金高
壹ヶ年平均所要金高貳圓七拾五錢		第七年目ニ至ル
內譯		
費目	額	備考
下 蒔	七五〇	年一回人夫一人半掛り日當五拾錢
雜費	二、〇〇〇	保護費其他
小計	二、七五〇	
一金貳拾六圓也		第八年目ヨリ所要金高
壹ヶ年平均手入保護費五拾錢		五十九年迄

初年	現在本數	間伐歩合	間伐本數	單	價金	額	備
二年	三〇〇	二〇%	六〇	〇三〇	一八〇〇		植付本數
三年	二四〇	一五%	三六	一一〇	三九六〇		
四年	二〇四	一五%	三〇	二八〇	八四〇〇		
五年	一七四	一五%	二七	五〇〇	八五〇〇		
六年	一四三	一〇	一五	一七〇〇	二五、五〇〇		
合計							

五十二年	二八	一〇	四、〇〇〇	五六〇〇〇					
六十一年	二八	一四	六、〇〇〇	七六、〇〇〇					
合計		一七		八七、二六〇					
初年	次	收	支	出	金	額	收入	金額	差引金額
二年	年	支	出	金	額	一四、〇〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	△ 一四、〇〇〇
七年	年	支	出	金	額	二、七五〇	三、九六〇	一、二一〇	△ 一、二一〇
十二年	年	支	出	金	額	一三、七五〇	八、四〇〇	五、三五〇	△ 五、三五〇
十七年	年	支	出	金	額	三、〇〇〇	八、五〇〇	五、五〇〇	△ 五、五〇〇
二十二年	年	支	出	金	額	三、五〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	△ 一、〇〇〇
二十七年	年	支	出	金	額	四、〇〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	△ 一、五〇〇
三十二年	年	支	出	金	額	三、五〇〇	七、六〇〇	四、一〇〇	△ 四、一〇〇
三十七年	年	支	出	金	額	四、五〇〇	五、六〇〇	一、一〇〇	△ 一、一〇〇
四十二年	年	支	出	金	額	四、〇〇〇	七、六〇〇	三、六〇〇	△ 三、六〇〇
四十七年	年	支	出	金	額	三、五〇〇	七、六〇〇	四、一〇〇	△ 四、一〇〇
五十二年	年	支	出	金	額	三、五〇〇	七、六〇〇	四、一〇〇	△ 四、一〇〇
合計						八七、二六〇	八七、二六〇		

一金拾參圓四拾錢也

內 譯

第十一章 町村其他団体ノ林業施設

第一年目所要金高

杉造林收支計算 (面積一反歩)

支 出 ノ 部

費目	金額	備考
苗木代	六、九〇〇	一坪一本植栽トシ一本ノ價格貳錢參厘トシ三百本代
地付	二、五〇〇	人夫五人掛リ一人日當五拾錢
植付	一、五〇〇	人夫一人一日百本植付三人掛リ一日五拾錢
下地	一、五〇〇	一年二回人夫一回一人半掛リ日當五拾錢
雜費	一、〇〇〇	保護費(害虫ノ豫防)其他
計	一三、四〇〇	

第二年目所要金高

一金貳圓六拾九錢也

内譯

費目	金額	備考
補植費	九四〇	苗木三十本補植一本貳錢參厘ノ割 人夫半人掛リ一人日當五拾錢ノ割
下地費	七五〇	一年一回人夫一人半掛リ日當五拾錢
雜費	一、〇〇〇	保護費其他
計	二、六九〇	

第三年目所要金高

一金拾參圓七拾五錢也

一ヶ年平均所要金高貳圓七拾五錢也

内譯

費目	金額	備考
雜費	七五〇	一年一回人夫一人半掛リ日當五拾錢
下地費	一、〇〇〇	保護費其他
計	一、七五〇	

二、七五〇

第八年目所要金高

一金貳拾壹圓也

一ヶ年平均手入保護費五拾錢也

通計 五拾圓八拾四錢也

收入ノ部

年次	現在本敷	間伐歩合	間伐本敷	價金	額	備考
初年	三〇〇	二〇%	六〇	〇六〇	三六〇〇	植付本敷
十三年	二〇〇	一五	三〇	二二〇	七九二〇	
二十八年	一四〇	一五	二一	一七〇	一七二〇〇	
三十五年	一七〇	一〇	一七	一〇〇〇	一七〇〇〇	
四十年	一四〇	一〇	一四	一五〇〇	二一五〇〇	
五十年	一四〇	皆伐	四〇〇〇	四〇〇〇	五六六〇〇〇	
合計	一四三〇		一五	四〇〇〇	六三六、二二〇	

年次	収入金額	支出金額	差引金額(増△甲失)
初年	一三、四〇〇	一三、四〇〇	△
二年	一三、七五〇	一三、七五〇	△
三年	一三、七五〇	一三、七五〇	△
合計	三〇、九〇〇	三〇、九〇〇	△

年次	支出金額		收入金額		差引金額(△印ハ)
	金額	面積	金額	面積	
二十五年	二二,五〇〇	一六,五〇〇	三八,二五〇	二,七五〇	△ 一一,五〇〇
二十六年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六三,七五〇	五,七五〇	△ 三,七五〇
二十七年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六三,七五〇	五,七五〇	△ 三,七五〇
二十八年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六三,七五〇	五,七五〇	△ 三,七五〇
二十九年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇,四五〇	五,七五〇	△ 四,四五〇
三十一年	六九,〇〇〇	六九,〇〇〇	三三,七〇〇	五,四〇〇	△ 一三,三〇〇
合計	二二,五〇〇	一六,五〇〇	三三,七〇〇	二,七五〇	△ 一一,五〇〇

年次	山林反別調		世木村	
	面積	積	面積	積
二十五年	六四,二七九・四	二五,七一一・六〇〇	四〇,四九五・四	六,三三〇
二十六年	六四,二七九・四	二五,七一一・六〇〇	四〇,四九五・四	六,三三〇
二十七年	六四,二七九・四	二五,七一一・六〇〇	四〇,四九五・四	六,三三〇
二十八年	六四,二七九・四	二五,七一一・六〇〇	四〇,四九五・四	六,三三〇
二十九年	六四,二七九・四	二五,七一一・六〇〇	四〇,四九五・四	六,三三〇
三十一年	六四,二七九・四	二五,七一一・六〇〇	四〇,四九五・四	六,三三〇

年次	薪炭		材	
	積	價	積	價
二十五年	二五,〇〇〇	三三,〇〇〇	六,三三〇	一三,六〇〇
二十六年	二五,〇〇〇	三三,〇〇〇	六,三三〇	一三,六〇〇
二十七年	二五,〇〇〇	三三,〇〇〇	六,三三〇	一三,六〇〇
二十八年	二五,〇〇〇	三三,〇〇〇	六,三三〇	一三,六〇〇
二十九年	二五,〇〇〇	三三,〇〇〇	六,三三〇	一三,六〇〇
三十一年	二五,〇〇〇	三三,〇〇〇	六,三三〇	一三,六〇〇

四十一年 備考 一棚八百四十四束 熊野那湊村 二一九一 二一九〇九〇〇〇 六八〇〇 一五六一七〇〇〇

湊村字湊宮小字箱石四百六拾八番地
一山林反別拾貳町四反五畝拾九步
一沿革

右ハ元京都府熊野郡湊宮村全大向村全蒲井村全葛野村ノ四ヶ村入會地ナリシカ町村制實施ニ因リ前記熊野郡湊村ノ所有トナレリ慶長七年頃迄ハ白砂不毛ノ地ニテ別ニ利用ノ道ナカリシカ同年頃前記四ヶ村協議シ薪炭ニ造ラソカ爲メ松苗千本ト其松苗風禦ノ爲メ葉黄五百本ヲ併植セシニ初マリシ由以來年々好期多少ノ植込チ爲シタリ然ルニ年々追テ怠惰ノ姿トナリ其植込チ中止セサルヘカラサルノ状態トナレリ依リテ寛保年中又前記四ヶ村協議シ年々一戸一人一日間ノ夫役ト定メ松苗移植ニ從事セシム其後文化元年御代官鹽谷大四郎殿ヨリ勸奨モアリ同年ヨリ前記四ヶ村共一戸ヨリ一人二日宛春秋日ナ期シ兩度共松樹ヲ移植スルニ從事ス以來不怠移植ス明治十五年東京ニ於テ開催セラレタル山林共進會ヘ此山林ヲ出品シ農商務卿西郷從道殿ヨリ六等褒賞銀壹個付(褒賞ハ別紙寫ノ通り)ヲ授與セラレ明治十七年迄ハ不怠實行セシカ同年ニ至リ地面全部ノ栽植ヲ完了セシニ因リ植込ミチ止ム同年頃ヨリ林中空間ニ付開墾試作地ヲ開キ桑樹果樹等ヲ移植ス是又克ク繁茂ス因リテ以來年々少々宛ノ開墾チナシ爲ニ元山林面積ハ貳拾四町五反八畝拾九步ナリシニ現今前記ノ面積ニ減少セリ

二現況
松樹ノ外他ノ樹木ナク唯松ノ成育ヲ助ケタル葉黄アルノミ松樹ハ其太サ目通り廻シ一尺以下一萬六千本一尺以上三尺以下一萬二千本三尺以上三千五百本餘ノ立木現存シ林中深々ナリ近來開墾ノ結果

其面積ヲ減シテト雖モ今尙近郷ニ稀ナル林相ナリトス

三 造林保護ノ方法

移植セシ松苗ノ生育ヲ助ケル爲メ菜蕘ヲ併植ス菜蕘ハ大概松苗數ノ半額ヲ植フルヲ通例トス而シテ其植込方ハ他山ヨリ高サ二尺以下ノ稚松ヲ成丈ケ根土ヲ落サ、ル様掘取リ菜蕘モ同様ニ掘取リ風陰又ハ林ノ疎ナル處ヲ見計ヒ植込ムノミニテ別ニ保護ノ方法トシテハ何等施スヤナシ松樹ノ植込ミハ一ケ年凡八百本位ナルモ生立ツモノ凡三四百本位ニシテ其他ハ枯死ト埋没トニ屬セシナリ

郡名	起業者	目的	所在地	樹種	面積	事業年限	着手年度	摘要
愛宕	雲ヶ畑村	基業財産	大字岩屋村	スノキ	二〇、〇〇〇	自三十八年以後	三十八年	
相樂	上粕村	同	高麗郡	同	一〇〇、〇〇〇	三十八年	三十八年	
同	西和東村	同	大字石橋村	同	五〇、〇〇〇	同	三十八年	
同	南桑田	同	大字篠	同	二一、〇〇〇	同	三十八年	
同	與謝	同	同	同	二〇、〇〇〇	同	三十八年	
同	同	同	同	同	四〇、〇〇〇	同	三十八年	
同	同	同	同	同	五〇、〇〇〇	同	三十八年	
竹野	日ヶ谷村	基本財産	同	同	三三、〇〇〇	同	三十八年	
加佐	吉野村	同	同	同	二二、〇〇〇	同	三十八年	
中野	餘保呂村	水源灌漑及基本財産	同	同	六、五〇〇	同	四十二年	
同	峯山町	基本財産	同	同	五〇、八〇〇	同	四十二年	
同	上宮津村	同	同	同	一五〇、〇〇〇	同	三十九年	
同	久美濱町	同	同	同	三六、四二六	同	三十八年	

綴喜郡宇治田原村ニ於ケル森林經營

一 沿革

本村ハ綴喜郡ノ東端ニ位セル一團ノ山間部ニシテ維新以前ハ宇治田原郷ト總稱シ十九ヶ村ニ分レ京都禁裏御料直轄地ニ屬セリ明治六年八ヶ村ニ合併セラレ全廿二年町村制ノ發布ノ際其ノ一部岩山、禪定寺、立川、湯屋谷、奥山田ノ五大字ヲ以テ現今ノ宇治田原村ヲ組織シ村内公私有山野總反別三千二百四十八町餘歩内公有山野反別一千二十六町餘歩ヲ保有セリ此ノ山野ニ關スル往昔ノ事歴ハ遡トシテ今之ヲ徵證スルニ由ナシト雖モ前記ノ舊村各自共有山野ヲ有シ徳川氏治世ノ元和七年六月東福門院様御入内ノ時ニ方リ新御料壹萬石御添高ノ内不足高二百三十四斗四合ヲ我宇治田原郷ノ山野ニ賦課セラレ即チ小物成高トシテ之ヲ分擔シ各村ニ於テ又所屬ヲ定メ之ヲ一村或ハ數村ノ共有林ニ配分シ居住ノ村民ハ隨意ニ薪炭及肥料ノ採取ヲ此ノ林地ニ於テシ何等ノ制裁ヲ受クル所ナク只時々土砂防止ノ命ヲ受ケ草樹ヲ植栽セシトアリシモ概シテ濫伐ヲ擅ニシ柴草山ノ稱呼ヲ冠シ矮短ナル雜草木僅ニ地表ヲ蔽フノ林況ナリシナリ明治二三年ノ交一時鎌止メヲ爲シ全六年(林山契約)天然林ヲ養成シ其收益ハ現住者均一分配ノ規約ヲ立テタリト雖モ散漫ニシテ之ヲ遂行スルノ設制ヲ見ス唯自然放置ノ狀態ニシテ具態的ニ保護養成ノ法ヲ講セサリシヲ以テ溪間肥沃ノ地ノ如キハ却テ荆棘蔓草叢生彌漫シ中腹以上亦巨材ノ産出ヲ見ス加フルニ運搬不便ノ地ハ何等ノ收益ヲ擧ルヲ不得終ニ益々荒廢ノ狀態ヲ以テ年所チ經タリ而シケ或大字ニ於テハ地租改正ノ當初稟證ノ不完全ヨリ明治十三年頃一時國有ニ編入セラレ明治十七年ヨリ二十四五年ニ至リ官行ヲ以テ適地ニ杉檜ヲ植栽シ林相改良ノ端ヲ開カレシカ成績ノ佳良大ニ地方ニ向テ好模範ヲ示シ更ニ三十二年ニ至リ民有ニ復舊セルヲ以テ一般ノ公私有林ニ對シ刺戟ヲ與フル事不尠且ツ三十九年本府令公有山野整理規程ノ發布ニ際會セルト戦後經營ノ急務ハ此安固ニシテ有利ナル林地ノ經營一日モ忽諸ニ付ス可ラストノ一般觀

念ヲ痛切ニ喚起シ爾後着々計畫且ツ實行ノ歩ヲ進メツ、アリ
一現 況

公有山野臺帳反別一千二十六町五反一畝十四歩

内

反別三十四町七反三畝二十四歩 三十九年度保安林ニ編入セラレ

反別百三十八町五反九畝二十歩 四十年以前植栽ニ係ル杉扁柏
ノ單種或ハ混交ノ既成造林

反別五百六十七町一反四畝二十三歩 赤松及雜木天然林

反別三十六町三反三畝九歩 雜草木肥料採取地

反別二百四十九町六反九畝二十八歩 四十年ヨリ向フ十ヶ年乃至二十ヶ年計畫更新期成林

而シテ右更新期成林ノ内四十年四十二年乃至三ヶ年ニ於テ造林實行ヲ了セルモノ

反別五十町七反七畝一歩 杉扁柏ノ混交林

更ニ之ヲ各大字ニ細別スレハ

(一) 大字湯屋谷區公有林(明治四十年六月三十日事業計畫認可
可申請全年八月十七日認可指令)

總反別百十二町二反三畝二十四歩

内 譯

反別九町三反九畝二十四歩 保安林 杉扁柏松雜
木ノ混交林

反別二十七町四反一畝三歩 四十一年以前植栽杉扁
柏ノ單種或ハ混交林

反別五十一町一反七畝五歩 赤松及雜木ノ天然林
新炭肥料ノ供給地

反別二十四町二反五畝二十二歩 四十一年ヨリ向フ十ヶ年
計畫杉扁柏ノ更新地

但シ一ヶ年平均反別約二町四反歩宛杉扁柏ノ混交林造成計畫ニシテ四十年年度ニ於テ一町歩四十一年

度ニ於テ二町五反歩ヲ植栽シ四十二年年度二町五反歩ノ植栽ニ對シ補助ヲ申請シ植栽ヲ完了セリ

(二) 大字立川區公有林(全上認可指令)

總反別百五拾九町參反〇五歩

内 譯

反別拾六町六反九畝拾八歩 保安林(雜木林)
四十一年以前植栽

反別壹町貳反歩 杉扁柏
赤松及雜木天然林

反別八拾四町九反貳拾歩 新炭肥料採取地

反別五拾六町四反八畝廿八歩 四十一年度ヨリ向フ十ヶ年
計畫杉扁柏ノ混交林造成地

但一ヶ年平均反別約貳町八反歩植栽ノ豫定ニシテ四十年年度ニ於テ貳町九反歩四十一年度ニ於テ六町

八反歩(植樹補助金下付)ノ造林ヲ實行シ四十二年度七町九反四畝壹歩ノ(植樹ノ補助申請)植栽

ヲ完了セリ

(三) 大字奥山田、岩山區共有公有林(四十一年六月八日
事業計畫認可申請)

臺帳反別參百〇七町四反九畝拾歩

實測反別參百〇五町九反四畝五歩

内 譯

反別貳拾八町九反四畝歩 四十年以前杉扁柏植栽林

反別百四拾町九反〇拾七歩 赤松雜木天然林
新炭肥料採取地

反別九拾八町九反五畝八歩 四十一年度ヨリ向フ十ヶ年
計畫更新期成林

但シ壹年平均反別約五町歩宛造林ノ豫定ニシテ四十年年度ニ於テ反別貳町歩四十一年度ニ於テ反別六

町七反五畝貳拾歩(植樹補助金下付)四十二年年度ニ於テ反別拾町歩(植樹補助申請)ノ植栽ヲ完了セリ

(四) 大字奥山田區共有公有林(四十一年六月八日事業)
 湯屋谷區共有公有林(計畫認可申請)
 臺帳反別貳拾參町六反拾七步
 實測反別貳拾四町九反九畝拾四步

內 譯

反別拾七町〇參畝貳拾步
 反別七町九反五畝貳拾四步

林齡五年乃至拾年
 杉扁柏植栽林
 赤松天然林
 薪炭肥料供給地
 (全 上)

(五) 大字岩山區有林
 臺帳反別拾町六反四畝八步

耕地間ニ点在セル小畝歩ノ林地ニシテ樹林ニ仕立ツル能ハス牧草肥料ノ供給地トナス

(全 上)

(六) 大字岩山區共有公有林
 臺帳反別壹町五反五畝拾八步

耕地ニ臨メル帶狀傾斜ノ林地ナルヲ以テ幾部ヲ赤松天然林トナシ薪材供給地トナシ麓部ヲ肥料採取地トナス

(七) 大字奥山田區公有林(事業計畫ノ爲メ實測中)
 臺帳反別貳百參拾六町〇七畝貳拾九步

內 譯

反別約四拾九町步

反別約百參拾七町餘步

反別約五拾町餘步

但シ壹ヶ年平均反別約貳町五反步施業ノ豫定ニシテ四十一年度ニ於テ五町五反七畝拾步(植樹補助

四十年以前杉扁柏單純或ハ
 混交造林々齡七年乃至十五年
 赤松雜木天然林
 薪炭肥料供給地

四十一年度ヨリ向フ二十ヶ年
 計畫杉扁柏造林造成ノ見込

金下付)造林ヲ實行シ四十三年度七町壹反參畝拾七步ノ造林見込ヲ以テ植樹補助ヲ申請セリ

(八) 大字禪定寺區公有林(事業計畫ノ爲メ實測中)
 臺帳反別百六十一町六反二畝二十步

內 譯

反別八町六反四畝十二步

反別約十五町步

反別約百十七町九反八畝八步

反別約二十町步

保安林 杉松雜木
 混交林
 四十一年以前杉扁柏
 既成造林
 赤松天然林及草生地
 薪材肥料供給地
 四十一年度ヨリ向フ十五ヶ年
 年計畫杉扁柏造林豫定

但シ一ヶ年平均約一町二反步四十二年度ニ一町五反步杉扁柏ノ混交林ヲ造成セリ

上來列記ノ如ク公共團體ニ於ケル森林經營ノ諸計畫ハ一年一年其歩ヲ進メ且ツ既成造林ノ成績ハ一般村民ヲシテ坐ニ將來ノ効果ヲ想像セシムルト逐年材價ノ昂騰ハ益々好望ヲ繋キ而シテ村内ノ地勢地味ニ對スル既往ノ觀念林業ニ向ツテ全然欠如セルカ如キ愚ヲ自然ニ曉得シ今ヤ各人各個ニ於テ競フテ掌大ノ餘地ヲモ愛惜利用スルニ至レルヲ以テ私有林ノ經營亦漸次ニ規模ノ大ヲ加ヘ其ノ成績ノ佳良ヲ見ル可キモノ尠カラス今之ヲ統計的ニ正確ニ算定舉示スル事能ハスト雖モ或ハ不毛ヲ拓キ或ハ林相ヲ更新スル面積遙ニ公有林ニ過シルノ盛況ヲ呈シ現ニ之ニ要スル樹苗公私有林ヲ通シテ年々約三十萬本ヲ下ラス而シテ逐年尙増加ノ傾向ヲ有シ且ツ其ノ苗木林地移植後ノ成績ハ風土ニ適應シ尤モ優良ノ結果ヲ顯ハセルヲ以テ大ニ樹苗圃開設ノ必要ヲ感シ四十一年度ニ於テ村經營ノ下ニ樹苗圃ヲ開設セリ今其ノ産出ニ係ルモノ及計畫豫定ノ一斑ヲ舉ルトキハ

(一) 四十一年度實況

(一) 杉扁柏苗木數十七萬八千四百本

收穫 高

內譯

四十二年春林地植付

杉一萬二千五百五十本

同上

檜九百本

四十二年床替移植

杉九萬四千九百本

同上

檜一萬七千三百本

四十二年各區有林苗圃へ分與移植

杉三萬六千六百本

同上

檜一萬六千六百五十本

同上

計

(二) 四十二年度實況

一 杉扁柏約三十五萬本

收穫概算高

內譯

一 播種地面積百九十六坪 種子三斗六升五合

此收苗概算 二十五萬本

二 床替地面積七百八十七坪

此苗木數十一萬二千二百本

(三) 四十三年度豫定

一 播種地面積百十坪 種子二斗二升

此收苗概算 二十五萬本

一 床替地面積 一千坪

此苗木數 三十一萬九千本

造林保護法ニ關スル本村規程左ノ如シ

共有森林保護方法 (明治三十六年度村會審問評定)

第一條 本村大字奥山田大字湯屋 地内下尻復舊ノ共有森林保護ノ爲メ當分ノ内看守八二名ヲ僱用スルモノトス

第二條 森林看守ノ任免ハ村長之ヲ行フ

第三條 森林看守一名ハ大字奥山田地内へ一名ハ湯屋谷地内共有林へ

第四條 看守人給料ハ一名金八圓一名ハ金五圓以內トス

第五條 前條ノ給料金ハ共有林經營金負擔方法ニ依テ各共有森林ノ收益金ヲ以テ支償スルモノトス

共有山林植林地掃除施行法 (明治三十七年度村會審問評定)

第一條 下ヶ尻及復舊及各區共有植林地ヲ此ノ際掃除下刈スルモノトス

第二條 植林地掃除下刈ハ請負入札ニ付シ實行セシム

第三條 植林地掃除下刈請負ハ本村土木請負規程ニ依テスルモノトス

第四條 植林地掃除下刈ニ關スル收支ハ特別會計トシ三十六年度不共有山林ノ副産物拂代ノ收益金ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 前條ノ行爲ハ村長ニ於テ總テ專行スルモノトス

第六條 植林地掃除下刈ハ各關係區山林委員ニ於テ時々實地臨檢監督スルモノトス

森林ノ看守ニ付テハ明治三十八年村會ニ諮問シ本村青年會員ノ事業トナスコト、評定シ實行セリ其評定文次ノ如シ
一 森林看守ハ本村青年會事業トシテ任命シ同會へ相當報酬ヲ贈與シ保護ニ任シ併シテ同會ノ基金ヲ貯蓄セシメ爾全ヲ計ルモノトス

京都府綾喜郡宇治田原村(各區及部落)公有山野殖林造成保護規程

第一條 本村規程ニ依リ本村及村內各區ノ公有山野殖林造成及保護ヲナスモノトス

第二條 村內各區有山林入會亂伐ノ慣習ヲ廢止シ全村一致ノ行動ヲ以テ基本財産造成ノ爲メ左ノ各項ニ依リ植林スルモノトス

一 本村公有林野整理規程ニ依リ本年度内ヲ期シ山林整理區劃ヲ設立シ其ノ所屬山林ヲ一團區トシ地域廣狹地味ニ順ヒ天然林及ヒ更新林地ヲ區分シ本年度ヨリ向フ二十ヶ年繼續事業トシテ杉、檜、混交林トナス

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

- 二 毎年度植付スル本敷及手入等ハ別ニ之ヲ定ム
- 但シ一ヶ年一戸百木ヲ下ル事ヲ得ス
- 三 樹苗植付除草手入其他ノ費用ハ其所屬ニ對シ各自ノ負擔及夫役トス
- 但シ本項ハ毎年度豫算ニ編入スルモノトス
- 第三條 公有林管理ハ村長之ヲ主管シ區長ニ分掌セシムル事ヲ得
- 第四條 山林整理及植付造成林業指辨ノ爲メ其所屬ニ若干ノ委員ヲ置ク
- 但シ別ニ定ムル規程ニ依ル
- 第五條 山林保護監視ノ爲メ看守人ヲ置ク
- 但シ別ニ定ムル所ノ規定ニヨル

附 則

第六條 本規程ハ明治四十年度ヨリ實行ス

右

明治六年ノ林山契約

立會山ニ付双方示談爲取換證

- 一 今股地券御渡願ニ付村々立會野山ノ内字黒山ノ儀ハ六ヶ村小前末々迄示談ノ上向後林山ニ任リ地券願差上候上ハ相互ニ有山林ノ内へ獵リニ立入り立木伐取ノ義堅ク不仕間敷候尤モ立木伐木ノ義ハ双方立會入札ヲ以テ賣拂ヒ代價金高半分ハ村々田畑反歩ニ懸シ割賦シ殘半金ハ村々戸數ヲ以テ割付聊カ甲乙無之様至當ノ割方ニ可仕候則チ林山約定ノ場所境界左ノ通り
- 一 字黒山 四方結 東西南北 四圍明記畧ス
- 一 前文同斷立會山ノ内字長尾小部高尾ノ儀ハ從前ノ通り相互ニ林苗場所ニテ地券願差上双方申分無之候此ノ境界左ノ通り
- 一 字奥山田四方結 東西南北 四圍明記畧ス
- 右ノ通り双方示談之上約定仕リ則チ元餘年中御裁判之節時ノ那代ヨリ檢分ノ上御認メニ相成候繪圖從前ヨリ村々所持仕候圖面一林山并ニ立會林場共墨引確證仕リ置キ候上ハ後世ニ至リ相互ニ聊申分無御座候依テ連印取換證致處如件 (各關係村戸長總代連署)

共有山林ニ關スル申合セ規約 (明治四十一年一月協定)

- 第一條 明治三十二年一月下戻ノ許可ヲ得現今公簿ニ存在セル山林ニシテ奥山田區ニ保有セル所有權ハ奥山田區單獨所有ナルト他區ト共有ナルトナ間ハス下戻當時ヨリ奥山田區ニ在籍シ常住セル一戸主及其ノ承繼者并ニ此申合セ規約ノ條項ニ基キ權利ヲ獲得セル者均等ニ共有權ヲ有シ之ニ伴フ義務ニ服ス
- 第二條 前條共有權ノ存在ヲ證明スル爲メ有權者及入會者名簿ヲ調製シ其ノ資格ノ異動ニ關スル要項ヲ登錄ス
- 第三條 前條ノ名簿ニ據リ毎年一月必ス現在有權者名簿ヲ新調シ其資格ヲ公表ス
- 第四條 共有權ハ各戸一個トシテ家督相繼ノ外隨意ニ賣買讓與及一個以上ヲ併有スルコトヲ得ス
- 但有權者子女ノ新分家者廢家再興者若クハ共有權者三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルキハ滿三年以上當區ニ常住セル外來ノ入籍者ニ對シ各個ノ權利ヲ移轉スルコトヲ得
- 第五條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ新ニ共有權者タル資格ヲ獲得ス
 - 一號 第四條但書ニ因ル權利ノ移付ヲ受ケタルモノ
 - 二號 共有權者ノ子女ニシテ分家ヲ新設シ或ハ廢家ヲ再興シ入會料トシテ一時金參拾圓ヲ提出シタル者
 - 三號 分家新設者或ハ廢家再興者ニシテ入會ヲ申込ミ滿十五ヶ年以上連續シテ他ノ有權者ト均等ノ義務ヲ履行シ權利ヨリ生スル一切ノ利益ヲ享受セザル其者本人若クハ其家督承繼者
- 第六條 入會料金ハ本人ノ希望ニ依リ其ノ身分ヲ斟酌シ有權者總會ノ評決ヲ以テ滿三年間納濟ヲ猶豫シ或ハ勞力賃金ヲ以テ換納スルコトヲ承諾スルコトアルヘシ
- 但シ本條ノ猶豫期間滿了ニ當テ完済セザル者ハ其ノ期間ニ於ケル特殊ノ行爲ハ全然無効ニ歸シ唯十五ヶ年義務履行年限ニ對シ三ヶ年ヲ免除スル外如何ナル理由ヲ付スルモ効果ヲ生セシムルヲ得ス
- 第七條 外來ノ入籍者ニシテ當區内ニ常住シ滿三年ヲ經タルキハ入會申込ヲナスコトヲ得此申込ニ對スル諸否ハ有權者總會ノ評決ヲ以テス
- 但シ本條ノ申込ヲ諾スルハ新分家者等ニ對スル取扱ヲ准用ス
- 第八條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ共有權者總會ノ評決ヲ以テ有權者及ヒ入會者名簿ヨリ除却ス
 - 一號 共有林ニ對シ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ處刑ヲ受ケタル者
 - 二號 何等ノ通告ヲナサズ全戸ヲ擧ケテ滿三年以上當區以外ノ地ニ轉住シ共有權者及ヒ入會者タル義務ヲ履行セザル者
 - 三號 常ニ共有權者均等ノ義務ヲ怠リ或ハ衆人ノ指彈ヲ受ケル者シキ不正ノ所業アル者但シ普通一回ハ親戚故舊ヲシテ戒告セシ

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

第九條 有權者及ヒ入會者ニシテ共有林ニ關シ顯著ナル功績ヲ舉ケ衆人ノ模範トナスニ足ル行爲アルモノハ總會ノ決議ヲ經テ適當ノ方法ヲ以テ其功績ヲ表彰シ或ハ其ノ義務履行ニ關スル範圍ヲ縮小シ若クハ特ニ之ヲ免除スルコトアルヘシ

第十條 將來當區内在籍者ニシテ新分家者ナルト廢家再興者ナルト歸來者ナルト外來者ナルトヲ問ハス共有權者タル資格ヲ獲得セント欲スル意志ナキモノハ其入會ヲ勸誘シ若クハ強要スルコトナシ

第十一條 有權者ハ毎年一月通常總會ヲ開キ役員ノ選舉會計監查本規約所定ノ要項等ヲ議定シ及有權者二分ノ一以上ノ同意ヲ得タル提出案件ヲ評定ス

第十二條 有權者中ヨリ左記之役員ヲ選舉シ當時共有權者ヲ代表シ共有林ニ關シ有益ナル百股ノ施設並ニ會計事務ヲ處理シ此ノ申合セ規約ヲ適當ニ應用シ圖簿ヲ整理シ總會ニ附議スヘキ案件及急應ヲ要ス可キ重大事項ニ就キ臨時總會ヲ召集スル權ヲ委任ス

山林委員長 一名 山林委員 五名

但シ委員長ノ職務ヲ當時ノ區長ニ委任ス

第十三條 山林委員ノ任期ハ四年トス

第十四條 役員ニハ職務日數ニ應ジ日額金四拾錢ヲ支給シ出張旅費等ハ實費辨償トス

第十五條 將來此ノ申合セ規約ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキ及此ノ申合セ規約ノ真目的ヲ左右スル提案ノ提出アリタルトキハ共有權者總員ノ三分ノ二以上出席スルニ非レハ議事ヲ開クコトヲ得ス又其ノ出席者相當ノ式ニ依リ全員一致贊同ノ意思ヲ表示スルニ非レハ改正若クハ提案採納ノ議決ヲ爲スコトヲ不得

右申合規約刻下區有林ノ狀態ヲ鑑ミ各自共有權ノ存在スル處明瞭ナク其ノ權利ノ行使及義務ノ履行ニ關シ違由スル所ナク隨テ各自シテ共有林愛護ノ念慮ヲ集中セシムル能ハサルヲ以テ茲ニ固有ノ共有權及權利ノ得喪ニ關スル細領ヲ確定シ以テ統一ノ秩序アル行動ヲ期待シ林地ニ對スル百股施設ハ此條規ニ基キ權宜靈活ニ措置ス可キ委員當置ノ制ヲ立タリ之ヲ要スルニ有權者ニ於テ各自及各自ノ子々孫々ニ均霑スヘキ福利ヲ增進スルハ一ニ此ノ有望ナル共有林ヲ愛護養成スルニ在ルヲ知了スルト共ニ各自ノ有スル共有權ノ甚ク輕ンズ可ラサルモノアルヲ確認シ自今愈々協力其改善發達ヲ希圖シ決シテ目前ノ小利ニ眩惑セス偏ニ遠大ノ成功ヲ期シ其專ラ經營ノ衝ニ當リシムヘキ常設委員擔任ノ如キハ審視精察私情ニ均泥セス親疎ニ偏倚セス克信賴ス可キ所ニ信賴シ而シテ各自至誠ヲ披ヒテ相互意思ヲ疏通シ徒ラニ區々タル條規ノ細節ヲ穿鑿セズ微タル枝葉ノ權限ヲ論難セス實實隣睦歩武ヲ整ヘ此規約ヲ嚴正ニ圓滑ニ確護シ運用シ漸次好慣ヲ作り永ク後世子孫ヲシテ依據スル所ヲ得且福祉ヲ無窮ニ享受セシメ以テ各自ノ初志ヲ貫

撤シ本約制定ノ美果ヲ收メサルヘカラス仍テ此申合規約ハ簡約ナリト雖モ各自ノ精神ヲ支配シ各自ノ眞目的ヲ達セシムヘキ絶大ノ意力ヲ有スル道義的盟約ナルヲ信認シ之ヲ尊重シ之ヲ擴充シ尙モ此規約ノ本旨ニ背馳スルノ虞アルモノハ絕對的ニ之ヲ排卻スル意ヲ表示スル爲メ各自氏名ノ下ニ押印シテ之ヲ永遠ニ保存ス

井手村戰時紀念林

一沿革

井手村字井手小字山吹山ハ同部落ノ公有林ニシテ段別百三十六町六反餘歩ヲ有ス明治三十七年時局ニ際シ同村老農中坊久四郎(當時同)ノ主唱ニテ該山林ノ丙三十町歩ヲ植林地ニ撰定シ戰時紀念林トシテ別紙植林規約ノ下ニ造林ノ計畫ヲ立テ杉苗壹萬本ヲ同村青年親友會ノ負擔トシ同貳萬參千本ヲ有志ノ寄付トシテ三十八年三月ヲ以テ反別五町五反歩ノ掛植ヲ了リタルカ青年親友會ノ負擔ニ成ルモノヲ義勇林ト稱シ有志ノ寄付ニ成ルモノヲ啓發林ト稱セリ全部ニ對スル植林成功ヲ俟ツテ之ヲ同村小學校基本財産トナスノ計畫ナリ

二現況

明治三十八年	杉三萬三千本	植込反別五町五反歩
同三十九年	杉三萬五千本	同 上六町歩
同四十年	杉二萬本	同 上三町歩
同四十一年	杉二萬本	同 上三町歩
同四十二年	杉一萬五千本	同 上三町歩
合 計	十二萬六千本	二十町五反歩

以上ノ如ク己ニ造林ヲ結了スルヲ得其成績ハ至テ佳良ナリトス

三 造林保護ノ方法 青年親友會ニ於テ擔任部分ヲ五ニ區別シ會長之ヲ指揮監督シ凡テノ作業及看守ヲ擔任スルコト、シ同村ハ看守費トシテ毎年金參拾圓ヲ村費ヨリ支出セリ

井手村戦時紀念殖林規約

- 第一條 本會々員ハ和衷協同ノ志情ヲ實現セシメ爲メニ紀念トシテ啓發林、義勇林ヲ井手部落共有山小字山吹山第六、七番地ニ設置シ毎年一町歩以上本會長ノ指定スル苗木一万余以上ヲ植樹スルモノトス此地區域ハ三十町歩トス
- 第二條 苗木ノ購入代價ハ各垣内青年親友會ノ負擔トシ各垣内ノ會員數ト戸數ヲ標準トシテ賦課ヲ定ム但シ會員數ハ一家二名アルモノハ一名トシテ算定ス戸數ハ一般戸數ナリ
- 第三條 苗木ノ植付地區ハ各垣内ニ區別ナシ其ノ責任ヲ明ニス但シ其區別ノ決定ハ垣内開抽籤ヲ以テス
- 第四條 各會頭ハ苗木ノ際會員ノ監督ヲナシ充分町際ニ植樹セシムヘシ毎年二回以上會員ヲ各自出林シテ除害補植枝打下草刈等ヲ實行セシムルモノトス
- 第五條 各受持區別サレタル場所ヘハ他垣内ノ會員ハ入り立テ入ルコトヲ嚴禁ス
- 第六條 植込後ノ成育ノ良否ハ各垣内會員ノ責務ニシテ盜伐亦擔任垣内ノ責任ナリ
- 第七條 本會員ハ充分深切ニ植樹スヘシ萬一不心得ノ爲メニ植付後ノ經過不具ニシテ苗木ノ枯死スルトキハ其品質ノ良否ト植込地ノ適否等其ノ原因ヲ調査シ其ノ不心得不注意ノ結果ヨリ來ルモノナルコトヲ發見スルトキハ翌年ニ至リ再ヒ補植ヲナサシムルモノトス
- 第八條 該林木ヲ盜伐又ハ損傷スル等ノ不具行爲アリタルトキハ何人ト雖モ罰トシテ五ヶ年間ハ一般共有山林ニ立テ入り薪山草ヲ刈取ルコトヲ禁スルモノトス
- 第九條 本會々員ニシテ前條ノ規則ニ反スルモノハ前條ノ處罰ニ服セシメ且ツ會員ノ名簿ヲ削除スル者ナリ
- 第十條 本會ハ特ニ、啓發林、義勇林、臺帳ヲ備ヘ置キ左ノ事項ヲ記載シ永久保管スルモノトス
 - 一、毎回植樹實施ノ年月日
 - 一、植栽ニ從事セシ會長會頭幹事並ニ會員ノ氏名
 - 一、苗木ノ種類及本數
 - 一、植付後手入ニ從事セシ人名及實況
 - 一、其他植樹ニ關スル事項ヲ記載スルモノトス

附 則

本事業實施當日ハ決シテ不平ノ言ヲ發スルナクヨク堅忍持久赤誠ヲ奮起シテ從事スヘシ

葛野郡川岡村大字岡細谷ノ部

位 置

乙訓郡大原野村大字外畑小字細谷一番地(別畑ノ最東北端)

面 積

臺帳反別二十三町三反三畝十五步實地反別(未測量)

境 界

東谷川ヲ隔テ、大原野村大字外畑私有雜木林ニ界ス
 南大原野村大字外畑私有天然赤松林ニ接續ス
 西脊ヲ限リテ南桑田郡篠村公有天然林ニ接ス
 北南桑田郡篠村公有天然林及杉植林ニ接續ス

形 狀 稱 呼

地勢南面シ其形狀東西ニ狭ク南北ニ長ク域内ニ四箇所ノ谷ヲ有ス

土 質

(一) 岩見谷 (二) 松ヶ尾 (三) 紺 谷 (四) 天 谷
 中腹以下ハ上部ヨリ來リタル礫土ニシテ中腹以上松ヶ尾谷以北ハ褐色ノ所壤土ニシテ松ヶ尾谷以南ハ岩石及礫土

樹木ノ種類

中腹以上ハ天然赤松林ニシテ下ニ雜草木繁茂ス中腹以下ハ雜木中ニ葛藤類叢生シ容易ニ立入ルコ

トチ得サントモ植林後杉檜林トナリタリ

沿革

第一期

本林ハ元大原野村大字外畑有ナリシモ區民ノ燃料ニ供スル薪材トシテ松下雜木ニ限リ伐採スルヲ約シ毎年末ニ玄米一石ヲ外畑ニ納メ(尙別ニ南桑田那條村大字王子村有山林ニ同シク玄米五斗ヲ納メ居リタリシモ王子林ハ明治三四年頃故アリテ解約シタリ)之レヲ區民十五年以上ノ男子ノ頭數ニ賦課徵集シ來リシヲ明治九年(地租改正前)土地及生育ノ樹木ヲ合セテ代金五拾圓ヲ以テ(松尾喜兵衛外百十餘名ヨリ醸金シ)松尾喜兵衛名義ノ元ニ買收シ降テ明治廿四年所有者名義ヲ岡區有ニ變更セリ

第二期

買收セシ以來何等保護監督ノ方法アラサリシニ依リ年々經ルニ從ヒ次第ニ濫伐ノ弊ヲ生シ特ニ明治二十年以後ニ於テ世ノ不景氣ヲ唱ヘ勞働者賃金ノ低落シタル時ニ際シ濫伐ノ度甚クシク之レヲ放任セハ全山或ハ荆棘或ハ楮ニ來ラントスルヲ憂ヒツ、アリシ後明治二十八年ニ至リ一部共有者間ニ於テ少數者ノ濫伐ニ放任センヨリハ寧ロ賣却シテ此レヲ積立テ以テ共有者一般ノ利益ヲ得ルニ如カストノ議起リ多數ノ贊同アリシヲ以テ有志者ニ於テ大ニ焦慮シ松尾與三郎、中原彦兵衛、林市兵衛、中山篤次郎、小石伊平次、糸谷鶴三郎、荒木貫助等會合ノ後其ノ利害得失ヲ調査スルコトニ決シ調査委員ヲ推撰シ委員中川德次郎、中山篤次郎、中路市右衛門、井上久右衛門、川浪重兵衛調査ニ着手シタリ然ルニ右調査中一部共有者ニ於テハ之レヲ不利ナリトシ其ノ進行ヲ妨害センカ爲メ暴擧ヲ企テントスルノ形蹟アリタルヲ以テ一時此レヲ中止シ徐ロニ濫伐ノ弊ヲ矯正スルノ方法ヲ講究スルコトヲ先ツ第一着ニ立木ヲ賣却シ此レヲ公賣ニセンカ爲メ競争入札ヲ爲サシメシモ豫定價格ニ達セサリシヲ以テ之ヲ取消シ爾來其ノ方法ノ講究ヲ怠ラサリシモ時未タ來ラス其後明治三十四年適々區

區民ノ智識ヲ交換セン爲メ談話會ナルモノ組織セラレ、ニ際會シ植林ノ件議題トナリ屢々談論ノ後決行スルコトニ議決シ買收當時ノ關係者有志ヲ實地ニ至リ之レヲ調査シ苗木栽植及買入ノ方法等或ハ經驗アル植林家或ハ技術者等ニ就キ研究シ終ニ植林ヲ着手スルノ機運ニ進ミタリ是レ實ニ明治三十五年ナリ

第三期

茲ニ於テ始メテ買收當時ノ關係者ノ事業トシテ植林ニ着手ス依テ年殊ニ區別シ左ニ之レヲ詳記ス

第一年度 明治三十六年

植栽場所 天谷

苗木 杉四千八百本 檜千六百二十本

費額金五拾四圓八拾參錢 保護下蒔秋一回未役及賃蒔

役員監督 大隅彌治兵衛 小泉嘉助

協議員 中原彦兵衛 小石伊平次 玉村謙吉 糸谷鶴三郎 松尾與三郎 小泉嘉助

委員 林 市松 豊田萬次郎 小泉嘉助 上田十太郎

第二年度 明治三十七年

植栽場所 天谷

苗木 杉檜八千四百五十本 栽植

費額 金九拾壹圓四拾五錢 保護前年ニ同シ

役員監督 小泉仁左衛門 小泉嘉助

協議員 小石伊平次 小泉嘉助 糸谷鶴三郎 松尾與三郎 小泉仁左衛門 大隅彌治兵衛

委員 林 市松 小泉嘉助 上田十太郎 豊岡萬次郎

第三年目 明治二十八年

場所 岩尾

苗木 杉一萬二千九百本 檜二千八百本 採植

費額 金百四拾六圓拾錢 保護前年ニ同シ

役員 前年ニ同シ

第四年目 明治二十九年

場所 松ヶ尾

苗木 杉檜三萬一千本 栽植

費額 參百九拾貳圓四拾五錢 保護前年ニ同シ

役員監督 大隅彌治兵衛 小泉嘉助

協議員 小石伊平次 松尾與三郎 小泉嘉助 糸谷鶴三郎 大隅彌治兵衛

委員 前年ニ同シ

此ノ年林産物松茸入札ヲ改正シ廣ク入札爲サシメタルニ妨害的故障アリタルモ終ニ此レヲ排除シ改正法ヲ實行シテ依テ森林取締上規定ヲ設クルノ必要ヲ感シ其ノ調査ヲ糸谷鶴三郎ニ囑托シタリ

第五年目 明治四十年

採植場所 松ヶ尾

苗木 杉檜二万七千三百五十本 栽植

費額 參百貳拾八圓拾五錢 保護前年ニ同シ

役員監督 中原政太郎 小石伊平次

協議員 前年ニ同シ

委員 林 市松 豊田万次郎 中川助次郎 齋藤信吉

此年組合規約速成ノ必要ヲ認メ曩キニ調査ノ上來リタル案ニ依リ之レヲ修正加除シテ茲ニ始メテ組合規約ヲ制定シ其ノ筋ニ此レヲ稟議スル等大ニ盡ス處アリタリ以後整然トシテ秩序アリ

第六年目 明治四十一年

場所 紺谷

苗木 杉檜一萬二千七百五十本 栽植

費額 金百九拾參圓六拾錢 保護前年ニ同シ

役員監督 糸谷鶴三郎 林 市松 上田十太郎 豊田万次郎

協議員 中原政太郎 林 市松 糸谷鶴三郎 大隅彌治兵衛 松尾與三郎 小泉嘉助

委員 中川助三郎 上田十太郎 荒木謙之助 小泉嘉助

此年一月元月付ヲ付テ公有山林整理施設計畫認可ノ件ヲ申請シ同年五月十八日ヲ以テ府知事ヨリ認可ノ指令アリタリ

第七年目 明治四十二年

場所 紺谷

苗木 杉檜一万四千二百本 栽植

費額 金百七拾圓四拾錢 保護同シ

役員監督 林 市松 小泉仁兵衛 服部吉太郎 豊田万次郎

協議員 前年ニ同シ

委員 中川助三郎 上田十太郎 荒木謙之助 林 市松

共有 山 林

大谷ノ部 全園區有

位置

乙訓郡大枝村大字長野新田小字大谷二番地六番地十番地

面積

臺帳反別

二番地 十一町九畝八步

六番地 二反五畝四步

十番地 一反五畝十六步

境界

東、大字長野新田襟植林ニ接續ス(元本區伊勢講持)

南、中腹以下谷ヲ限リテ長野新田私有襟植林ニ接シ中腹以下道ヲ隔テ大原野私有天然赤松林ニ接ス

西、絶頂ニ於テ沓掛公有天然赤松林ニ接續ス

北、中腹以上谷ヲ限リテ長野新田私有林ニ界シ中腹以下谷ニ跨リ尾ニ於テ道ヲ界トシテ長野新田私有林ニ接ス(總テ元本區有林)

形狀及稱呼

地形概テ北東ニ面シ東西ニ長ク南北ニ狭ク又谷ニ跨リ北ニ寄りタル地ハ南東ニ面シ城内ニ左ノ稱呼アリ

一、皿谷 二、古土砂場 三、蝮谷 四、扇原 五、新土砂場(大谷以北)

樹木ノ種類

中腹以下谷ニ沿ヒタル所ハ多ク襟植林ニシテ中腹以上ハ天然赤松林トス

本山林ハ元本區領主華頂宮家御所有ニシテ面積約二十町步ナリシヲ土砂崩潰ノ際(年代不詳)御下附相成爾來區有林トシテ維持シ來レリ然ルニ各所在地ハ長野新田ト稱シ元本區ヨリ移住シタル新開地ニシテ周圍乙訓郡ニ挾リタル飛地ナルニモ不拘本區ニ附屬シ來リシカ明治七年地租改正ニ際シ區畫改正ノ必要ヲ認メ本區ヨリ分離シテ大枝村字長野新田ニ編入シタルニヨリ該分離民ノ請ヒテ容レ本山林ノ約四分ノ一餘ヲ割キ之ヲ岡新田ニ分與シタリ而シテ明治十四五年ノ頃中腹以下谷通リテ雜草及荆棘等ヲ芟除シ磯苗木ヲ植付ケ襟植林トナス現今ノ襟木多ク後明治二十六年赤松林ノ一部(扇原及大谷以上)立木ヲ賣却シ其得タル代金ヲ區基金トシテ積立ヲナス現在基金ナルモノ之レナリ而シテ明治二十年隣地伊勢講有林賣却ノ際十番地山林ハ區有林中ニ有リテ境界煩累ノ虞アリタルヲ以テ此レヲ買得シ區有林ニ編入ス其他襟植林ヲ伐採スルコト數回其ノ收入ハ總テ區協議費ニ流用ス又明治四十一年二月天然赤松林ノ一部(古土砂場及皿谷ノ一部)立木ヲ賣却シ收得シタル代金ヲ以テ其ノ伐採地襟苗木一萬一千本此代參百拾八圓拾錢ヲ明治四十二年ニ植付ケ殘餘ノ代金五百五拾六圓九拾錢ハ區基金ニ繰込ミ保管シツツアリ

二 現況

岡區名義ヲ以テ經營セル乙訓郡大原野村大字外畑小字細谷(以下單ニ外畑山ト稱ス)ノ造林事業ハ明治二十六年看手以來目下如何ナル程度迄進捗セリヤト云フニ沿革ニ説示セル如ク山中腹以上ハ天然赤松林ニシテ雜木發生セリ赤松ハ四五十年ヲ經過シ松茸ヲ産ス其溪谷ハ即チ造林區域(杉檜植栽)ニシテ圖ノ如ク第一林班ヨリ第六林班ニ分チテ植栽ヲナセリ第一第二第三林班ニ連リテハ植栽後頗ル良好ニシテ杉檜共ニ高サ二丈徑二寸ニ達シ間々枯死セル箇所ヲ生セシモ大ニ繁茂シ茲ニ數年ヲ出スシテ間伐ヲセサル可カラサル域ニ達シタリ次ニ第四及第五林班ニ至リテハ最も峻嶮ナル溪谷ニシテ難局タル箇所ニ拘ハラズ非常ナル熱心ヲ以テ三十九年四十年ニ植栽ヲ終了シ植栽後日尙淺シト雖春秋

二回雜草ヲ除去シ枯死苗ハ補植ヲ怠ラザリシ結果今ヤ非常ナル發育ヲナセリ第六林班ニハ四十一年ヨリ四十二年ニ亘リテ植栽完了シ杉檜苗一万四千本ヲ植栽シ春秋ノ下刈ヲ終リタレハ漸次佳良ノ域ニ近ツキツ、アリ全部植栽ヲ完了スルニハ今後尙一ケ年ノ日子ヲ要ス元來此ノ溪谷ハ雜草叢生シ數十年間放任セシモノナレハ土地肥沃ニシテ殖林ニハ好適地ナリ要スルニ全林班ノ植樹ハ杉檜混交林ニシテ現今植栽總數十一万六千三百本此ノ價格千參百七拾七圓也此ノ間事業ノ進捗スルニ從ヒテ適切ニ其必要ヲ感シタルハ資金ナリ幸ヒニ理事者ノ運用宜シキヲ得テ今日ニ至レリ

次ニ區有林乙訓郡大枝村大字長野新田小字大谷山林(以下單ニ大谷ト稱ス)ハ半腹以上ハ天然赤松生育シ多少ノ松茸ヲ産セリ二十年生ヨリ四十年生相半ハシテ生立セリ山ノ北隅ニ一ノ溪流アリ其ノ溪流間ニ沿ヘル一帶ノ地ハ概ネ櫟ヲ植栽セシニ土質ニ適應シ能ク生育セリ此ノ植栽反別五町餘歩ニ涉レリ茲數年ヲ經由セハ伐採シテ收益ヲ見ルニ至ル又本年赤松伐採跡ニ櫟苗一万一千本ヲ植栽セリ多少枯死セルモ植栽後雜草ヲ芟除サレタレハ日ヲ逐フテ生育シツ、アリ今後數年ヲ經ハ大ニ可見櫟林トナルニ至ル尙連續セル小字谷口ニケ所ノ山林ハ同シク櫟林ニシテ數十年前ニ植栽セシモノナリ全林ノ伐採時期ニ至ラハ多大ノ利益ヲ收ムルニ至ル以上ハ區有林現況ノ大畧ヲ記シタルモノナリ

三 造林保護ノ方法

造林保護ノ方法ニ至テハ別畑山ハ明治五年買收資金醸出者ニシテ岡區現住者ヲ以テ組合員トシ拓植組合ヲ設ケ左ノ役員ヲ置キ造林ニ關スル事務ヲ處理セシム(大谷山造林ニ關シテモ便宜同役員ニ囑託ス)

- 一、組長 一名
- 二、副組長 一名
- 三、評議員 六名
- 四、監督委員 四名

組長ハ殖林ニ關スル一切ノ事務ヲ統轄シ副組長ハ組長ヲ補佐シテ組長事故アルトキ代理ス議員ハ山林ノ經營施設ニ關スル重要ノ事件ヲ評定シ監督委員ハ樹木ノ植栽雜草ノ芟除等ニ關シ實行監督ノ責ニ任

スルモノトス役員ハ總テ互撰トシ其ノ任期ハ三ケ年ト定ムト雖モ便宜上組長ハ區長ニ副組長ハ區長代理者ニ評議員ハ區會議員ニ囑託シ監督委員ハ評議員會ノ評定ニヨリ特ニ組合員中ヨリ指令囑託セシム前記保護機關ノ元ニ春秋二回組合員中ヨリ夫役ヲ徵集シ植栽後五ケ年間ハ年二回以上雜草ヲ芟除ス夫役ハ十五才以上ノ男女ニシテ指定ノ日時内ニ出役ヲササシム又夫役料ヲ出シテ出役ニ代フルコトヲ得夫役ハ監督者ノ命令ニ從ヒ作業ニ從事セシメ盜伐其ノ他ノ危害等ニ付テハ常ニ看守人ヲシテ監視シテ怠ラス

四 利用ノ方法及收穫

杉檜ハ植栽日尙淺キヲ以テ未ダ利用ノ域ニ達セス尙後數年ヲ經過セハ順次間伐ヲナスヲ以テ杭木ヲ製シ土木事業等ノ用ニ供スルヲ得松雜木其他ノ枯葉枝ニアリテハ目下一定ノ期限ヲ附シテ區域細民ノ自家燃料ニ伐採ヲ許シ農作肥料用トシテ雜草木ノ苜刈取リヲナスノミ現在收穫ニ至リテハ前年大谷山林天然赤松林ノ一部ヲ賣却シ(其收得金八百七拾五圓也)タルカ近時最モ著シキモノニシテ毎年赤松林中ニ發生スル松茸(此代金一ケ年凡百圓)ヲ賣却スルニ止マル餘ハ將來植栽樹木ヨリ收益ヲ得ルニアリ左ニ其ノ見積益ヲ計上シテ示ス

植栽總數拾五萬本也 此買入代金壹千八百圓也
但シ三年生杉檜苗一本ニ付各壹錢ツ、植込費貳厘計壹錢貳厘ツ、總數ノ二割ヲ枯死スルモノトシ殘リ十二萬本ヲ實際繁殖木トス

此收益見積

- 金壹千貳百圓也 但シ十ケ年目ノ間伐總數二萬四千本(二割)一本五錢ツ、
- 金貳千四百圓也 全十五年目ノ間伐本數二萬四千本(二割)一本拾錢ツ、
- 金七千貳百圓也 全二十年目ノ間伐總數二萬四千本(二割)一本參拾錢ツ、

金六千圓也 全二十五年目ノ間伐本數一萬二千本(一割)一本五拾錢ツ、
 金壹萬貳千圓也 全三十年目ノ間伐本數一萬二千本(一割)一本壹圓ツ、
 金參萬六千圓也 全四十年目ノ間伐本數一萬二千本(一割)一本參圓ツ、
 金六萬圓也 全五十年目ノ間伐本數一萬二千本(皆伐)一本五圓ツ、
 收入合計拾貳萬四千八百圓也
 金五千貳百八拾圓也

但シ五年間春秋二回宛六分區雜草刈取費及五年以後一回手入費
 一回人夫二百人、一萬三千二百人一人日當四拾錢ト見積リタル費額但シ人夫實益寄附ニテ日當支
 出セス

差引金拾壹萬七千貳百貳拾圓ノ收益トナル
 此ノ如ク五十年目ニハ巨額ノ收益ヲ得ルノ豫定ナリ

別畑山收益ニ關シテハ左ノ事項ニ支出スル外絶体ニ分配ヲ許サストス

- 一 府稅村稅區費戶數割ヲ支辨スルコト
 - 二 將來ノ殖林費ニ充ツルコト
 - 三 公共團體ノ慈善事業ニ支出スルコト
 - 四 其他役員會ニ於テ必要ト認ムル經費
- 天然赤松林ハ時々透カシ伐リナシ薪材トナスヲ以テ多少收益ヲ得礫林ハ十ヶ年毎ニ伐採ヲナセリ是等
 森林モ杉檜林ノ如ク多クノ星霜ヲ經ハ貳萬參千圓ノ利益ヲ得ルハ難事ニアラサル可シ斯クノ如ク今後
 五十年後ニ於テ造林ノ經營ニヨリ優ニ拾四萬圓餘ノ財産ヲ蓄積スルニ至ルナリ
- 船井郡富本村字青戶外四大字區有林

一而積貳百四拾七町貳反四畝壹步

一沿革

右山林ハ古來南桑田郡美濃田村杉村印地村船井郡青戸村西田村觀音寺村屋賀村ノ七ヶ村共有ナリシ
 カ明治十五年六月屋賀村ヲ分離シテ北屋賀村ヲ置キシヨリ新ニ同村ヲ加ヘ八ヶ村共有ナリ明治二十
 二年町村制施行ニ當リ南桑田郡ニ屬スル三村ハ旭村トナリ船井郡ニ屬スル五ヶ村ハ富本村ノ中トナ
 リ爾後區有トシテ兩村長ノ管理トナリシモ漸次亂伐ノ弊ヲ生シ整理充分ナラス町村ハ基本財産ノ造
 成愈必要トナリ明治二十八年兩村ニ分割ノ交渉ヲ始メ十數年間種々ノ難問發生セシモ委員ノ盡力分
 割問題ノ議熟シ明治卅七年十月五日前記ノ反別ヲ以テ富本村字青戸字西田字觀音寺字屋賀字北屋賀
 區中ノ所有トナレリ

二現況

該山ハ保安林ニ屬シ生スル樹木ノ多クハ松樹地味膏腴ニシテ成育佳良客年三月本府技師ノ指導計畫
 ニヨリ本春杉檜六萬有餘ヲ凡二十町步餘ニ殖林シ爾後引續キ實行セントス又石灰鑛及松蘆ヲ産スル
 所多シ

三保護

保護方法ハ左ノ規程ニ依リ嚴重ニ實行ス

殖林規程

- 第一條 區有財産造成ノ爲メ本規程ニ依リ殖林ヲナスモノトス
 - 第二條 殖林地ハ三俣山内不毛ノ場所ニシテ造林經營上有望ノ地所ヲ撰ヒ杉、檜、樺、等ヲ適當ノ地ニ栽植スルモノトス
 - 第三條 毎年度ニ於テ栽植スヘキ樹數ハ五萬本以上トシ前記地所ニ植付完了スルヲ以テ之レヲ止ム
 - 第四條 植林ニ關スル費用ハ本區費ヨリ支出ス
- 但シ毎年四月ニ一回一戸ニ一人ツ、夫役ヲ賦課シ下草蒔取ヲナスモノトス

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

第五條 本規程ニヨリ栽植スヘキ樹類其他必要ナル事項ハ毎年區會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第六條 事業監督ハ二名ノ委員ヲ常設シテ之レニ充ツ

保護規程

第一條 本規程ハ樹木ノ濫伐ヲ防キ造林事業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本規程ニ於テ作業ト稱スルハ三俣山林區域内ニ於テ荆棘及下柴草ヲ刈取ルヲ云フ

第三條 山開キ期日ハ毎年看護委員ニ於テ之ヲ定メ各字區長ニ通知シ區長ハ之ヲ其區内各戸ニ通知スルモノトス

但山開期間ハ常區内ニ住居スルモノ及ヒ其ノ雇人ハ入會シ作業ヲ爲ス事ヲ得

第四條 山開キ時間此以外ニ山林ニ立入り作業ヲ爲ス事ヲ許サス

第五條 山開キ期日ノ内外ニ拘ハラズ松樹及ヒ造林經營ノ爲メ栽植シタル樹木ハ大小ヲ論セス枝木ニ至ル迄ア一切之ヲ刈取ルヘカ

第六條 松葉採取ニ關シテハ別ニ定ムル規程ニ依リ斫入札ニ附スルモノトス

第七條 枯損木ハ村長ニ於テ入札方法ヲ定メ斫入札ニ附スルモノトス

第八條 溪間又ハ山林ノ石材ヲ拾得又ハ切取セントスルモノハ豫メ村長ニ申出許可ヲ受クヘシ

第九條 本規程第四條第五條第八條ニ違背シ又ハ擅ニ枯損木ヲ採取シタル者ハ假借ナク其筋ノ告訴ノ手續ヲナシ且左ノ制裁ヲ加フ

一 山林入會權ヲ六ヶ月間停止シ且三ヶ月間林産物公賣入札人タル事ヲ得サル者トス

但現行違背者ヲ認メ之レヲ管理者又ハ看護委員ニ報告セサル者又同シ

二 違背者ヲ認メ報告シタル者ハ見廻リ人夫料トシテ一回金壹圓ヲ給與スルモノトス

三 入會權停止中ノ者ニシテ之レヲ犯シタル時ハ停止期限チ一ヶ月間延長スルモノトス

第十條 山林内ニ於テ三月一日ヨリ九月二日ニ至ル迄一切焚火及喫煙ヲ嚴禁スル事

第十一條 鑛石堀取小屋若クハ小屋掛ノ必要アルトキハ周圍七間通リ柴草蒔取時々掃除ス可キ事

四 利用方法及收獲

石灰窯業者松葉採取者ヨリ納ムル所ノ金員ハ基本財産ニ蓄積ス植林ニ依リ將來得ル所ノ金員又同シ松葉ヲ刈取リ肥料ニ充テ

薪ヲ採リ飲食用燃料ニ供ス

北桑田郡知井村大字南外八ヶ字共有林

知井村字菅生奥ノ地タル若狹近江ニ界スル深山幽谷ニシテ臺帳反別一千九百九十六町八反歩(此ノ見積反別一萬一千町歩)ハ古來村社八幡神社ノ宮山ト稱シ九ヶ大字ノ共有山ニシテ此ノ内七百五十町歩(此ノ是積五千町歩)ハ地味膏腴樹林翁鬱中自生ノ杉檜最多ク大樹ハ近時已ニ伐採シタルモ稚樹小木ハ多數雜木ノ間ニ生育ス其ノ實數ハ面積ノ甚ク廣大ナルヲ以テ俄ニ調査シ難キモ日通リ二尺廻リ以下ノモノ數十百萬本ヲ以テ算スヘシ是等年來全ク遺棄セラレタリシモノ今ヤ之レヲ營林ノ方法ヲ決定シ着々經營シツ、アリ

明治四十年ヨリ同四十七年迄七ヶ年間ニ於テ施業林班地ヲ八區域ニ劃シ第一林班地乃至第五林班地ヘ杉檜天然ニ密生シ雜木其間ニ繁茂スルヲ以テ雜木ハ伐採シ大木ノモノハ夏季中ニ於テ樹皮ヲ剝取リ立木ノ儘枯死セシメ右年間ニ全部杉檜及松ノ混交林トシ第六林班地ハ天然生ノ杉檜ハアルモ重ニ雜木密生セルヲ以テ是又夏季ニ伐採シ杉檜ヲ適當ニ間植シ第七第八林班地ハ何レモ萱雜草等密生セル平坦ノ原野ナルヲ以テ杉檜數十萬本ヲ植栽スルノ計畫ナリ猶其他ノ保護并ニ將來間伐等ハ他ニ同シキヲ以テ略ス

宇治郡笠取村西笠取青年會三十七八年戰役紀念植林

沿革

我國曠古ノ大業タル三十七八年戰役ハ國民一般ニ寸時モ念頭ヲ去ル可カラサル處ニシテ此ノ大業ノ最良紀念トシテ講セラレタル事業多クアリト雖モ其顯著ナル植林ノコトナリトス

本村ノ地勢タル四周皆山林ニシテ其收入ノ多少ハ本村ノ盛衰ヲトスルニ足ル底ノ最重要ナルモノニシテ殖林ノ急務タル勿論ナリ而カモ其實甚幼稚ナリ

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

現今ノ林相ハ殆ソト全ク天然ニ放棄セルモノニシテ杉檜其ノ他雜生シ收利寡少ナリ
茲ニ西登取青年會ハ殖林ノ模範ヲ示スト共ニ技術ノ練磨ヲ期シ及ヒ之レニヨリ基本財産蓄積ノ獎勵
ヲナシ及ヒ勤儉貯蓄ノ實行ヲ期スルノ目的ヲ以テ西登取區有山林中荒廢最モ甚クシキ一部ヲ無償
ニテ借り受ケ明治三十八年ヨリ五ケ年ノ計畫ニテ殖林ヲ成シ戰役紀念トセリ

二 現況

明治四十二年三月殖林ヲ了リ殖林ノ年ヨリ下刈リヲ行ヒ目下成育良好管理ニ熱心セリ

三 造林及ヒ保護ノ方法

(イ) 造林面積 一ケ年凡ソ二町步宛五ケ年凡ソ十町步トス

(ロ) 樹種及ヒ數量 全部杉ノ單純林トナシ一ケ年凡ソ一町步ニ付六千本宛總テ六万本トス

(ハ) 植付 三角形植樹トシ四尺ノ距離ニ深サ一尺直徑一尺ノ穴ヲ掘リ植付ク

期節ハ三月中旬トシ苗圃ヨリ苗木屋ノ手ヲ經テ運搬後直チニ植付ニ着手ス

苗ハ山地着後直チニ根ヲ適當ニ剪去シ三年生ニテ長サ一尺五六寸トス

植付前雜草ノ刈拂ヲナシ穴ニハ鷹芥其他ヲ除キ樹ノ方向ヲ正シ植付ケ土ヲ適當ニ被ヒ少シク踏
ミ付ク

苗ノ選擇ヲ嚴ニシ枯損セルモノハ苗木屋ニ辨償セシメ補植ヲナス之ハ前ト同シキ方法ニヨル

(ニ) 下草刈拂 植付ノ時ノ外毎年晚春及ヒ中夏ノ二回全林ノ下草ノ刈リ倒シヲナス

(ホ) 植付及ヒ下草刈拂ノ勞力ハ總テ會員ノ夫役ヲ以テ之レニ充ツ

乙 訓郡向日町字上植野、乙訓村今里區有林

乙訓郡大原野村加茂脊山中部落共有ニ係ル入會山九十七町一畝十四步、百四十二町五反二畝五步ノ二
筆ニシテ專ラ部落住民ノ採薪ニ供シ自然放任ノ儘殆ソト荒廢ニ歸シタルヲ以テ時ノ郡長獎勵指導ノ下

ニ明治三十五年十一月關係各村部落協議ノ土地上權設定ニ關スル規約(別紙寫ノ通り)ヲ設ケ濫伐ノ弊
ヲ防止スルニ努メ明治三十六年初メテ各部落競フテ植樹ニ着手シタリ殊ニ當部落權内ニ屬スル部分ハ
地味ト地勢トニ於テモ植林ニ適セルヲ以テ其成績大ニ視ルヘキモノアリ隨テ明治三十七年五月組合保
護規約(別紙寫ノ通り)ヲ設ケ兩部落競爭的殖林ノ進行ト共ニ益保護ニ努メタルノ結果適順ナル成績ヲ
擧ケツ、アリ明治四十一年十一月地上權設定ノ部分ヲ各部落ニ分割ノ上明治四十二年ヲ以テ兩部落共
第一期計畫ヲ終了シ目下殘部ニ對スル第二期計畫ナリトス而シテ右分割ノ結果上植野、今里ノ所有ニ
歸セシ面積ハ次ノ如シ

一 十二町五反六畝二十步 上 植 野

一 十二町一反三畝十步 今 里

現況 現在植樹ヲ了シタル山林反別并ニ植栽數ハ次ノ如シ

向日町大字上植野區ノ分

一 反別 七 町 步 杉 八、四〇〇本
檜 三、四、九〇〇本

乙訓村大字今里區ノ分 杉 二、四、〇〇〇本
檜 二、九、三〇〇本

右ハ何レモ地味ニ適シ其成育非常ニ早ク初年植樹ノ如キ平均日通周圍尺餘ニ達ス

造林保護ノ方法

既植林地ニ對シテハ除草枝透シ等手入ヲ春秋二回執行シ又ハ補植ヲナス等常ニ當事者ノ實地踏査監
督ヲ怠ラス

加茂脊山地上權設定ニ關スル規約 (明治三十五年十一月協定)

一 今般殖林ノ目的ヲ以テ立會加茂脊山ヲ分割シ地上權設定ニ付關係部落協議ヲ遂ケ左ノ反別ヲ分有シ規約スルコト下條ノ如シ

第十一章 町村其他團體ノ林業施設

三〇二

- 一 乙訓郡大原野村大字小鹽小字加茂春第一番地
- 一 山林反別百四十二町五反二畝五歩
- 一 同郡同村大字同所小字同所一番地ノ一
- 一 山林反別九十五町一畝十四歩
- 一 丙反別百四十七町八反四畝九歩實測減
- 一 實測反別八十九町六反九畝十歩
- 一 丙反別三反九畝二十歩秀所除地
- 一 殘反別八十九町二反九畝二十歩

此 丙 譯

- 一 南北部合計反別九町四反二十歩字井ノ内區但別紙總圖面付
- 一 南北部合計反別十九町七反五畝二十歩字鷲冠井區但同斷
- 一 南北部合計反別四町六反三畝十歩字志水區組合但同斷
- 一 南北部合計反別五町五反二畝二十歩字東土川區但同斷
- 一 南北部合計反別十二町五反六畝二十歩字上植野區但同斷
- 一 南北部合計反別八町四反三畝十歩字森本區但同斷
- 一 南北部合計反別十二町一反三畝十歩字今里區但同斷
- 一 南北部合計反別四町九反五畝二十歩久我村
- 一 南北部合計反別十一町七反八畝十歩字小鹽區但同斷
- 一 第一條 疏林ノ目的ヲ達センカ爲メ各使用地ハ苗木植栽ヲ爲シ保護ノ方法ヲ設ケ習慣ノ立入濫伐ハ自今廢止スルモノトス
- 一 第二條 疏林ノ利用並ニ收益ハ各分使用部落ノ所得又ハ負擔トス
- 一 第三條 各部落ノ使用スル地上權ハ賣買讓與其他實權抵當ノ設定行爲ヲ許サ、ルモノトス
- 一 但直接公用ノ爲メ所有權ノ移轉ニ附隨スル處置ハ此限ニ非ラス
- 一 第四條 分割區域ハ互ニ相侵サ、ル様境杭ヲ建設シ以後建築ノ必要ヲ生シタル時ハ關係部落立會ヲ求ムルモノトス
- 一 第五條 本規約ハ關係部落協議ノ上ニ非ラサレハ改正並ニ加除スル事ヲ得ス

第六條 本規約ニ抵觸スルモノ、外從來慣行並ニ契約其他所有權ニ關スル事項ハ其儘適用スルモノトス

右條規堅ク可相守ハ勿論後日異議ナキ爲メ關係部落總代並ニ町村長並ニ署名捺印ス

但本議十通ヲ調製シ各部一通宛分有スルモノトス

明治三十五年十一月十日

組合山保護規約書

今般乙訓郡大原野村大字小鹽小字加茂春山組合各收益山林保護ノ爲メ關係各村區長協議ノ上約定スルコト左ノ如シ

- 一 何人タリトモ柴等採伐ノ目的ヲ以テ入山スル者ハ必ス其村區長ニ就キ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘキ事
- 一 前項鑑札ヲ所持スル者ト雖トモ當該收益區以外ノ地ニ立入ル事ヲ得ス
- 一 松檜杉等其成木ヲ目的トスル樹木ハ何等ノ場合ト雖トモ當該區長ノ承認ナクシテ採伐スル事ヲ得ス
- 一 無鑑札ニテ入山薪柴ヲ採採シ又ハ當該區域外ノ收益ニ立入り採採シ并ニ前項禁止樹木ヲ採採シタル者ハ相當補償金ヲ其被害ノ區ニ支拂ノ義務アルモノトス若シ其本人力補償ノ資力ナキカ又ハ之レニ應セサル時ハ本人居住ノ區長ハ賠償ノ責ヲ免ル事ヲ得ス

得ス

一 前掲山林保護ノ爲メ看守人ヲ置ク事

一 看守人給料ハ各反別ニ應シ分賦スル事

一 看守人ハ入山者ニ對シ鑑札ノ有無ヲ取調ヘ及組合全山林ノ保護ニ任スヘキ權利義務アル者トス

組合各村區長前各項異議ナキヲ證スル爲メ左ニ連署捺印スル者也

附記本議ハ會計當番ニ於テ保管スルモノトス

明治三十七年五月二十四日

各組合村區長 何

某 印

第十二章 個人經營

町村其他團體ノ林業經營スルモノ府下各町村ニ及ホシタル時勢ノ然ラシムル所ナリト雖モ個人經營ノ摸範ヲ示シタル又其一因ナリト云フヲ得可ク又町村其他團體ノ經營ハ個人經營ヲ啓發シタルモノト云

第十二章 個人經營

三〇三

ノ可シ然リ而シテ近來個人ノ經營ハ長足ノ進歩ヲナシ林地買買價格ノ如キ今ヨリ十年前即チ明治三十年頃ニ在リテハ一町步五六圓甚シキニ至リテハ無料ニテモ進フテ之レヲ貰受ケントスルモノモナカリキ然ルニ近來ニ在リテハ一町步參百圓ヲ超ユルモノアリ甚シキニ至リテハ價格ノ如何ニ係ハラズ賣却セントスルモノナキ地方アルニ至レリ之レ交通ノ發達ト材價ノ騰貴トニ依ルモノナルヘシト雖モ又林業ノ重要視セララル、ニ至リタル結果タラスンハアラス今次ニ個人ノ經營ニ係ルモノニシテ見ルヘキモノニ、三ヲ紹介スヘシ

葛野郡桂村

風間八左衛門

一 沿革

今ヲ距ルコト凡ソ八十年前即チ文政十二年寅三月宗祖父ノ代ニ當リ晩年嗣子ヲ儲ケ愛顧惜ク能ハス幼嗣子ノ爲ニ慮リ山林ヲ購入シ百年ノ大計ヲ畫シ且ツ誠テ曰ク「前略」最も山林といふ物は利足廻リ甚だ不算當ニ候得共相續者時ノ成行にては老幼に不限相果て候共後家幼年の悴等と相成候共諸世話欠引少き様〇戸棚にあれば何つとなく消費し安く往々後代心得違出申様にと相考候上廻りかね有之内にと存し買得仕置候間後代相續之者折々相見廻り大切に持傳へ可申候事」ト是即山林ヲ購入セシ因由ニシテ抑モ是又營林事業ニ着手セシ端緒ナリ爾來遺志ヲ繼承シ代々該事業ノ發展ヲ計リ殊ニ今ヨリ四十年前愚父ノ代ニ至リ世ノ進歩スルニ從ヒ商工業ノ發達ニ伴ヒ森林ノ產物モ亦其用途ヲ増加スルニ鑑ミ各地ノ山林山地ヲ購入シ苗種ヲ撰擇シ盛ニ殖林ニ努力シ成育ノ情態ヲ攻察シ山林保護ノ方法ヲ極メ今日ニ至ル

二 現況

現今所有ニ係ル山林及山林總面積九百二十餘町步アリ、西北ハ愛宕山ノ北部ヲ起点トシ南部乙訓郡

ニ至ル山城丹波ノ國境ニ沿ヒ連續又ハ散在シ詳細ノ實況ハ記述シ難ケレトモ地傾ハ一般ニ東南ニ面シ一部東北又ハ西方丹波ニ傾斜スルモノアリ

地質モ亦一般ニ高部ハ赤土ニシテ低地縹谷ハ黒土混リノ土砂ヨリ成ルモノ多シ

其他樹種及生育ノ情態ハ左表ノ各樹種立木反別總面積ニ對スル歩合等ヲ示シタルハ就テ現況ノ一斑ヲ察知シ得可シ

一、表中樹種ヲ四十年前後ニ畫一シタルハ今ヨリ四十年前ヨリ逐年新植ニ着手シタルモノナレハ其新舊ヲ知ルニ便センカ爲ナリ

二、三坪平均一本トセハ其立木反別ニヨリ本數ノ概約ヲ知得ス可シ

三、柵ノ列ニ「新」ノ字及數ニ「苦竹」「淡竹」記入セルハ柵ノ新植林及數ノ種類ヲ示シタルナリ

四、松ノ四十年以上トアルハ百年ニ至ルモノヲモ包含シ杉柵ノ四十年以下トアルハ本年ノ新植ヲモ含ム

所有山林立木現況略表

各樹種立木反別 總面積ニ對スル 立木歩合	總本數約	松		檜		杉		柵		柵		柵		柵	
		四十年以上	四十年以下	四十年以上	四十年以下	四十年以上	四十年以下	四十年以上	四十年以下	四十年以上	四十年以下	四十年以上	四十年以下	四十年以上	四十年以下
總面積	1000	473,885	207,792	3,000	67,510	27,500	65,516	5,692	5,992	5,992	5,992	5,992	5,992	5,992	5,992
立木歩合	92.0	47.3	20.8	0.3	6.8	2.8	6.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
立木本數ノ概數	92,000	47,389	20,779	3,000	67,510	27,500	65,516	5,692	5,992	5,992	5,992	5,992	5,992	5,992	5,992
數總反別	18,533	18,533	18,533	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
山林及山林總面積	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903	93,903

三 施業法

一、苗木 舊時ハ自圃ニテ播種シ紀州地方ノ如ク下種ヲ了リタルトキ、木葉ノ風化セル朽土ノ細碎シタルモノヲ散布スルコトノ代ニ河原砂ノサラシタルモノヲ二分ノ厚サニ散布シ除草ノ不注意ヨリ草ト共ニ幼苗ノ引拔カレ枯死スルコトナキニ用意シ又發芽ノ前ハのさノ枝葉ヲ以テ蔽フ代ニ古莖又ハ藁ヲ以テシ取扱ノ便ヲ計リ其他一般ノ方法ニテ苗木仕立ヲナシタルトモ播種初年ハ其手數甚タ多キニ比シ結果有利ナラサルカ故近年繪雜木ハ二年生ヲ近州草津ノ近郊ヨリ購入シ一年間畑ニ植置キ其翌年即チ三年生ニナルニ及ヒ植付ニ着手ス丹波ノ方面ニ向ヘル山林ニハ丹波ヨリ購入シ其他杉ハ大和、高野、吉野、但馬、妙見杉等アルモ總シテ丹波杉即チ山國苗ト稱スルモノハ植付當初ニハ發育遲々タル如クナレトモ枝幹肥大シ「雪起シ」ノ煩ナク十年モ經過セハ遽ニ成育シ同時ニ植付ケタル他國產ヲ優ニ凌駕シ恰モ四五年ノ懸隔アルカ如キ思アラシム、且ツ他國產ノ如ク早晚結實セス過キハ七八十年ヲ要スルアリ

二、植付ノ方法 植付ハ正方形植樹ニシテ一反通例三百乃至五百本一日一人百乃至百五十本ニシテ先ツ穴掘人夫ハ其地勢ニヨリ適宜ノ間隔ヲ保チ植付地点ノ落葉雜草ヲ除キ上土ヨリ順次ニ掘起シ土ノ上下ヲ混淆セサルコトニ注意シ深サ一尺經約尺五寸位ニ達シテ止ム、頓テ植付人夫ハ其跡ヲ追ヒ苗木ヲ其穴ニ納メ掘起シタル土ヲ順次ニ其地層通リニ入レ終リ而シテ苗ノ幹ヲ掘ミ少シク引キ搖リ、毛根間ニ沃土ヲ填充セシメ然後根元ヲ踏ミ付ケ除キ置キタル雜草鮮苔ハ地況ニ依テ根元ヲ卷キ乾燥ヲ防キ或ハ傾斜面下方ニ堆積シテ雨水ノ流下ヲ防ク料トス又砂利原ノ地ニ植付クルニハ穴ヲ大ク掘リ他ノ沃土ヲ五貫位之ニ入レ苗木ヲ納メ更ニ同量ノ沃土ヲ持來リ之ニ加ヘ、能ク根元ヲ踏ミ付ケ乾燥ヲ防ク方法ヲナシ植付クルトキハ却テ他ノ普通ノ壤土ニ植付クルヨリ成育好良ナルコトアリ

三、下刈、蔓切り 杉樹ハ植付以來五ケ年間、桐檜栗ハ三ケ年間其土地ノ雜草繁茂ノ情況ニヨリ毎年一回又ハ二回施行ス

四、枝打ち 杉樹ハ二年目又ハ五年目毎ニ一回宛三十年間枝打ちヲナシ樹ハ枝打ちノ際荒皮ヲ剝脱スコレ幹ノ肥大ヲ促進セシムレハナリ

五、間伐 植付以來三十年間ハ發育狀況ニヨリ三年目又ハ五年目毎ニ施行ス但シ寒地ノ向キハ間伐スス上部マテ枝打ちヲナシ、床柱ニ寶却シ得ルニ至リ間伐スルヲ得策トス

六、禿縛リ 岩石崩壞ノ地ニハ毎年二三萬本ツ、禿縛リヲ植込ミ地域利用ヲ計ル

七、伐採 ノ期限ハ柵柵等ノ如キモノハ八年又ハ九年毎ニ伐採スルモ其他ハ需用或ハ必用ニ應ジ土地ノ便否ト生育ノ情態ニヨリ伐採スルモノナレハ其期限ハ明記シ難ケレモ杉ハ三十年ヨリ伐採シ得ル程發育好良ナリ

四 山林保護ノ方法

山林保護ノ方法トシテ詳説シ難ケレモ今多年ノ經驗ヨリ其大略ヲ叙スレハ

一、雜草及雜木 繁殖シ林木ノ根ノ發育ヲ妨ケ地中ノ養分ヲ奪ヒ光、熱、露、雨ヲ遮リ主林木ノ成長ヲ害シ稚樹ヲ壓倒シ霜害ヲ増シ野火ノ媒介トナリ、野鼠又ハ昆虫ノ隱所トナリ、藤葛類ノ如キハ樹木ヲ緊束シテ幹ノ生育ヲ妨ケ荆棘類ハ林地ノ地拵ヲ困難ナラシムルカ故傾斜ノ急ナル地又ハ砂地等土砂ヲ結合セシメ濕氣ヲ與フルヲ要スル個所ノ外夏土用中又ハ初秋ニ雜木雜草ノ生長旺盛ナル年一回又ハ二回下刈蔓切り施ス

一、氣象上ヨリ來ル 霜雪風雨ノ害ハ其土地ノ情況ニヨリ濕地ニハ排水ノ施設ヲナシ枝打ちナシ乾燥ノ地ニハ森林ノ鬱成ヲ計リ針瀾混浴林ヲ造リ或ハ其害甚タシキハ間伐ヲナシ幼樹ノ雪害ニ對シテハ「雪越シ」ヲナシ支柱等ノ保護ヲ與フ

一、鹿、野猪、兔、栗鼠土龍及其他鳥類ノ新植地又ハ幼林中ヲ荒スルハ時々狩獵ヲ行ヒ又ハ空砲ヲ發

シ、特ニ兎ニ對シテハ其通路ニ石油ヲ散布シ其害甚クシキハ手數ナレトモ柔軟ナル草ヲ幼樹根元ニ卷キ付ケ之ヲ防シ其他砂石崩壞ノ地ニハ禿縛ヲ植込ニ此等ノ損失ヲ補ヒ伐採ノ季節ノ好惡、運材ノ時季運搬ノ方法等ヲ按ヒ幼樹他木ヲ害セサル事ニ努メ林内ノ落葉ハ己ムヲ得サル場合ノ外採取セシメス森林境界線ノ侵奪盜伐火災等ノ豫防ハ各地方ニ擔當ノ山番ヲ常置シ各擔當區域ノ萬端ヲ差配セシメ且ツ更ニ專任ノ監督者ヲ置キ斷ヘス各區域ヲ巡視セシメ山林保護ト手入ニ遺算ナカラシム

五 利用ノ方法及收穫

當家ノ山林ハ大抵山賣ト稱シ在來ノ經驗的測定法(即チ杉檜ハ二間ノ高サニ於テ經一尺アルモノヲ百才ト稱シ一才ハ生木ニテ一貫目枯木ニテ五百四五十目尙更ニ一問ヨリ高ク進ムニ從ヒ經一寸ヲ減ス追而如此シテ測定ス)ニヨリ大概ノ見積リヲナシ山林地ニ於テ根切シタル儘賣却スルカ故利用ノ方法トシテ記載ス可キモノナシ但シ此地方ニ於テハ板材ニ挽クヨリ角材トナス方有利ナルカ如シ
用材以外ノ松、桐、栗等ハ束數ニヨリ見積リ(即チ一束生五貫ハ枯四貫目)多ク薪料トシテ賣却ス
杉檜ノ植込後六七年目ニ間伐シタルモノハ木材トシテ用ナサス近地ハ薪トナスモ遠地ハ放棄ス、十三年目ニ間伐シタルモノハ丈丸太ト稱シ「タルキ」杭木等ニ用ユ二十年ヨリ二十五年目ニ間伐シタルモノハ用材トシテ丸太材又ハ角材小電柱等トス
モノハ用材トシテ丸太材又ハ角材小電柱等トス
下草下柴 ハ民家ニ近キ箇所ハ一町歩刈取掃除年貳拾錢内外ニテ請負賣却ス遠隔ノ山地ハ無料ニテ採取セシムルアリ多ク燃料又ハ馬糞肥料トナス
收穫 松尾嶮嶺ノ山林ハ松茸多ク發生スルカ故コレヨリ得ル年貳千圓内外ノ收入ノ外間伐燃料等ニヨリ多少ノ收穫ヲ得レトモ目下ノ所ニテハ四十年來植込一方ノ費用ニ比シ收穫トシテ算ス可キモノナシ
因ニ賣却價格ノ一例ヲ舉ケレハ
六七年目ノ間伐ハ 無料(掃除運搬費ト相殺ス)

- 十二三年目ノ間伐ハ 一本八錢ヨリ拾錢位
 - 二十年ヨリ二十五年目ノモノハ 同 參拾錢ヨリ壹圓位
 - 三十四年目ノ伐採ハ 同 壹圓以上六圓位迄
- 但シ土地ノ遠近ニヨリ運搬費ノ高下及市價ノ高低ヲ斟酌スルカ故其價格時々一定ナラス
- 葛野郡小野鄉村
日下部大助

一沿革

祖先以來大助ノ名ヲ繼承スルコト茲ニ十代而シテ今ヲ去ル百五十年前則チ寶曆十年三代大助ノ時初メテ植林ヲ經營シ爾來世々子孫相襲キ以テ今日ニ及ヒタリ
就中五代大助六代大助ノ世ニ至リ丹波地方ヨリ杉檜ノ苗木ヲ移植シタリ予ニ至リ尾張及ヒ大和地方ノ苗木ヲ移植シタルモ其成績良好ナラサルヲ以テ又タ丹波地方ヨリ苗木ヲ移植シ及ヒ自作ノ苗木ヲ以テ植林ノ經營ニ努メリ
明治十五年大日本山林共進會ニ於テ農商務卿正四位勳一等西鄉從道閣下ヨリ五等賞銀牌一個金參圓ヲ受シ
明治二十六年第五回内國勸業博覽會ニ於テ總裁大勳位功四級載仁親王殿下ヨリ一等賞牌ヲ賜ハリ同時ニ宮内省御用ヲ拜ス

一現況

當地方山林ノ地味ハ京都府下ニ於ケル中等ノ上位ニ在リテ山ノ中腹以下ノ地ハ杉檜ニ適當シ中腹ハ柞櫟其他一般ノ雜木ニ適シ頂上ハ松ノ天然生繁茂セリ而シテ現下ノ狀況ニ於テ杉檜ニ至リテハ移植後七八年以上二十年ニ及ヒタルモノ則チ間伐期ニ達シタルモノ約百萬本三十年以上百五十年ニ及ヒ

タルモノ則チ伐採期ニ達シタルモノ約數萬本生育セリ而シテ其廣袤約六百餘町歩ニ渉ル又チ柞櫟其
他一般雜木ハ約二百餘町歩ノ間ニ生育セリ

一造林保護ノ方法(地方特有產物タル北山嶺杉作業ニ付テハ露キニ著ス所ノ冊子ニ詳述セルヲ以テ茲ニ之ヲ省ス)

前項ニ述ヘタル如ク杉櫟ノ培養ニ適スヘキ地所ハ概シテ三分ノ一ニ過キス(山ノ中腹以下、中腹、中腹以上頂上迄ヲ三分ス)今茲

ニ一町歩ニ對スル實例ヲ示スヘシ

苗木移植ノコト

肥沃ノ地ニ在リテハ杉九分櫟一分中等ノ地ニハ杉四分櫟三分ノ割合ヲ以テ混成移植ス而シテ櫟ハ概シテ山ノ上部ニ移植スルモ總テ混成法ノ成績良好ヲ認ム

床刈(地拵)ノコト

一町歩ニ對シ移植ノ苗木ハ四千本スト之ニ對シ先ツ床刈ヲ爲ス

下刈ノコト

苗木移植後六年生ニ至ル迄毎年一回ツ、下刈ヲ爲ス六年以上十三年迄ハ隔年毎ニ一回下刈ヲ爲シ其後ハ四年毎ニ一回ツ、下刈ヲ爲ス

枝打ノコト

苗木移植後七八年目ニ及ヒ初メテ枝打ヲ爲ス其後ハ四年毎ニ枝打ヲ爲スモノトス此枝打ハ三月ヨリ五月中八月ヨリ十一月中ノ間ニ於テ之ヲ爲スモノトス而シテ初枝打ヲ爲ス時ニ當リテ將來間伐スヘキ立木ハ他ノ立木ニ比シ高ク枝打ヲ爲ス此枝打ヲ爲スニハ銳利ナル薄鎌ヲ以テ之ヲ爲ス此所
以ハ其枝痕ノ卷込ノ速カニシテ無節ノ良材トナル如此ニシテ間伐シタルモノハ地方特產ノ北山丸太ト同價格ヲ有シ市場ニ販賣シ得ヘキナリ

間伐ノコト

間伐ハ二十年生ニ至リ全立木ノ約一割ヲ伐採ス其後ハ隔年毎ニ立木ノ鬱閉シタルモノヲ伐採ス而シテ此伐採ハ全部ノ約五六分ヲ常トス

杉櫟林ト雜木林ノ境界

杉櫟林ト雜木林トチ接續セシムル時ハ移植苗木ノ成長セサル間ニ雜木ノ枝葉繁茂シ之レチ蔽ヒ其發育ヲ妨クルヲ以テ杉櫟林ト雜木林ノ間約三間ヲ隔離スルノ必要アリ而シテ此境界ノ中央ニ巾三尺ノ道路ヲ設ク是レ林業ニ便ナルト上部ニ於ケル苗木ノ發育ヲ善長ナラシムル爲ナリ尤モ山地ノ頂上ニ至ル迄全部地味肥沃ナル所ニ在リテハ全部苗木ヲ移植スルヲ以テ道路ヲ設クルノ要ナシ苗木ノ植付方ハ總テ碁目形ニ之ヲ植ニ是レ地所ノ乾燥セサル爲メトス

松林

松ハ苗木移植ト天然生ノ二種アリテ多クハ天然生ヲ養成ス芽生ノ時ヨリ三年目ニ至リ一回中刈ヲ爲ス其後四年毎ニ一回之ヲ爲ス六七年ニ及ヒテ初メテ間伐ヲ爲シ同時ニ下刈ヲ爲ス其後六七年毎ニ前同様間伐及ヒ下刈ヲ爲ス三十五年ニ及ヒ初メテ松茸ノ發生ヲ見ル其最モ旺盛ナルハ五十年生ノ交トス而シテ七十年ニ及ヒテ製材ト爲スヲ得此時ヲ松ノ伐採期トス

雜木林

地味ノ肥沃ナル部分ニ限リ柞櫟ノ苗木移植ス一町歩ニ對シ約二千本ヲ植ニ移植ノ當初先ツ床拵ヲ爲ス移植後四五年迄ハ毎年一回下刈ヲ爲ス七八年後ニ至リ株目立ヲ良好ナラシムル爲メ一旦全部ノ伐採ヲ爲ス其後二年目ニ下刈ヲ爲シ八年目ニ至リ又チ下刈ヲ爲ス十二三年ニ及ヒ伐採期ト爲ル

風雪ノ害

大雪又ハ暴風ノ爲メ苗木ノ撓ムコトアリ此時ハ遅クトモ一ヶ月以内ニ藁繩ヲ以テ之レヲ引起ス野獸ノ害

苗木移植ノ際野獸ノ新芽ヲ食スルコト往々之レアリ之レカ防禦方法トシテハ野獸ヲ捕獲シ又ハ空砲ヲ放チ犬ヲ放チ係蹄ヲ設ケ或ハ梢芽ニ藁ヲ卷付ケ又ハ石油ヲ洋紙ニ浸シ又ハ人髮ヲ枝ニ掛ケ置ク等ノヲアルモ到底多數ノ苗木ニ施スヲ得サルナリ

一 利用及ヒ收穫計算

予カ地方ニ於ケル木材ノ利用ハ建築材電柱土木用材燃料等一般普通製材ト爲スニ在リ

收穫計算

造林ノ爲メ支出スヘキ金額(但シ一町歩)一町歩ニ附キ移植スヘキ苗木ハ四千本トス此苗代約壹百圓則チ一本ニ附キ貳錢五厘トス

植手間賃貳拾四圓則チ一本ニ附キ約六厘トス

床蒨(燒拂共)貳拾四圓則チ一本ニ附キ約六厘トス

苗木移植後六年迄毎年一回下蒨ヲ爲ス此下蒨賃拾貳圓則チ一本ニ附キ約參厘トス

六年以上十三年迄隔年毎一回宛其後ハ四年毎一回宛下蒨ヲ爲ス此下蒨賃ハ前回ノ賃金ト大差ナシ

枝打費ニ附テハ初枝打(植付後八年)費拾五圓貳拾錢則チ一本ニ付キ約四厘トス(四千本植タルモ二百本ハ消滅スルヲ以テ三千八百本殘立ス)二回(十二年)目枝打貳拾貳圓八拾錢則チ一本ニ附キ約六厘トス三回(十六年)目枝打參拾圓四拾錢則チ一本ニ付約八厘トス四回(二十年)目枝打參拾貳圓(間伐ノ爲メ本數ヲ減ス)則チ一本ニ附キ約壹錢トス

風雪被害ノ防禦費ニ附テハ先ツ風雪ノ爲メ害ヲ受クルモノ全立木ノ約一分五厘ニ當ル而シテ苗木移植後十二三年ニ至ル間ハ毎年此害ヲ被ムルヲ免レス依リテ被害年度十二年ト定メ防禦費ヲ計上スレハ一町歩ノ苗木四千本ニ對スル被害立木一割五分ハ六百本ト爲ル一本ニ附キ此ノ費用平均五厘トシ之ヲ十二年ニ積算スレハ參拾六圓トス

收穫

杉二十年目ニ於テ約一割ノ間伐ヲ爲ス此賣拂價格一本(長十五尺乃至十八尺末口)參拾五錢乃至五拾錢平均四拾錢トス之ヲ一町歩三千八百本ノ約一割四百本ニ計上スレハ百六拾圓ト爲ル

- 二十二年目 金八拾五圓 全立木三千四百本ノ五分則チ間伐百七十本一本代價五拾錢
- 二十四年目 金九拾六圓 全立木約三千二百本ノ五分則チ間伐百六十本一本代價六拾錢
- 二十六年目 金壹百五圓 全立木約三千本ノ五分則チ間伐百五十本一本代價七拾錢
- 二十八年度目 金壹百拾貳圓 全立木二千八百五十本ノ五分則チ間伐百四十本一本代價八拾錢
- 三十年目 金壹百參拾五圓 全立木二千七百本ノ五分則チ間伐百三十五本一本代價壹圓
- 三十一年ニ及ヘハ全立木伐採期ニ達シタルモノトス而シテ前掲ノ計算ナルヲ以テ此伐採期ニ達シタル立木ハ約二千五百五十本トナルヘシ此平均目通り回リ約二尺三寸此才數約八十才一才ノ價參錢則チ一本ノ代價貳圓四拾錢トス

若シ五十年ニ達スレハ目通回リ約四尺五寸一本ニ對スル才數二百五十才一本ノ價約拾六圓トス三十年生ヨリ五十年生ニ達スル間ニ於テハ數回ノ間伐ヲ爲サ、ル可ラサルヲ以テ五十年生立木ハ茲ニ到リテ約一千五百本ノ存立ヲ見ル可シ此期間ニ於ケル間伐收入金額及ヒ價格ハ三十年前ニ於

ケル各價格ト同シ

檜

檜ノ間伐ハ杉ノ初期間伐ヨリ遅クル、コト六七七年ニシテ初メテ之ヲ爲ス
檜ノ價格ハ之ヲ杉ニ比シ約半額ト見做シテ大差ナキヲ以テ計算方ハ之ヲ略ス然レトモ三十五年ニ
達スレハ其價格ノ杉ニ優ルコト約三割而シテ五十年ニ達セハ五割ト爲リ七十年ニ至レハ七割ヲ増
ス

松

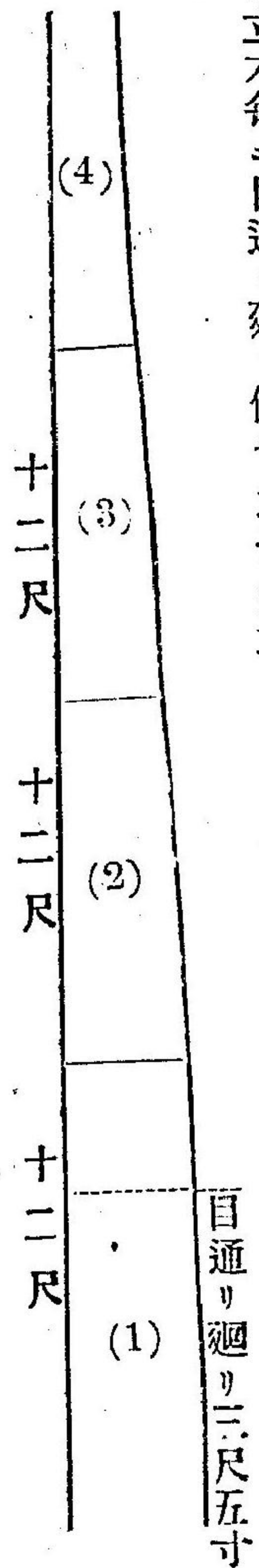
五十年目ニ間伐シタルモノハ一本ノ價約四拾錢トス七十年ニ及ヒテ伐採期ニ達シタルモノトス此
伐採期ニ達シタル松ハ一本百五十才ト見積リ其價壹圓五拾錢トス

雜木 但柞櫛混成

八年目全部伐採ノ時期ニ於テ一町歩二千株トシ此東數一千東此代價四拾五圓トス
八年目皆伐ヨリ更ニ二十三ヶ年ニシテ伐採期ニ達ス此伐採期ニ於テハ三千東トナル一東目方生目五
貫目金五錢合計壹百五拾圓ト爲ル

一測樹法

予カ地方ニ於ケル測樹法ヲ述フヘシ
先ツ立木毎ニ目通り廻リ假令ハ三尺五寸ノモノトス



右目通り廻リ三尺五寸ニ二八ヲ乘スレハ九寸八分ト爲ル是レ則チ(1)ニ於ケル直徑ナリ此徑九寸八
分ニ九寸八分ヲ乘スレハ則チ九十六才得是レ(1)ニ於ケル總才數ナリ

(2)ハ(1)ノ直徑ヨリ一寸ヲ減シ八寸八分ト爲ル是レ則チ(2)ニ於ケル直徑ナリ此徑八寸八分ニ八寸八
分ヲ乘スレハ則チ七十七才得是レ(2)ニ於ケル總才數ナリ

(3)ハ(2)ノ直徑ヨリ一寸三分ヲ減シ七寸五分ト爲ル是レ則チ(3)ニ於ケル直徑ナリ此徑七寸五分ニ七
寸五分ヲ乘スレハ則チ五十六才得是レ(3)ニ於ケル總才數ナリ

(4)ハ(3)ノ直徑ヨリ一寸七分ヲ減シ五寸八分ト爲ル是レ則チ(4)ニ於ケル直徑ナリ此徑五寸八分ニ五
寸八分ヲ乘スレハ即チ三十三才得是レ(4)ニ於ケル總才數ナリ

右(1)ヨリ(4)ニ至ル才數合計二百六十二才ト爲ル是レ則チ一本ノ才數ナリ此算法ヲ以テ幾千本アル
モ通算シ得ヘキナリ

以上ハ地方ニ於ケル山林現場ノ價格トス而シテ居村ヨリ京都市ニ達スル約五里半車及ヒ流筏ノ便ア
リ前掲造林保護ニ要スル費用及ヒ收穫等ハ山林ノ遠近及ヒ道路運搬ノ便利ナルト否トニ依リ素ヨリ
一定セサルモ予カ地方ニ於ケル中庸價格ヲ認メテ概算シタルモノトス
木材運搬ノ方法及ヒ器具ハ大和國吉野郡川上地方ト同一ノ式ニ依レリ
船井郡園部町

高見種吉

沿革

去今二十餘年前郡内山林ハ到ル處濫伐ニ濫伐ヲ累ネ本郡主産物タル木材ハ前途欠乏ヲ告ケントスルノ
狀況ナルニ拘ラス進ノチ森林ヲ増殖セントスルモノナキヲ慨シ各生産地ヲ視察シ大ニ感スル所アリ、
茲ニ於テ先ツ本郡ヲ第一着手トシ次テ北桑田、何鹿及若狹國遠敷郡ニ於ケル山林ヲ購入シ造林ノ計畫

第十二章 個人經營

ヲ立テ着々進行シ以テ今日ニ及ヘリ而シテ尙現今ニ於テモ山林ヲ賣却セントスルモノアラハ進ノテ購入シ其面積増加ニ努メツ、アリ

現況

現今所有スル山林面積ハ臺帳面ノ示ス所ニ依レハ二千三百餘町歩ニシテ未ダ正確ナル測量ヲ了セサルヲ以テ實際ノ面積ヲ知ル能ハスト知モ踏査目測ニシテ誤リナシトセハ其面積ハ實ニ貳萬九千九百餘町歩ニ達スヘキ見込ナリトス、
而シテ林地購入ノ際比較的面積大ナル圃地ヲ擇定シタリシヲ以テ勢ヒ深山幽谷ノモノ多ク其當時ニ在リテハ交通又不便ナリキ然レモ時勢ノ進ムニ從ヒ近時交通機關ノ發達セルヲ以テ產物及造林其他ニ要スル資料ノ運搬等全ク其設備方法等ヲ異ニシ大ニ便益ヲ得ルニ至レリ
地質ハ一定セスト雖モ概シテ云々時ハ秩父古世層ニ屬シ礫質壤土ニシテ朽土ニ富ミ十度乃至四十度ノ傾斜ヲ有ス然レモ溪間ニハ五度以內ノ平坦地ト見ヘキモノ多シ
林況ハ交通不便ノ林地ナリシヲ以テ多クハ杉、檜、松、樅、榎及雜木ノ繁茂スル天然林ニシテ稍交通開ケタル箇所ハ從來ヨリ火入シツ、アリシ茫漠タル柴草山ナリシモ豫定ノ計畫ニ從ヒ二十ヶ年殖林セシ杉檜ハ約二百萬本此植栽面積約千四百町歩ニ達セルヲ以テ昔日ノ林相一變スルニ至レリ

造林計畫

無立木地ハ直チニ植栽シ立木地即天然林地ハ年々一定ノ區域ヲ劃シ用材トスヘキハ用材トシ否ヲササルモノハ薪炭材トシテ賣却シ其跡地ニ主トシテ杉檜ヲ造林セントス、尤モ所ニ依リテハ天然生種樹叢生シ相當ノ保護手入ヲナスニ於テハ完全ナル森林トナスヘキモノアリタルヲ以テ之レ等ニ對シテ天然更新法ヲ採ルノ見込ナリトス、
而シテ年々植栽セントスル本數ハ約十五萬本乃至二十萬本經費トシテ約壹萬圓内外宛チ支出スルノ豫

定ニシテ已ニ實行スル二十ヶ年ニ及ヒ尙五十ヶ年間繼續施行セントス、但シ以上ノ計畫ハ現在所有セル面積ニ向ツテノモノニシテ將來林地ノ増加スルニ從ヒ其計畫ヲ增大ナラシムル方針ナリトス

造林保護ノ方法、及其他

林地前述ノ如ク交通不便ナリシヲ以テ間伐材ノ如キ或年度迄ハ殆ント無償物ナルヘキト林地非常ニ肥沃ニシテ生育旺盛ナルヘキトニ鑑ミ一町步約二千二百本即チ七尺方形ニ植栽ス（然レモ將來ニ於テハ林地ノ狀況ニ鑑ミ尙少シク密植セントス）而シテ其方法トシテハ一般行ハル、モノト異ナル所ナク植込ニ先チ障礙トナルヘキ雜木及雜草ヲ除去シ普通四月ヨリ五月中旬迄ニ植栽ヲ結了ス植付後ハ其年ヨリ五ヶ年間ハ年一回乃至二回下刈ヲ行ヒ枯損苗木アルトキハ翌年補植シ積雪ノ爲メ苗木倒レタルモノハ雪起シテ行フ而シテ五ヶ年後ニ於テハ隔年ニ下刈其他苗木生育ニ支障アルモノヲ除キ植付後十二年乃至十五年ニ至リ第一回ノ枝打ヲ行ヒ爾後五、六年ヲ隔テ、尙二三回行フモノトス、
苗木ハ從來奈良縣吉野地方ヨリ購入セシモ其成績等ニ鑑ミ林地若クハ其附近ニ苗圃ヲ設ケ培養スルヲ以テ近來之レヲ購入スル事ナク成績又佳良ナリトス、
造林其他ニ要スル人夫ハ其地方ノモノヲ傭役スル、便宜ナルモ造林事業ニ經驗ナク從ツテ其功程及成績佳良ナラサルヲ以テ熟練ナル大和地方ノ人夫ヲ雇ヒ入レ從事セシム然レトモ將來ニ於テハ地方ノ人夫モ熟練スルニ至ルヘキヲ以テ主トシテ保護其他ノ關係上之レヲ使用セントス、現今使役スル大和人夫ハ約五十名ニシテ事業地ニ小屋ヲ建設シ之レニ居住セシメツ、アリ、
交通ハ從來至ツテ不便ニシテ造林ニ要スル諸資料ノ如キ皆人背ニ依リタレントモ近來道路ノ開鑿ノ結果林地迄殆ント荷車ノ通スルニ至レリ、

北桑田郡山國村字大野

野尻岩次郎